

宮  
崎  
県  
総  
合  
博  
物  
館  
年  
報

# 宮 崎 県 総 合 博 物 館

## 年 報

令和元年度

令  
和  
元  
年  
度

第  
四  
十  
九  
号

## はじめに

本館は、昭和 26 年に宮崎県立博物館として開館して以来、昭和 46 年の総合博物館としての組織拡充や、翌昭和 47 年からの民家園の整備、平成 10 年の常設展示室の増設をはじめとした本館のリニューアル、平成 17 年度からの常設展の無料化などを行いながら、時代の変化や県民の多様化する知的好奇心に対応した展示や多彩な教育普及活動を展開してきました。

このような中、令和元年度は、本館の空調設備改修工事により、夏の特別展を開催することができませんでした。また、3 月には全国的に新型コロナウイルスによる感染拡大が続く中、3 月 5 日から 26 日まで臨時休館を余儀なくされました。そのため、当初予定していました「博物館ひなまつり」や「民家園春まつり」の事業を中止するなど、県民の皆様に御迷惑をお掛けいたしました。

一方で、春に開催しました特別展「第 39 回 S S P 展 ～自然を楽しむ科学の眼～」や秋に開催しました「特選！蔵出し展 ～ミュージアムコレクション 2019～」は、それぞれ 1 万人を超える方々に観覧いただきました。特に、「第 39 回 S S P 展」は、過去最高の入場者数を記録しました。開催に御協力、御支援いただきました関係者の皆様に改めてお礼申し上げます。

また、本館がこれまで収集した資料や調査研究の成果をもとにした博物館講座や、展示解説員による展示解説、クイズラリー、紙芝居、むかしのあそびなど、各種催しに対し県内外の幅広い年齢層の方々に参加・活用いただきました。

さらに、地域に出向き本館の活動を紹介する「どこでも博物館」事業は、空撮映像や大型体験資料の展示のほか、県工業技術センターとの共同研究により、デザインや会場表示の充実を図ることができました。

このほか、今年度は様々な新しい取組をスタートさせました。まず、民家園の活用として、伝統文化体験事業などを行いたい団体や個人に古民家を貸し出す民家園利用事業を開始し、茶会、神楽体験、書道体験、雅楽体験等 9 件の利用実績がありました。さらに、外国人向けサービスの向上のため、多言語音声ガイドシステムの常設展示室導入や本館 1 F へのフリー W i - F i 整備、設置看板の多言語化等に取り組みました。これに加え、情報室に親子でぬり絵や絵本などを楽しめる「むーちゃん広場」を設置しました。

今後も引き続き広く県民の声を伺いながら、学校や各種団体と十分な連携を図り、県民の皆さまの楽しく開かれた生涯学習の場としての役割を果たしていけるよう、魅力ある事業と効果的な広報活動を展開して参りたいと考えておりますので、なお一層の御指導と御協力を賜りますようお願いいたします。

令和 2 年 4 月 1 日

宮崎県総合博物館

館長 黒木 義博

# 《 目 次 》

はじめに

I 基本理念と活動方針	1
1 基本理念	1
2 活動の基本方針	1
II 本館の概要	2
1 本館のあゆみ	2
2 組織・予算・施設	3
(1) 組織	3
(2) 予算	3
(3) 施設	4
3 第2期中期運営ビジョン（平成27年度～31年度）	6
III 事業の実施状況	14
1 調査研究	14
(1) 調査研究の基本的な考え方と目標	14
(2) 個別テーマ調査研究	14
(3) 水系別総合調査研究	16
(4) 調査研究報告会	17
(5) 基礎研修	18
2 資料の収集・保存	19
(1) 資料の収集	19
(2) 資料の整理・登録	22
(3) 資料の保存	23
(4) 資料の修復	23
3 展示	25
(1) 常設展示	25
(2) 特別展示	30
(3) エントランス展示・ロビー展示	33
(4) 民家園	35
(5) 利用状況	36
4 教育普及	47
(1) 学校教育支援	47
(2) 展示解説員による普及活動	50
(3) 博物館講座	52
(4) 「どこでも博物館」事業	55

(5) 民家園を活用した普及事業	56
(6) 関係機関との連携	59
(7) 福祉施設との連携	63
(8) レファレンス対応	63
(9) 博物館友の会の活動支援	64
(10) 研修室の利用	66
(11) 「むーちゃん広場」の設置	67

IV 情報発信及び経営	68
1 情報発信	68
(1) 広報推進委員会	68
(2) 博物館だより「森の通信」の発行	68
(3) ホームページ等による情報発信運用	69
(4) 博物館カレンダーの作成	69
(5) 県広報紙等への掲載	70
(6) その他の広報及びイベント	73
2 経営	77
(1) 来館者のアンケート調査	77
(2) 職員の資質向上	79
(3) 危機管理	80
(4) 県内にある博物館等との連携	82
V 宮崎県博物館協議会	83

[参考資料]

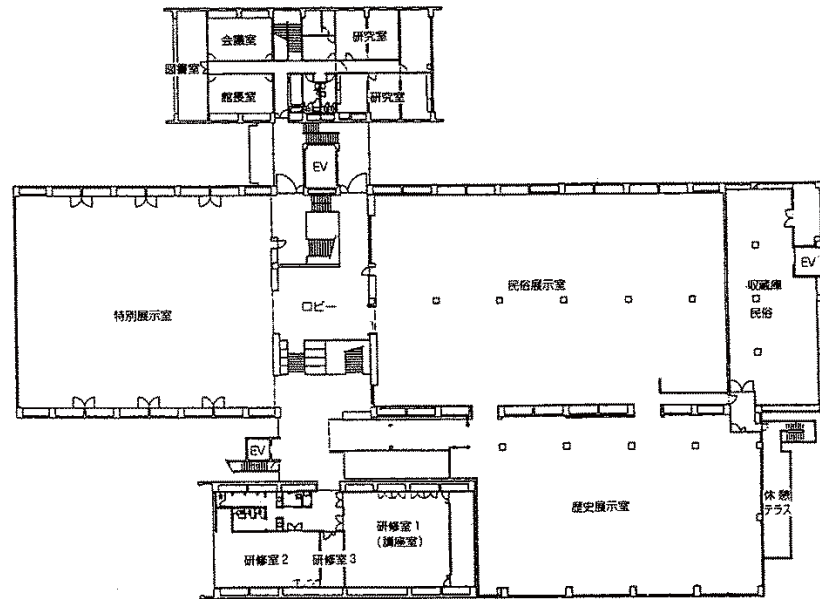
1 令和元年度 日誌抄	85
2 博物館の沿革	87
3 第2期中期運営ビジョン評価表（平成30年度分）	93
4 県総合博物館関係法規	100
(1) 宮崎県総合博物館条例	100
(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例（抄）	100
(3) 宮崎県博物館協議会条例	101
(4) 宮崎県総合博物館管理運営規則	102
(5) 宮崎県総合博物館処務規程	111
(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱	111
(7) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱の運用	114

(3) 施設

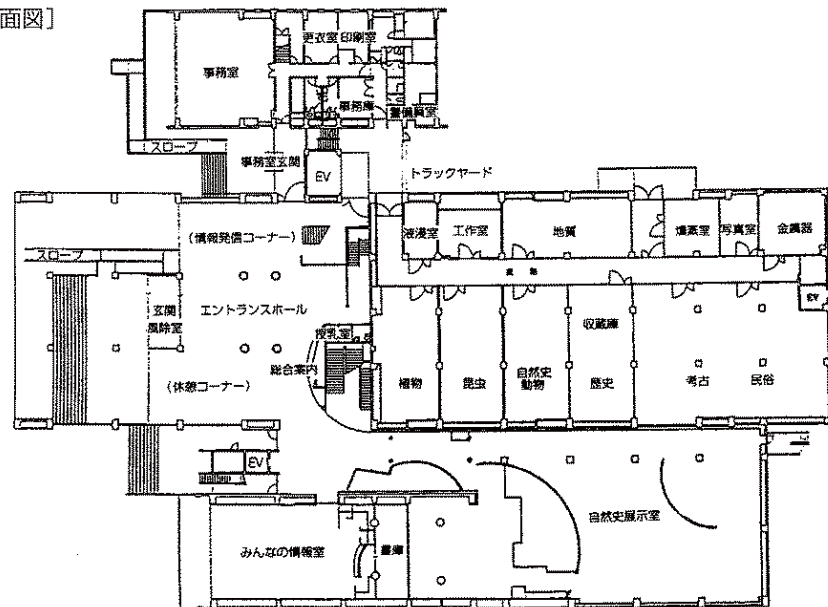
I 基本理念と活動方針

① 本館			
○ 構造	鉄筋コンクリート2階建		
○ 規模	建築面積	4,122.29 m <sup>2</sup>	
	延床面積	7,366.74 m <sup>2</sup>	
施設	常設展示室	2,645.80 m <sup>2</sup>	
	(自然史展示室)	844.20 m <sup>2</sup>	
	(歴史展示室)	767.70 m <sup>2</sup>	
	(民俗展示室)	1,033.90 m <sup>2</sup>	
	特別展示室	751.68 m <sup>2</sup>	
	その他(収蔵庫・事務室等)	3,969.26 m <sup>2</sup>	

[2階平面図]



[1階平面図]



1 基本理念

(1) 郷土に根ざした文化の向上に貢献する博物館

宮崎の自然史、歴史の資料を展示し、本県の教育や文化の発展に寄与する。

(2) 魅力ある開かれた博物館

県民のだれもが参加でき、楽しく学び、豊かな心を育てる。

(3) 研究を大切にする博物館

学術的な調査研究や積極的な資料収集を通して、新しい展示と情報の提供をする。

(4) 文化財や自然の保護に寄与する博物館

宮崎の自然史や歴史の資料を保管するとともに、本県の貴重な文化財や自然の保護に関する意識の醸成に努める。

2 活動の基本方針

(1) 調査研究

宮崎の自然史や歴史について、長期的展望にたつて調査研究をすすめ、その成果は研究紀要や調査報告書にまとめ、展示や普及活動に生かすとともに、他の博物館、教育機関、研究機関と連絡を密にして情報の交換を行う。

(2) 収集保存

宮崎の自然史や歴史について、一次資料に限らず二次資料を含め、計画的かつ長期的な視野にたつて収集する。収集した資料は、必要に応じて科学的な保存処理を行い、分類整理して保存するとともに、データベース化して収蔵資料に関する情報を提供する。

(3) 展示

常設展示室では「宮崎の自然と歴史」をテーマに、実物資料・レプリカ・模型などで新鮮で分かりやすい展示を行い、県民の幅広い層に対応できる学習の場となるよう工夫する。特別展示室では、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を開催するほか、他の関係機関と共催で行う企画展や国内外からの巡回展も計画する。

(4) 教育普及

学校や他の教育機関等と連携を保ちながら、児童・生徒をはじめ県民の幅広い層に向けて講演会・見学会・各種講座等を開催し、学習や研究の場を提供する。

## II 本館の概要

### 1 本館のあゆみ

宮崎県総合博物館は、昭和26年に設立された「宮崎県立博物館」を前身とし、昭和46年に明治百年記念事業に伴う整備事業により、考古・歴史・民俗部門に自然と美術部門を併せ持ち、県民文化ホールを併設した総合博物館として現在の地で開館した。

また、昭和47年から昭和53年にかけて、本館東側に、県内に残っていたその地域独特の建築様式を持ち文化的価値の高い民家4棟を移築復元して「民家園」として整備しており、これにより現在運営している敷地内の施設レイアウトが概ね完成した。

それから四半世紀が経過し、常設展示内容の一新の必要性、生涯学習の場としての教育普及施設としての位置づけ、さらに美術部門の分離独立構想などにより再編整備の必要性が出てきたことから、平成5年から見直しに着手し、常設展示室を中心とする大幅なリニューアル工事を施した後、平成10年5月に、21世紀に向けた文化施設にふさわしく、また楽しく開かれた体験型の博物館としてリニューアルオープンした。

この間、平成7年10月に、置県百年事業である県総合文化公園建設の一環として「県立美術館」が建設されたのを受けて、本館から美術部門が分離独立し、平成8年4月に、大規模開発に対応する発掘調査の拡大の中で、「県埋蔵文化財センター」が本館から分離独立した。また、本館の構成施設であった「西都原資料館」が平成15年9月末に閉館し、平成16年4月開館の「西都原考古博物館」に吸収されるとともに、本館構成施設の「西都原古代生活体験館」も同博物館に移管されるなどの組織改編が行われた。

その後、平成17年4月からの常設展の無料化や、平成19年3月の県民文化ホールの閉館を経て、平成21年度に、多様化する県民ニーズを踏まえ博物館事業を効率的かつ効果的に展開していく観点から、今後5カ年間の運営指針となる「中期運営ビジョン(H22-H26)」を策定し、そのビジョンに基づき、平成22年度から本県の特徴ある自然や歴史・民俗についての調査研究や、その成果を広く展示や多彩な教育普及活動に活かすなど各種事業を総合的かつ計画的に展開しており、現在は2期目の運営ビジョン(H27-H31)に基づき事業展開を図っている。



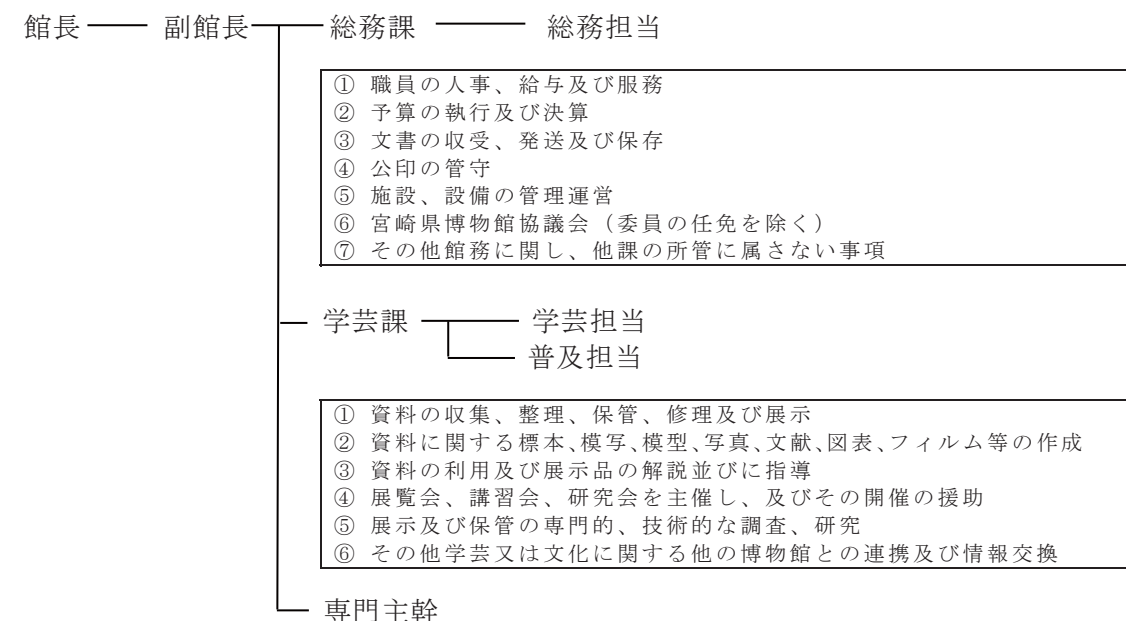
本館



民家園

## 2 組織・予算・施設

### (1) 組織



### 【令和元年度職員】

職名	氏名	職名	氏名
館長	黒木 義博	学芸課 課長	福松 東一
副館長	榎木 郁朗	学芸担当リーダー 主幹	野添 和洋
専門主幹	長峯 勝志	主査	中山 貴義
		主査	外山 真樹
		主査	濱田 真理
総務課 課長	緒方 洋	専門主事	長津 宗重
総務担当リーダー 副主任	吉留 幸二	普及担当リーダー 主幹	黒木 秀一
主任主事	篠田 利香	主査	岩切 勝彦
		主査	平松 憲太郎
		主査	竹下 隼人

### (2) 予算

#### 【令和元年度当初予算：188,407千円】

- ア 博物館費： 173,277千円**
  - ・博物館協議会費(177千円)
  - ・学芸員養成研修(233千円)
  - ・インバウンド対応事業(3,461千円)
  - ・管理運営費(129,406千円)
  - ・老朽化対策事業(40,000千円)
- イ 博物館教育普及費： 10,052千円**
  - ・特別展費(9,140千円)
  - ・博物館講座等(912千円)
- ウ 博物館資料整備費： 3,848千円**
  - ・調査研究費(1,035千円)
  - ・資料収集費(2,813千円)
- エ 文化財保護顕彰費： 1,230千円**
  - ・神楽のユネスコ無形文化遺産！県民応援事業(243千円)
  - ・博物館がやってくる！文化財活用推進事業「どこでも博物館充実事業」(987千円)

展示物が身近に感じられるよう利用者の立場に立った展示に配慮する。

また、新たな活用法や積極的な広報活動を行うために、福祉や観光等の関係機関との連携を図りながら利用者の増加に努める。

本館入館者数	80万人（年平均16万人）
民家園入園者数	25万人（年平均5万人）

1) 常設展

常設展示は、宮崎県に関する情報発信の場として、自然、歴史、民俗の3部門構成とする。展示資料については適宜見直しを検討し、部分的な展示替えやコーナー展示を行うなど、リピーターも楽しめるよう努める。

展示替等回数	年 5回
--------	------

2) 特別展

特別展示は、学芸員の調査研究の成果をまとめた独自の企画展や、県民のニーズを参考に学術的意義を踏まえながら国内外の巡回展を開催する。

実施回数	年 3回
------	------

3) ロビー展

本館エントランスロビーを活用し、時機を得た多様な展示やトピック展示を行い、県民の知的欲求に対応した情報提供に努める。

実施回数	年 12回
------	-------

4) 民家園

民家園4棟（国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟）の活用を進め、入園者増を図る。

④ 教育普及

宮崎県の自然や歴史、更に伝統文化に対する理解を深めるために、展示活動に加えて学習機会を提供する。また、学校や教育機関等との連携を図り、博物館機能の充実及び利用促進に努める。

1) 学校教育支援

平成20年に改正された学習指導要領では、教育基本法等の改正で明確となった理念を踏まえて、「生きる力」を育成することが重要視され、博物館が果たすべき役割に期待されている。そのため、学校教育を積極的に支援する。

- ・積極的に学校に資料を貸し出す。
- ・積極的に学校の授業支援を行い、博物館資料と教科等との関連資料を作成する。
- ・生徒の職場体験活動を受け入れる。
- ・教育研修センター等と連携し、教職員研修の場としての活用を図る。

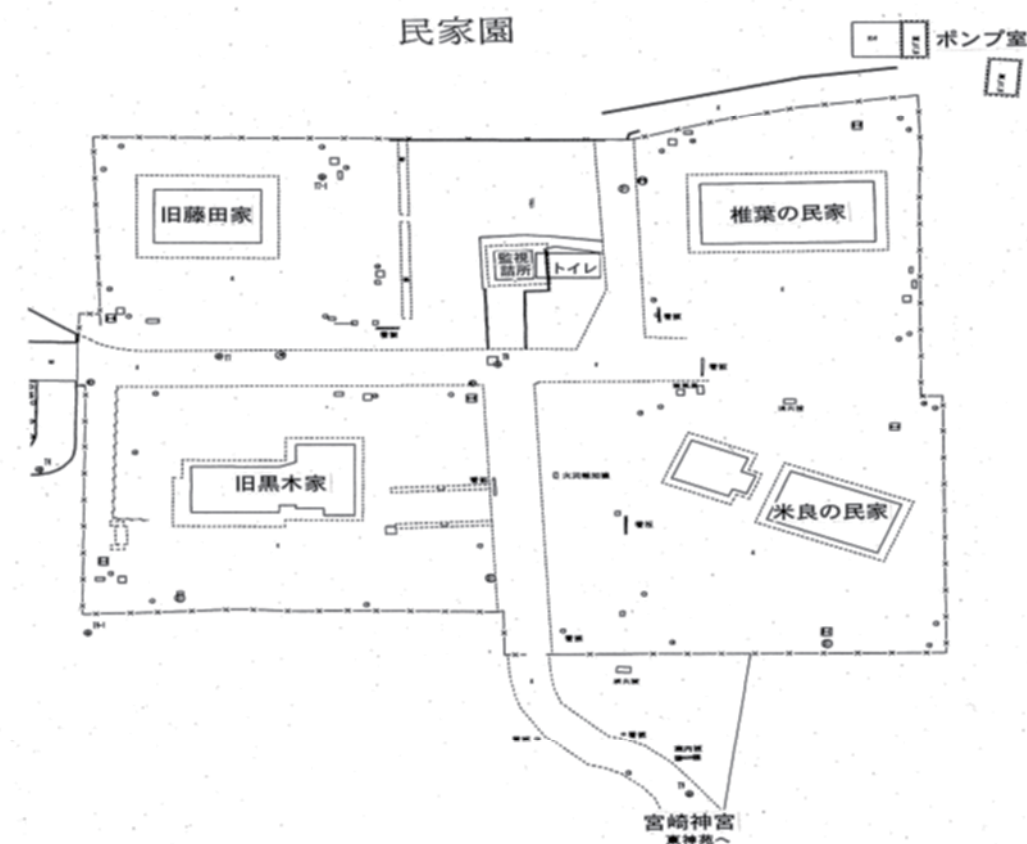
学校受入校数	年 200校
資料貸出し	年 10校
授業支援	年 10校
職場体験受入れ	年 5校
職員研修受入れ	年 5校

2) 展示解説

利用者の理解を深めるために、展示室に「展示解説員」を配置し、時代背景等分かりやすく関心を持たせるよう資料の解説を行う。

<b>② 民家園</b>	
○ 構造	木造平屋建寄棟造 茅葺（4棟）
【国指定重要文化財】	
① 旧藤田家住宅	90.44 m <sup>2</sup>
② 旧黒木家住宅	131.88 m <sup>2</sup>
【県指定文化財】	
③ 米良の民家	110.13 m <sup>2</sup>
	（本屋：78.37 m <sup>2</sup> ） （馬屋：31.76 m <sup>2</sup> ）
④ 椎葉の民家	137.97 m <sup>2</sup>
<b>③ その他</b>	
○ 屋外トイレ	70.19 m <sup>2</sup>
○ ポンプ室	24.78 m <sup>2</sup>
○ 詰所	13.25 m <sup>2</sup>

（出典：「公有財産台帳」）



### 3 第2期中期運営ビジョン（平成27年度～31年度）

#### (1) ビジョン策定の目的

宮崎県総合博物館は、昭和26年4月1日に設置された宮崎県立博物館を前身として、昭和46年3月に自然史及び人文系の総合博物館として開館した。その後、平成10年にはリニューアルを行い、広く本県の教育、文化の向上に寄与するため、資料収集・保存、調査研究、展示及び教育普及活動を展開し、学校、各種団体等との連携を深めるとともに展示解説員の配置や常設展示を無料化するなど、利用促進に取り組んでいる。

このような中、平成22年度から平成26年度までを第1期、平成27年度から平成31年度までを第2期とした宮崎県総合博物館中期運営ビジョンを策定し、目標達成に向けて事業を展開してきたところであり、今後とも、県内博物館の中核施設としての機能や教育機関としての機能を発揮し、宮崎県の自然や歴史に対する生涯学習や学校教育の多様なニーズにこたえる博物館であるために、また、事業の総合的・計画的な推進を図るための運営指針とするため、令和元年度中に第3期宮崎県総合博物館中期運営ビジョンを策定するものである。

#### (2) ビジョンの期間

平成27年度から平成31年度までの5年間

#### (3) ビジョンの基本的考え方

県民とともにある博物館を目指すために、次の4項目をビジョンの基本的考え方とする。

- ① 郷土の調査研究を大切にす博物館
- ② 魅力ある開かれた博物館
- ③ 郷土に根ざした文化の向上に貢献する博物館
- ④ 文化財や自然の保護に寄与する博物館

#### (4) 博物館運営の基本方針

ビジョンの基本的考え方の下、次の4項目を博物館運営の基本方針とする。

##### ① 調査研究

宮崎県の自然、歴史、民俗について、フィールドワークを重視し、総合的・広域的な視野に立って、他の博物館、教育機関、研究機関等と連携を密にして情報交換を行いながら、調査研究を進め、その成果を研究紀要や調査報告書にまとめ展示等の情報発信や普及活動に生かす。

##### ② 収集・保存

宮崎県の自然、歴史、民俗に関して、一次資料（実物資料）に限らず二次資料（複製物等）を含め、地域の人々の参加と協力の下で、体系的・継続的に収集する。

収集した資料及び未整理資料については、必要に応じて科学的な保存処理を行い、分類整理して保存するとともに、データベース化して収蔵資料に関する情報を提供する。

##### ③ 展 示

常設展示室では「宮崎の自然と歴史」を主題に、幅広い層の県民に対して、興味と学習意欲を喚起するように、定期的に見直しを行う設定テーマに従って、「テーマ展示コーナー（仮称）」を設け、実物資料、レプリカ、模型などで分かりやすい展示を行う。

特別展示室では、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を開催するほか、他の関係機関と共催で行う企画展や国内外からの巡回展も積極的に開催する。

##### ④ 教育普及

児童生徒をはじめ、県民の幅広い層の学校教育や生涯学習の場として、楽しく自由に学べる講演会・見学会・各種講座等を開催するとともに、相談体制機能を充実強化する。また、本県の貴重な文化財や自然の保護に関する意識の醸成に努める。

#### (5) 実施方針

(4)の基本方針を踏まえて、事務事業を推進するにあたっての方針は次のとおりとする。

##### ① 調査研究

- ・ 調査研究は、博物館事業の根幹をなす重要な活動であることから、引き続き重点的に取り組む。
- ・ 資料の内容に関する学術的な調査研究のみならず、技術的な研究も実施する。
- ・ 県内外の研究者と積極的に交流を行う。

##### 1) 調査研究方針・計画

各学芸員が専門性を生かした研究テーマを設定し、計画的に調査・研究を行う。

年間計画に対する達成率	100%
-------------	------

##### 2) 調査研究成果の公表

研究成果については、展示や教育普及活動等に生かすとともに広く県民に公表する。

研究紀要の発刊	年	1回
調査研究報告会	年	1回

##### ② 収集・保存

資料の収集・保存は博物館の最も基本的な業務である。県民共有の貴重な資料を次世代に伝えるため、宮崎県の自然や歴史に関する資料を広く収集し、整理・保存の上、館内外の活動への活用を図る。

##### 1) 収集・管理

- ・ 資料は、基本方針に基づき短期的・長期的展望にたって、寄贈、寄託、購入、採集、委託、提供等、各部門にふさわしい方法で積極的な収集に努める。ただし、寄贈等については、館内の資料受入委員会の審議を経て収集する。
- ・ 資料は、展示、調査研究、教育普及の博物館活動の充実を図る観点から、分野のバランスを考慮し継続的に収集する。
- ・ 関連書籍や文献・デジタルデータ等を収集し、調査研究機関としての機能充実を図る。
- ・ 収集資料（未整理資料を含む）の整理・登録を行い、データベース化を進めるとともに、デジタルミュージアムへの登録を随時行っていく。

資料の収集	2,500点（年平均 500点）
図書・文献の収集	5,000点（年平均 1,000点）
デジタルデータ（写真・映像等）の収集	5,000点（年平均 1,000点）
収集資料の整理・登録	4,000点（年平均 800点）
デジタルミュージアム登録数	1,000点（年平均 200点）

##### 2) 保存

定期的に収蔵庫・展示室を点検し、虫菌害の発生を防ぐ。また、虫菌害の発生を発見した場合は、速やかに適切な処置を施す。

燻蒸	年	1回
簡易燻蒸	年	1回
トラップ調査	年	12回
I P Mウオッチング	年	12回

##### ③ 展 示

展示は、見る人に興味を持たせ、発見・驚き・感動を与えたり、豊かな感性を育んだり、自ら学ぶ意欲を育てるなど、博物館を最も特徴づけるものである。県民の幅広い年代の要求に対応するとともに、

【第2期中期運営ビジョン評価基準表】

方針	項目	評価指標				評価基準				評価				総合				
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4					
④ 教 育 普 及	1) 学校教育支援	学校受入校数	年200校	年10校	年10校	年5校	年5校	年10,000人	15,000人以上	10,000人以上	8,000人以上	8,000人未満	学校教育支援には取り組みがなかった。	4	3	2	1	
		資料貸出し	年10校	年10校	年10校	年5校	年5校	年10,000人	15,000人以上	10,000人以上	8,000人以上	8,000人未満	学校教育支援には取り組みがなかった。	4	3	2	1	
	2) 展示解説	授業支援	年10校	年10校	年10校	年5校	年5校	年10,000人	15,000人以上	10,000人以上	8,000人以上	8,000人未満	学校教育支援には取り組みがなかった。	4	3	2	1	
		職場体験受入れ	年5校	年5校	年5校	年5校	年5校	年10,000人	15,000人以上	10,000人以上	8,000人以上	8,000人未満	学校教育支援には取り組みがなかった。	4	3	2	1	
	3) 博物館講座等	職員研修受入れ	年5校	年5校	年5校	年5校	年5校	年10,000人	15,000人以上	10,000人以上	8,000人以上	8,000人未満	学校教育支援には取り組みがなかった。	4	3	2	1	
		実施人数	年10,000人	年10,000人	年10,000人	年10,000人	年10,000人	年10,000人	15,000人以上	10,000人以上	8,000人以上	8,000人未満	学校教育支援には取り組みがなかった。	4	3	2	1	
	4) 民家園の活用	主催講座(地域講座含む)	年30回	年30回	年30回	年30回	年30回	年30回	年30回以上、2,000名以上	計30回以上、1,500名以上	計25回以上30回未満	計25回未満1,000名未満	計25回未満1,000名未満	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1
		地域講座	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1
	5) 関係機関との連携	受講者数	年1,500人	年1,500人	年1,500人	年1,500人	年1,500人	年1,500人	年1,500人以上	10,000人以上	8,000人以上	8,000人未満	学校教育支援には取り組みがなかった。	4	3	2	1	
		民家園まつり	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1
	6) 博物館と福祉施設との連携	伝統芸能公演	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1
		宮崎の昔話公演	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1
7) レファレンス対応	その他の催事	年6回	年6回	年6回	年6回	年6回	年6回	年6回	年6回	年6回	年6回	年6回	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1	
	職員派遣・招聘	年20件	年20件	年20件	年20件	年20件	年20件	年20件	年20件	年20件	年20件	年20件	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1	
8) 研究発表会の開催	資料の貸し借り	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1	
	研究会への参画	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	年200件	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1	
9) 博物館友の会の連携	共催事業等	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1	
	施設受入件数	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1	
10) 研究発表会の開催	相談件数	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	年1,000件	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1	
	研究発表会	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	各評価指標の目標値を達成できなかった。	4	3	2	1	

また、専門的知識を持つ学芸員は、学術的な解説を行う。更に、より深く学習を望む利用者には、関係機関の情報を提供するなど学習意欲を喚起させる。  
 なお、解説に際しては、個人、団体を問わず、資料提供地域に重点をおいた解説に考慮するなど、利用者の興味や関心を引き出すよう配慮する。

実施人数	年 10,000 人
------	------------

3) 博物館講座等  
 博物館講座や特展に関する講座などを開催し、自然や歴史・文化に関する多様な体験・学習の機会を提供する。また、県央地区以外でも講座を開催（地域講座）し、多くの県民が講座に参加できるようにする。

主催講座(地域講座含む)	年 30 回
地域講座	年 10 回
受講者数	年 1,500 人

4) 民家園の活用  
 民家園の利活用を推進するため、特性を生かしたサービス活動を充実させる。また、民家園の理解促進を図る観点からボランティアの活動の充実を図る。

民家園まつり	年 1 回
伝統芸能公演	年 1 回
宮崎の昔話公演	年 10 回
その他の催事	年 6 回

5) 関係機関との連携  
 宮崎県の中核博物館として、県内外の博物館や資料館、研究機関等との連携を図るため、職員の派遣・招聘、資料の貸し借り、研究会への参画、共催事業の開催など積極的に対応する。

職員の派遣・招聘 資料の貸し借り 研究会への参画 共催事業 等	年 20 件
--	--------

6) 博物館と福祉施設との連携  
 回想法などの取組を通して社会福祉施設等との連携を図る。

施設受入件数	年 200 件
--------	---------

7) レファレンス対応  
 県民の知的要求に応えるためには、来館者のみならず電話やメールでの相談に応じることは重要である。日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも、何にでも相談にのれる博物館」としての定着を図る。

相談件数	年 1,000 件
------	-----------

8) 研究発表会の開催  
 自然や歴史に関する調査研究の中核施設として、研究団体や研究者の研究活動の支援を行うとともに、県民に学習の機会を提供し、自然や歴史の関心を高めるための研究発表会を開催する。

研究発表会	年 1 回
-------	-------



9) 博物館友の会との連携

博物館活動の支援を目的として自主活動している「博物館友の会」については、講師の派遣や活動の補助に努めるとともに、互いの活動の充実を目指し連携を図る。

講師派遣(博物館→友の会)	年 5回
講座の支援(友の会→博物館)	

⑤ 情報発信

博物館活動を充実させるためには、利活用の促進が重要である。そのため、館内での「広報推進会議」で、広報効果の検証や検討を随時行いながら、情報発信機能を強化する。

1) 情報発信の充実

博物館の展示会や講座等のみならず、博物館に関するあらゆる情報を、広報紙をはじめ様々なメディアを通じて積極的に発信する。

広報紙発行	年 2回
報道処理・情報提供件数	年 120件

2) ホームページの充実

インターネットによる情報発信を推進するため、ホームページによる適時の情報提供に努める。

更新回数	月 5回
アクセス数	年 500,000件

⑥ 経営

博物館は教育機関であるとともに、サービス機関であることを念頭に置き、全職員が「おもてなしの心」を持って利用者に対応するとともに、研修の充実等により職員の資質向上を図る。

1) 博物館協議会や県民の意見の尊重

博物館の運営に関し内部評価を実施し、宮崎県博物館協議会から意見を聴取する。また、来館者のアンケートや利用者の電話等による様々な意見を真摯に受け止め、より良いサービスが提供できるよう努める。

アンケート収集件数	年 2,000件
満足度	70%

2) 職員の資質向上

職員が博物館の社会的役割を自覚し、宮崎県の「自然や歴史に関する唯一の総合博物館」としての機能の充実・向上を図るために、研修機会の確保に努める。

3) 危機管理体制の強化

地震等の自然災害や火災・病人発生等の危機に対して迅速に対応するため、防災訓練を実施するなど危機管理体制の強化を図る。

防災訓練	年 2回
------	------

⑦ その他

1) ビジョンの見直し

本ビジョンは本県財政計画の変更や組織改編などの財源や定数等に変更が生じた場合には、必要に応じて見直すものとする。

【第2期中期運営ビジョン評価基準表】

方針	項目	評価指標	評価基準				総合
			4	3	2	1	
① 調査研究	1) 調査研究方針・計画	達成率	6部門において概ね計画通り実施できた。	100%	1	全体的に十分な調査が行えなかった。	1・2・3・4
	2) 調査研究成果の公表	研究紀要の発刊 調査研究報告会	多くの論文が掲載された。またその内容も本果の自然・歴史・博物館学の説明に貢献するものであった。 報告者、参加者とも多く、所期の目的を十分に達成できた。	年1回 年1回	2 3	本果の自然・歴史・博物館学の説明に貢献するものはやや少なかった。 報告者、参加者とも少ないうまく、所期の目的を十分に達成できなかった。	
② 収集・保存	1) 収集・管理	資料	資料・図書文庫・デジタルデータ・資料の登録・デジタルデータ・資料の登録・デジタルデータ・資料の登録が合計2,500点以上。もしくははややそれ以下だが、貴重な資料を収集した。	2,500点 5,000点	4	資料・図書文庫・デジタルデータ・資料の登録・デジタルデータ・資料の登録が合計2,500点未満で、特筆するような資料はなかった。	1・2・3・4
		図書・文献	資料・図書文庫・デジタルデータ・資料の登録・デジタルデータ・資料の登録が合計2,500点以上。もしくははややそれ以下だが、貴重な資料を収集した。	年平均 1,000点 年平均 1,000点			
③ 展示	2) 保存	燻蒸	すべての評価指標を達成した。更にはトラップ調査・IPMワッチングにおいて虫害が発生する危険性を著しく抑制した。	年1回 年1回 年12回 年12回	4	いくつかの目標値は達成できなかったが、収蔵庫の燻蒸などの重要な部分は実施した。日常的な点検も実施した。	1
		簡易燻蒸(殺虫処理)	資料・図書文庫・デジタルデータ・資料の登録・デジタルデータ・資料の登録が合計2,500点以上。もしくははややそれ以下だが、貴重な資料を収集した。	年1回 年1回 年12回 年12回			
③ 展示	入館者数	本館入館者数	資料・図書文庫・デジタルデータ・資料の登録・デジタルデータ・資料の登録が合計2,500点以上。もしくははややそれ以下だが、貴重な資料を収集した。	18万人以上	4	10万人未満	1
		民家園入園者数	資料・図書文庫・デジタルデータ・資料の登録・デジタルデータ・資料の登録が合計2,500点以上。もしくははややそれ以下だが、貴重な資料を収集した。	年平均 16万人 年平均 25万人			
③ 展示	1) 常設展	展示替等回数	中期的な展示計画や年間の展示計画を策定し、年5回以上実施した。また、県民や利用者との幅広い年代の要求に対応し、展示物が身近に感じられるよう観覧者の立場に立った効果的な展示を行うことができた。	年5回	4	展示内容の見直しや展示替等は3回未満の実施となり、目標には達しなかった。	1
		展示回数	中期的な展示計画や年間の展示計画を策定し、年3回以上実施した。また、入館者数も多くアンケート等からも極めて高い評価を得た。	年3回			
③ 展示	2) 特別展	実施回数	中期的な展示計画や年間の展示計画を策定し、年3回以上実施した。また、入館者数も多くアンケート等からも極めて高い評価を得た。	年12回以上	4	十分な展示会が実施できなかった。	1
		実施回数	中期的な展示計画や年間の展示計画を策定し、年3回以上実施した。また、入館者数も多くアンケート等からも極めて高い評価を得た。	8回以上			
③ 展示	3) ロビー展	実施回数	中期的な展示計画や年間の展示計画を策定し、年3回以上実施した。また、入館者数も多くアンケート等からも極めて高い評価を得た。	12回以上	4	8回未満	1
		実施回数	中期的な展示計画や年間の展示計画を策定し、年3回以上実施した。また、入館者数も多くアンケート等からも極めて高い評価を得た。	8回以上			

**(3) 水系別総合調査研究**

近年の開発や社会生活の変化などにより、私たちを取り巻く自然や人々の生活習慣が失われてきていることから、これらの貴重な自然や歴史に関する資料を記録に残すため、県内のエリアを設定して、動物・植物・地質・考古・歴史・民俗の6部門において、総合的かつ横断的な調査研究を行っている。自然環境の形成や人の営みの基本となる水系に着目して、平成27年度から県内の一級河川を対象にした総合的な調査研究を実施しており、平成27年度から30年度は小丸川水系に着目した調査研究を進めている。令和元年度は調査報告を研究紀要第40輯に掲載した。

**① 【小丸川水系総合調査（平成27年度～平成30年度）】**

部門	研究テーマ	内 容
動物	小丸川水系の動物相	小丸川水系の上流・中流・下流にポイントを置き、生息する動物の生息状況・分布等を把握する。
植物	小丸川水系の植物相	小丸川水系の河川区域の標本収集と分布を記録することで水系を中心とした植物相を解明する。
地質	小丸川流域の地質	小丸川水系がつくる地形、河岸や河床の露頭、河床礫などを流域内で調査する。小丸川流域の閉山した鉱山に関する資料の収集・整理・保存も行う。
考古	小丸川水系の弥生時代から古墳時代の遺跡の動態	小丸川水系の弥生時代から古墳時代の遺跡の報告書を集成し、集落と墓地から時期ごとの様相を明らかにする。
歴史	近代の用水開発	小丸川水域をフィールド調査するとともに、石碑の碑文、藩政資料・行政資料等をもとに用水開発の歴史を明らかにする。
民俗	川の道～小丸川を通してみた人々の暮らし～	小丸川が流域に暮らす人々の生活にどのような影響を与えていたのか、流域に住む人々の習俗等の聞き取りをもとに明らかにする。

**② 令和元年度総合調査研究の報告書**

本館では、平成27年度から30年度は小丸川水系に着目した調査研究を進めている。令和元年度はこの成果として11論文を研究紀要第40輯に掲載した。

著者	部門	題 目
福島英樹・外山真樹・竹下隼人・横倉康浩	動物	宮崎県の小丸川流域における鳥類の生息状況
福島英樹・外山真樹・竹下隼人・横倉康浩	動物	宮崎県の小丸川流域における哺乳類の確認状況
横倉康浩・外山真樹	動物	宮崎県の小丸川流域における両生類・爬虫類の生息状況
岩切勝彦・斉藤政美・福松東一・黒木秀一	植物	小丸川流域にみられる植物
中山貴義・流田勝夫・宍戸 章・濱田真理・松田清孝	地質	小丸川の流路分析～中流域の顕著な蛇行について～
長津宗重	考古	小丸川下流域における遺跡の動態～弥生時代から古墳時代前期～
榎木郁朗	歴史	近代における小丸川の用水路開削事業～広谷川用水路調査報告～

【第2期中期運営ビジョン評価基準表】

方針	項目	評価指標		評価基準				総合
		1)情報発信の充実	2)ホームページの充実	3)博物館協議会や県民の意見の尊重	4)職員の資質向上	5)防災訓練の強化	6)経 営	
⑤ 情報発信	1)情報発信の充実 2)ホームページの充実	年2回	年120件	年5回	年500,000件	年2,000件	70%	1・2・3・4
		広報紙発行 報道処理・情報提供件数	更新回数	アクセス数	アンケート収集件数 満足度			
⑥ 経 営	1)博物館協議会や県民の意見の尊重 2)職員の資質向上 3)防災訓練の強化	2回以上、200件以上	更新回数8回以上、かつアクセス数1,000,000件以上	2回以上、120件以上	更新回数5回以上、かつアクセス数500,000件以上	2回以上、80件以上	2回未満、80件未満	1・2・3・4
		2,000件以上90%以上	2,000件以上70%以上	2回以上、120件以上	更新回数5回以上、かつアクセス数500,000件以上	2回以上、80件以上	2回未満、80件未満	1・2・3・4

### Ⅲ 事業の実施状況

#### 1 調査研究

##### (1) 調査研究の基本的な考え方と目標

###### ① 調査研究の基本的な考え方

当博物館の基本理念及び活動の基本方針に基づき、特に次の点に留意している。

- ア 県民に還元できるものであること。
- イ 本館の設立目標に沿ったものであること。
- ウ 将来展示等に活かされるものであること。
- エ 科学的・客観的なものであること。

###### ② 調査研究の目標

ア 館共通

宮崎の自然史と歴史に関する調査研究を行う。

イ 分野別

自然史分野：宮崎の自然に関する基礎研究を行う。

歴史分野：歴史・民俗を通してみる郷土の伝統と地域性の研究を行う。

##### (2) 個別テーマ調査研究

各部門の担当職員が、研究テーマを年度当初に設定し、単年度又は複数年度で計画的に調査研究を進めている。その成果については、研究紀要で報告するとともに、展覧会に反映させるなど、広く公開している。

###### ① 令和元年度の個別研究テーマ

担当者	部門	研究テーマ	内 容	期間
外山真樹	動物	宮崎県内における淡水産貝類の生息分布について	県内の用水路・河川をフィールドとして、特にイシガイ目の分布状況を中心に、淡水産貝類について調査する。	5年
		宮崎県内におけるヤドカリ目の生息分布調査	県内の海岸に生息するヤドカリについて、種の把握を行うとともに、特に天然記念物であるオカヤドカリについて、生息分布を詳細に調査する。	5年
竹下隼人	動物	ササラダニによる環境診断の可能性について	ササラダニの種別生息分布を調べ、実際の環境と比較・調査することで、環境指標生物として利用できるか考察する。	3年
黒木秀一	植物	宮崎平野南部における照葉樹林の菌類相について	宮崎平野南部の菌類相を明らかにし、人里に近い環境に残る本県の菌類多様性の解明を進める。	3年
岩切勝彦	植物	県内におけるヒキヨモギとセイヨウヒキヨモギの分布について	文献調査と本館所蔵の標本確認を中心に基礎情報を把握した上で現地調査を行い、標本とデータの収集を行う。	4年
		博物館における展示活動に関する研究	県工業技術センターの企画・デザイン部と共同研究に関する協定を結び、どこでも博物館事業をはじめ、博物館全般における展示活動に向けた取り組みを行う。	1年

福松東一	植物	アスター属（キク科）の県内分布について	①コヨメナ、②ミヤマヨメナ、③オオバヨメナの標本等によるこれまでのデータ収集、採集標本の種の同定及び分布調査を行う。	3年
中山貴義	地質	小丸川流域の流路分析	小丸川の流路についてフーリエ分析による数値解析を行い、特徴を見だし、フィールド踏査によって現地の露頭の堆積物から特徴を検証する。	1年
濱田真理	地質	宮崎県内の変成岩	変成岩標本の充実のため、研究論文や地質図などの文献調査を行い、現地調査、標本採取、収蔵資料の整理を行う。	4年
長津宗重	考古	小丸川水系の弥生時代から古墳時代の遺跡の動態	弥生時代から古墳時代の集落（居住域）や墓制（墓域）の規模（拠点と周辺）、階層的格差、立地、消長（変遷）に着目して小丸川水系の遺跡の動態を明らかにする。	3年
榎木郁朗	歴史	近世・近代における宮崎県の災害に関する研究	火山及び地震による被害に焦点を当て、古文書や近代以降の記録を繙きながら各災害の状況を明らかにする。	2年
平松憲太郎	歴史	都城島津家の影響力について	近世の日向国は小藩分立で、都城島津領は本家薩摩藩の私領として独立的な政治を行っていた。都城島津家の支配力や伝統について調査することで、新たな都城島津家の魅力を考察する。	3年
野添和洋	民俗	宮崎県の神楽に関する研究	神楽の神事や演目等に焦点を当てて、県内全域の神楽の特色を分布的に明らかにする。	3年

###### ② 令和元年度調査研究の報告書

本館では、調査研究の成果をとりまとめ広く公表するため、昭和47年度から研究紀要を発行している。令和元年度は第40輯<sup>しゅう</sup>を発行した。

###### 【宮崎県総合博物館研究紀要 第40輯】

著者	部門	題 目
外山真樹	動物	宮崎県内で確認されたイシダイ目二枚貝の生息記録①
竹下隼人・西 郁雄	動物	宮崎県串間市におけるスイショウガイの記録
竹下隼人	動物	ササラダニ類を用いた環境診断
山本好和・黒木秀一・岩切勝彦・盛口 満・松本美津・八木真紀子	植物	宮崎県宮崎市加江田溪谷および日南市猪八重溪谷の地衣類 補遺
野添和洋	民俗	【研究ノート】 みやざきの神楽について（二） —神迎え・神送りに関する神事・演目—
岩切勝彦・黒木秀一・平松憲太郎・関屋千草・西原玲子・布施郁子	教育普及	博物館活動におけるデザインの工夫
濱田真理	教育普及	事業報告「2019みやはく夏イベント」

ウ 地質

資料名	点数 (点)	収集方法
県内産化石標本	683	寄贈
県内産鉱物標本	3	採集
県外産球状コンクリーション	8	採集
県内産球状コンクリーション	4	採集
哺乳類剥製標本	2	寄贈・製作
計	700	

エ 歴史

資料名	点数 (点)	収集方法
大正～昭和期の教育関係資料	12	寄贈
C・A・クラーク関連写真	15	寄贈
黒木親慶関係資料	309	寄贈
三脚	1	提供
8mmカメラ(NIKON R10 Super)	1	提供
ロールテープスライサー(LPL S-8R)	2	提供
フィルムエディター(編集機)	1	提供
芸妓(写真)	49	提供
計	390	

オ 民俗

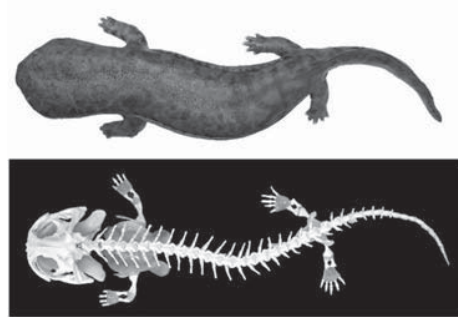
資料名	点数 (点)	収集方法
宮崎ロクロ工芸品	2	移管
都城焼	2	移管
紅溪石硯	1	移管
絵皿	1	移管
かるい	1	移管
法華岳うずら車	6	移管
久峰うずら車	9	移管
佐土原人形(饅頭食い)	1	移管
大漁旗	2	移管
都城弓	1	移管
計	26	

※主な新収蔵資料

【動物部門】

○オオサンショウウオ

国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオは、全長が50cm～140cmと大型のサンショウウオで、岐阜県以西の本州、四国、九州の一部に分布する。宮崎県では、高千穂町、日之影町で確認された記録があるが、その後、繁殖生息の確認はない。本標本は、小林市の施設である「出の山淡水魚水族館」において平成12年から飼育されていた個体で、全長116cm、体重16.4kgとかなり大型の個体であった。オオサンショウウオの剥製及び骨格標本を共に所有する関係機関は少なく、大変貴重な標本である。



オオサンショウウオ剥製・骨格標本

初木郁朗	歴史	戦時体制下の地域開発 ～小丸川総合開発事業をめぐって～
那賀教史	民俗	川と向き合って生きる人々 ～小丸川の交流・交易と交通の視点から～
地村光広	民俗	川の道 小丸川をとおしてみた人々の暮らし ～川漁と食の視点から～
小山 博	民俗	小丸川上流域の年中行事・信仰について

(4) 調査研究報告会

毎年度、総合調査研究や個別テーマ調査研究などの状況報告と、学芸課職員の専門性の向上を図る目的で、調査研究報告会を実施している。令和元年度は、学芸課職員及び副館長が、調査研究の成果や中間報告、教育普及について報告した。当館職員の他、博物館協議会委員、他の文化施設の職員などが出席した。

実施日時：令和2年3月3日(火)

10:40～15:10

実施場所：本館 研修室1

参加者：29人



【報告者・発表題目一覧】

報告者	部門	発表題目
初木郁朗	歴史	戦時下の小丸川総合開発事業の認可をめぐって ～内務省・逓信省と宮崎県の関係～
平松憲太郎	歴史	江戸時代の日向国～小藩分立～
野添和洋	民俗	みやざきの神楽について(二) ～神迎え・神送りに関する神事・演目～
外山真樹	動物	近年話題となった希少節足動物について ～ヨネズゲンシ?ヒラガゲンナイ?いやいやヒラズゲンセイ～
竹下隼人	動物	ササラダニ類を用いた環境診断
岩切勝彦	教育普及	博物館活動におけるデザインの工夫 ～どこでも博物館事業を中心に～
黒木秀一	植物	青島の光るきのこ「エナシラッシタケ」について
福松東一	植物	宮崎の野菊 その2
濱田真理	地質	南九州の火山灰～博物館講座の内容から～
中山貴義	地質	小丸川の流路分析 ～中流域の顕著な蛇行について～
長津宗重	考古	小丸川下流域における遺跡の動態 ～弥生時代から古墳時代前期～

## (5) 基礎研修

学芸課の職員は、着任すると同時に専門的な業務や問い合わせ等に対応するとともに、調査研究を行わなければならない。そのため、総合博物館では、自然史・歴史の各部門（植物・動物・地質・考古・歴史・民俗）の担当者として必要な基礎的な知識や技術を習得し、写真撮影技術などの基礎力を高める基礎的な研修（基礎研修）を行う機会を設けている。

基礎研修は、学芸課の職員がそれぞれ計画し、個人あるいは複数の職員で、部門を超えて協力しながら実施する。そして、標本の採集、資料の収集、史蹟調査、写真撮影、研究会への参加などを行い、成果を報告するとともに、収集した資料や写真データを保存している。

## 2 資料の収集・保存

県民のかけがえのない財産である文化財等の資料を、適切に収集・研究して本県の真の姿を明らかにするとともに、未来に向けて恒久的な保存を図ることは博物館の基本的な業務である。このため、本館では、宮崎の自然史や歴史に関する資料を、計画的かつ長期的な視野に立って収集するとともに、これらの収集資料を、分類整理・登録を行った上で、適切な保存に努めている。

### (1) 資料の収集

各部門の収集方針を設定し、その方針に沿って、採集、購入、寄贈、交換、寄託、製作、提供、移管などの方法により収集作業を行っている。特に、寄贈や寄託による資料の受入れに際しては、受入れの可否等を慎重に検討する観点から、関係職員で構成する「資料受入委員会」で審査することとしている。

#### ① 令和元年度に収集した資料 収集数計 2,101 点

##### ア 動物

資料名	点数（点）	収集方法
宮崎県産ハチ目乾燥標本	292	寄贈
宮崎県産ハナバチ類標本	62	寄贈
カモシカ剥製標本	1	採集・製作
カモシカ骨格標本（全身）	1	採集・製作
ヤマネ剥製標本	1	提供・製作
オオサンショウウオ剥製標本	1	採集・製作
オオサンショウウオ骨格標本	1	採集・製作
アオウミガメ剥製標本	1	提供
タイマイ剥製標本	1	提供
アカウミガメ骨格標本（頭骨）	2	採集
アカウミガメふ化個体液浸標本	1	採集
カモシカ骨格標本（頭骨）	1	採集
計	365	

##### イ 植物

資料名	点数（点）	収集方法
南谷忠志氏植物標本	91	寄贈
植物さく葉標本	521	採集
キクラゲレプリカ	1	購入
サンコタケレプリカ	1	購入
バカマツタケレプリカ	1	購入
ヒラタケレプリカ	1	購入
ホンシメジレプリカ	1	購入
ハナオチバタケレプリカ	1	購入
ムラサキシメジレプリカ	1	購入
ニオイコベニタケレプリカ	1	購入
計	620	

きのこのレプリカでは、キヌガサタケの補修を行った。キヌガサタケは竹林に発生するきのこで、県内での発生は稀なきのこである。照葉樹林に発生するウスキキヌガサタケはマントが黄色であるが、キヌガサタケは白色をしている。本レプリカは昭和63年度に製作された資料で、マントの色あせや幼菌に亀裂が入るなどの経年劣化が起こっていたため、全体の色を塗り直し、上部のグレバや根元の幼菌の取り替えを行った。



キヌガサタケ

【地質部門】

平成30年度に収集し本館正面の芝生広場に屋外展示している大型球状炭酸塩コンクリーション3点の案内板を作成・設置した。球状コンクリーションに合わせて、説明板の形状を円形にした。



仮案内板（写真右下）

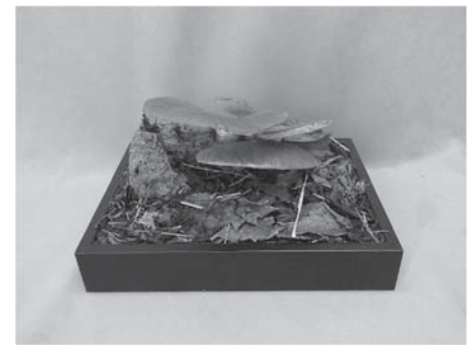


今年度設置した案内板

【植物部門】

○ヒラタケ

ヒラタケは、冬に広葉樹の倒木に発生するきのこである。県内ではフユ（冬）キノコ、カン（寒）ナバなどと呼ばれ、冬に出るきのことして広く食用として利用され、市販もされている身近な種類である。平らなきのこであることから、「カタヒラナバ」と呼ぶ地域も多い。倒木を分解する代表的なきのこであり、毒きのこで知られるツキヨタケにも似ていることから、毒きのこを学習する際の比較としても活用できる資料である。



ヒラタケ（レプリカ）

【地質部門】

○五ヶ瀬町祇園山産床板サンゴ類化石及び、川南町伊倉浜海棲古生物化石

岡山清英氏（宮崎化石研友会長）が五ヶ瀬町鞍岡祇園山及び川南町伊倉浜で採集した化石コレクションである。祇園山の床板サンゴを含む化石群は「シルル―デボン紀化石群」として日本地質学会の「宮崎県の石（化石）」に選定されている。祇園山産のコレクションには日石サンゴやクサリサンゴ、ハチノスサンゴ、ウミユリ、ハマミナナウマウニなどが含まれる。また伊倉浜産のコレクションにはクジラ類、硬骨魚類、カニや貝化石などが含まれる。クリーニング及び保存状態が良好な標本が多く、展示等へ活用できる資料である。



アマダイのなかまの化石

【歴史部門】

○黒木親慶関係資料

本資料は、黒木親慶が身に付けていた軍服や使用していた旅行鞆、講演記録、飯野村役場事務引継書や多数の写真などである。黒木親慶は、明治16年（1883年）に宮崎県西諸県郡大河平村（現えびの市）に生まれた。ロシア従軍武官を勤め、ロシア革命を経験し、シベリア出兵の際には、親日派の軍人グレゴリー・ミハイロヴィッチ・セミョーノフの軍事顧問として活躍した。その後、陸軍を退職し、えびの市に戻った。これらの資料は、親慶の行動や人脈を知ることができる資料群であり、また、地元飯野村の資料も含まれ、郷土資料としての側面も持ち合わせている。1910年～20年代の日本の対露外交の解明に寄与できる貴重な資料群である。



黒木親慶関係資料

【民俗部門】

○宮崎県伝統工芸品（大漁旗、都城弓など）

本資料は、都城弓など宮崎県伝統工芸品を宮崎県オールみやざき営業課から移管するものである。毎年8月に2階ロビーにおいて宮崎県伝統工芸品のロビー展示を開催しており、今回の移管資料もこれまでの収蔵資料に合わせて展示したい。

また、今回の移管資料は提供として登録はせず、体験的な活動にも使用できるものとする。



大漁旗

② その他の資料

ア 図書・文献等の収集

本館では、調査研究、展示、教育普及などの諸活動に必要な関連図書や文献、雑誌の収集を行っており、その大半は全国の博物館等施設や研究機関及び研究者等からの寄贈により受け入れている。令和元年度は1,045点を収集した。

イ デジタルデータの収集

本館では、調査研究等を行う際にデジタルカメラにより撮影した写真や、本館が所蔵する資料を学芸課職員又は業者の撮影により得られた写真・動画を、デジタルデータとして収集し、調査研究、資料リストの作成・登録、デジタルミュージアムへの掲載、他施設への提供などの際に使用している。令和元年度は2,218点を収集した。

(2) 資料の整理・登録

① 資料の登録数

収集した資料は、保存と活用を目的に分類・整理し登録を行っている。令和元年度は3,947点の登録を行った結果、これまでに登録まで完了した資料は14万7,764点となった。

(令和2年3月31日)

分野・部門	資料数	令和元年度登録資料数(点)	登録資料数(点)	内訳		
				実物	標本	模型(複写)
自然史	動物	2,599	63,375	0	2,599	0
	植物	620	58,136	0	612	8
	地質	716	6,187	0	716	0
	計	3,935	127,698	0	3,927	8
歴史	考古	0	1,689	0	0	0
	歴史	12	5,334	12	0	0
	民俗	0	12,927	0	0	0
	計	12	19,950	12	0	0
美術*	古美術(刀剣類など)	0	107	0	0	0
	近代美術(彫刻屋外展示など)	0	9	0	0	0
	計	0	116	0	0	0
総計		3,947	147,764	12	3,927	8

\*美術品は本館に美術部門があった時から収蔵している資料。平成7年の県立美術館設置の際、刀剣類と屋外に展示している彫刻は移管されずに、そのまま本館の資料となった。

\*内訳は統計法に基づく博物館調査票の項目

② デジタルミュージアムへのデータ登録

県教育庁文化財課が平成14年度から運営するサイト「みやぎきデジタルミュージアム」は、県内の文化や歴史に関する情報をデジタル化し、一元的なデータ整理・管理を行うとともに、インターネットにより広く地域や時間に偏りなく情報を提供することにより、郷土の文化に誇りを持つ人材の育成や観光振興、国際交流の促進に資することを目的に構築されたもので、本館をはじめ、県立美術館、県埋蔵文化財センター、県立西都原考古博物館が収蔵する資料の情報とデジタルデータを掲載している。本館は、令和元年度に208件の登録を行った。

(3) 資料の保存

資料の恒久的な保存を図るため、本館では、全職員で定期的な点検と清掃を行うことにより文化財に悪影響を及ぼす虫菌害を未然に防ぐI P M活動を基本としながら、薬剤による管理を補完的に行っている。

① I P Mウオッチング

虫菌害の発生の有無を調べ、資料保存に適した環境に改善するために、全職員による定期的な点検を行うとともに、点検結果を回覧し、情報の共有化を図った。

- ・点検場所…展示室・収蔵庫・エントランス・研修室・管理棟など
- ・実施回数…年12回

② モニタリング(トラップ調査)

害虫の侵入及び発生状況を把握するため、粘着トラップを設置するとともに、捕獲した害虫の同定及び分析したものを報告書にて職員に周知した。

- ・設置場所…展示室・収蔵庫・エントランス(計80か所)
- ・実施回数…年12回

③ 収蔵庫内の目視・清掃

I P M活動の一環として、収蔵庫内の環境を適切に保ち、資料の状態を確認することを目的に、毎月1回計画的に学芸課職員による目視・清掃を実施した。

- ・実施回数…年12回

④ 薬剤による管理

実施月	場所	備考
9月	収蔵庫	ガス燻蒸
	常設展示室	簡易燻蒸(殺虫等処理)
3月	移動燻蒸車	ガス燻蒸

(4) 資料の修復

資料の劣化等が確認され修復が必要になった場合には、館内においてその都度修復作業を行うほか、特別な技術や知識を必要とする場合は、専門機関に委託して修復作業を行っている。

【動物部門】

当館では、平成26年3月に日南市沖の定置網にて捕獲されたリュウグウノツカイを、同年、剥製標本として収蔵した。捕獲時、網に絡まり下顎が破損した状態であったため、破損箇所の一部を補って剥製標本作製した。近年、日本近海でもリュウグウノツカイの捕獲例が増加したことによって、形態に関する情報も増加した。そこで、これらの情報を基に下顎の修復を行った。



リュウグウノツカイ剥製標本(頭部)

【植物部門】

自然史展示室の照葉樹林ジオラマの林床に設置された様々なシダ植物は、実物処理をした資料である。リニューアルから20年が経過し、種類によって経年劣化に伴うものが目立ち始めている。中でもコバノカナワラビとホソバカナワラビの2種の形状が著しく劣化していたため、実物処理による修復を行った。



ホソバカナワラビ

【里にくらす】のコーナー

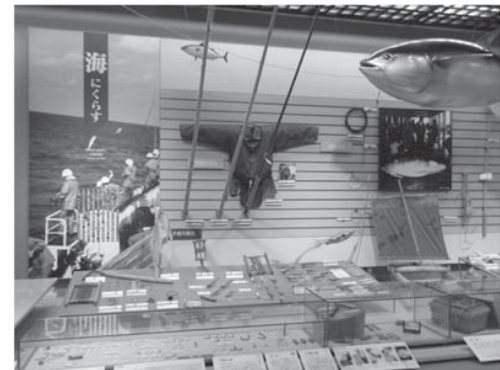
長い年月の間に受け継がれてきた主に農業の知恵と技術、豊作への願いや感謝など、日向灘に注ぐ川沿いに広がる盆地や平野に見られる人々の生活を紹介している。小学校の社会科の授業でよく利用されるため、児童が学習しやすいように、スキヤセンバなどの使用方法を示した図を設置している。



里の農業で使用する農具

【海にくらす】のコーナー

カツオの一本釣りやマグロの延縄漁の道具、ブリ大敷網や大謀網の模型などを展示し、海の幸を生活の糧とするための様々な知恵と技術を紹介するとともに、大漁旗や船霊さまなどから大漁と航海の安全への願いを、カンカン部隊の道具から市場や行商を通じた人々の生き生きとした経済活動と心のつながりを紹介している。



海の漁で使用する漁具

【いのりとまつり】のコーナー

山・里・海に生きる人々の安らかな暮らし、豊作や大漁への祈りをこめた季節の祭や年中行事を紹介している。また、「神楽シアター」では、高千穂の浅ヶ部神楽をモデルに、神庭と外注連を再現するとともに、映像として、子ども向けの「神楽ってなあに？」と大人向けの「宮崎の神楽」を交互に上映して県内の神楽を疑似体験できるように工夫している。



神楽を紹介した写真パネル

④ 常設展示資料数

常設展示室に常時展示している資料数は、令和元年3月末日現在で7,689点である。また、収蔵庫の資料を活用して年19回34点の展示替えを実施し、展示内容の充実を図った。このうち歴史展示室と民俗展示室の接続部分に設置しているロビーケースでは歴史部門による展示替えを5回実施し、館蔵の資料などを紹介した。

(単位：点)

展示室	部門	実物資料	レプリカ	模型	ジオラマ	計
①自然史展示室	動物	3,627	54	10	6	3,697
	植物	57	386	1		444
	地質	428	21	7		456
②歴史展示室	考古	558	58	71	0	687
	歴史	1,179	83	8		1,270
③民俗展示室	民俗	1,081	21	33	0	1,135
計		6,930	623	130	6	7,689

3 展示

本館の展示活動は、常設展示室で恒常的に資料展示を行う「常設展示」、特別展示室で特別なテーマを設定し、会期を限って開催する「特別展示」、本館の1階エントランスホールや2階民俗展示室前のロビーを活用して行う「ロビー展示」、県内各地に残っていた独特の建築様式を持つ民家4棟を移築復元し展示に供している「民家園」から成っており、県民の幅広い層にとって学習の場となるよう工夫している。

(1) 常設展示

常設展示室は自然史、歴史及び民俗の3フロアからなり、宮崎の自然と歴史について、実物を中心に約8,000点の資料を使って分かりやすく紹介するとともに、解説等を行う展示解説員の配置や随時の資料入替えを行うことによりサービスの充実を図っている。

① 自然史展示室

本館1階にある自然史の常設展示は、「宮崎の森」「宮崎の水辺」「宮崎の大地」「宮崎の生物」「ふるさとの自然」の5つのコーナーから成り、学校教育はもちろんのこと生涯学習の場になるように、できる限り宮崎県の実物資料を中心に構築するとともに、生きものの生態などについては、ジオラマやレプリカ、模型等を使ったり、体験の装置や情報機器を導入することによって、来館者が肌で実感し、より親しめるよう工夫している。

また、屋外では、本館入口の北側に、串間市で発掘された縄文から弥生時代のクスノキや日之影町で採取された二枚貝のメガロドン石灰岩を展示している。

【宮崎の森】のコーナー

本県の自然の象徴である照葉樹の森やブナの森を実物やレプリカを通して表現するとともに、「森において」「地表望望鏡」「木の中の音」「フィールドスコープ」等の体験装置を設置している。また、一般に知られていない土壌中の生きものや身近なキノコ類の展示も行っている。さらに、「照葉樹林シアター」を備え、照葉樹林の一日を実感できる大人向けと子ども向けのプログラムを交互に上映している。



照葉樹林のジオラマとニホンジカ

【宮崎の水辺】のコーナー

河口や沿岸で見られる「干潟の自然」、川南町や高鍋町の大地に見られる「湿原の自然」、日南市と串間市にまたがる「サンゴの海」をジオラマで紹介している。また、磯の潮間帯の生きものや川の生きもの、本県と高知県でしか見られないアカメなど多くの標本を展示している。



干潟の自然のジオラマ



### 【宮崎の大地】のコーナー

本県の大地の生き立ちを解説するため、化石、鉱物、岩石標本を多数展示するとともに、随所で顕微鏡観察や触察ができるような工夫を行っている。

生物の進化のエリアでは、ティラノサウルスやヨロイ竜サイカニア、ナウマンゾウの全身骨格など各時代の化石を展示したり、地層や火山のエリアではビデオ映像による説明を行っている。また「地球シアター」では、地球と宮崎の大地の成り立ちや県内の地質について紹介している。



生物の進化のエリア

### 【宮崎の生物】のコーナー

本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれたことと、地史的な背景との絡みもあって、寒冷地から亜熱帯性の生きもの、さらに固有の生きものが生息している。これらの多様な生きもの世界の成り立ちやその生物の営み、宮崎に生息する植物の世界と動物の世界について、県内で収集した標本やその関連資料を用い、観覧者がより身近に感じることができるよう、多角的な視点から紹介している。



「宮崎の植物」のエリア

### 【ふるさとの自然】のコーナー

私たちの身の回りに見られるふるさとの代表的な自然の様子、その自然の中での人びとの暮らしと変貌する生きもの世界、自然の保護と創出、大いに自然に触れる野外体験の勧めについて紹介し、今後の自然との共存や自然保護について考える機会を提供している。



「ふるさとの自然」のコーナー

## ② 歴史展示室

本館2階にある歴史の常設展示は、自然史展示室の照葉樹林ジオラマと関連づけた導入部と、通史的に構成する「日向のあけぼのに生きる」「古代から近世を生きる」「発展しつづける宮崎」の3つのコーナーから成り、人々の生活史を大きな柱として、現在の宮崎地域の約2万年前の旧石器時代から現代にいたる歴史の流れを紹介している。

### 【日向のあけぼのに生きる】のコーナー

旧石器時代から古墳時代までを、打製石器・磨製石器・縄文土器・弥生土器・須恵器などの各時代の発掘資料、花びら形住居や地下式横穴墓などの原寸大模型を使って紹介している。

また、本県で出土した金銅製馬具類（国宝、五島美術館蔵）、子持家形埴輪（重要文化財、東京国立博物館蔵）などの重要資料については、レプリカを製作し、展示している。



花びら形住居のジオラマ

### 【古代から近世を生きる】のコーナー

古代から近世までを、文書資料や発掘資料、実際に使用していた道具などを展示し、当時のできごとや人々の暮らしを紹介している。

特に日向国図田帳（東京大学史料編纂所蔵）、土持文書（県指定有形文化財、個人所蔵・当館寄託）、宗麟原供養塔（国指定史跡）、錦の御旗（本館蔵）など、この時代を代表する重要な資料はレプリカを製作し、展示している。また、江戸時代の延岡藩の庄屋資料である福良家資料（個人蔵・当館寄託）など、当時の人々の日常生活を読み取ることができる資料も展示している。



宗麟原供養塔と耳川合戦図屏風

### 【発展しつづける宮崎】のコーナー

明治時代以降の歴史について、実物資料や模型を展示し、当時のできごとや人々の暮らし、文化を紹介している。特に、「宮崎の近代化」のカラー写真や、「戦争と人々の暮らし」の灯火管制下の住宅内部の復元によって、当時の人々の暮らしをわかりやすく紹介している。

また、戦後の宮崎では、移築と一部復元を行った原寸大の昭和30年代文化住宅と時代のひろばが、歴史展示室の人気コーナーになっており、紙芝居やむかしの遊びなどの催しに利用している。



時代のひろばと文化住宅

## ③ 民俗展示室

本館2階の歴史展示室に隣接する民俗の常設展示は、「山にくらす」「里にくらす」「海にくらす」「いのりとまつり」の4つのコーナーから成り、国指定重要有形民俗文化財の「日向の山村生産用具」をはじめとする実物資料を中心に、原寸大の模型や映像、パソコン検索等を多用して、観覧者が実体験しながら楽しめる展示としている。

また、導入部に配置した「民俗へのいざない」では、炭焼き小屋のジオラマを展示し、宮崎の豊かな風土と人々の営みを表現し、中央に配置した「こころのロード」では、映像と音声により県内の代表的な年中行事と人々の精神世界を紹介している。

### 【山にくらす】のコーナー

山の恵みを生活に活かすための知恵や工夫、願いや感謝など山間部に見られる人々の暮らしを紹介し、映像や写真、人形等を用いて、現在では使われなくなった民具をどのように使用していたのかを観覧者が実感できるようにしている。また、焼き畑作業場兼住まいとして西米良村の山の中腹近くに建てられていた作小屋を原寸大で復元している。



山で使用する衣服等

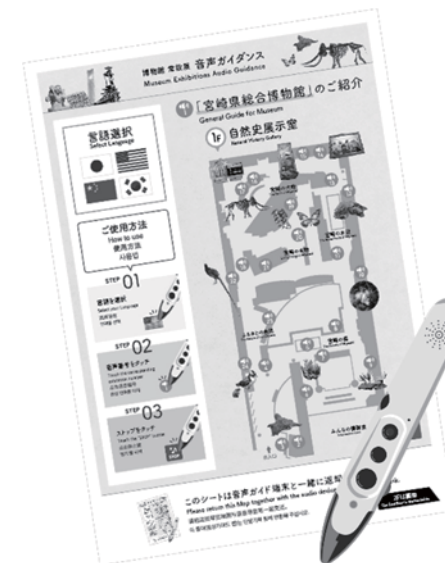
【本館主催の特別展示のチラシ】



⑤ 多言語音声ガイドシステムの導入

ラグビーワールドカップの開催や次年度に開催を控えた東京オリンピック・パラリンピックに関して、当館でも近年外国人利用者が増加傾向にある（H28：363人、H29：664人、H30：848人）。こうした現状を踏まえ、海外からの利用者にも博物館設備を楽しみながら利用してもらい、宮崎の自然や歴史について幅広く知ってもらうための一つのツールとして多言語音声ガイド「音えんぴつ」を導入した。

当館の常設展示室は自然史部門・歴史部門・民俗部門の3つに分けられる。各部門、厳選された資料とコーナー紹介を含む23ヶ所、館の概要説明を合わせた合計70ヶ所について、英語、韓国語、中国語、日本語の4言語の音声ガイドを聞くことができる。システムとして導入した「音えんぴつ」は、あらかじめドットチップが埋め込まれた専用マップシートにペン型音声ガイド機器（音えんぴつ）をタッチすると、タッチした番号に対応した資料の音声解説が流れるというものである。複雑な機器の操作が必要なく、利用者が直感的に操作できる特徴がある。合わせて、専用マップシートを手にする事で、資料場所や観覧順を明確にすることができ、利用された外国人からは好評価を得ることができた。



多言語音声ガイドシステム  
「音えんぴつ」と専用マップシート



多言語音声ガイドシステム「音えんぴつ」を利用し  
展示資料の解説を聞く観覧者

## (2) 特別展示

本館2階にある特別展示室において、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を、他の関係機関から資料を借用するなど連携して開催した。また、巡回展を開催し、国内外の自然を幅広く紹介した。

### ① 「第39回SSP展 ～自然を楽しむ科学の眼～」

ア 会期：平成31年4月27日(土)～令和元年6月9日(日) 開催日数：39日間

イ 主催：宮崎県総合博物館、日本自然科学写真協会

ウ 展示の内容

SSP展の当館開催は今回で15回目となった。写真部門162点、動画部門12点の作品を展示した。また、本館収蔵資料の中から作品に登場する動物の剥製標本や乾燥標本(80点)、植物のレプリカ(3点)及び、岩石鉱物(3点)を展示した。

エ 関連行事

○4月27日(土) 9:30～10:10 参加者34人

開会式及びプロ写真家によるガイドツアー

講師：東木場昭裕氏(自然写真家・SSP展委員)

一日博物館長及び友の会会員を招待。一日博物館長と東木場氏によるテープカットの後、ガイドツアーを実施した。

○4月29日(月) 13:30～16:00 参加者14人

「生きもの写真リトルリーグ2019」コラボイベント 子ども写真教室「生きもの写真のススメ」

講師：東木場昭裕氏(自然写真家・SSP展写真展委員)

協力：生きもの写真リトルリーグ実行委員会(パナソニック株式会社)

小中学生を対象とした写真教室。講師による講義ののち撮影実習、発表会を行った。当日は雨天のため、撮影実習は研修室にて動植物のレプリカを被写体に行った。講義と発表会はエントランスホールで行い、多くの方が観覧した。(来場者54名)

○5月19日(日) 10:00～12:00 参加者44人

関連講座「プロに学ぶ！写真撮影講座」

講師：東木場昭裕氏(自然写真家・SSP展委員)・福島英樹氏(SSP展委員)

一眼レフカメラの仕組みやカメラ機材の操作のポイント、レンズワークのレクチャーを講師が行い、実際に撮影を行った。午後に撮影会を予定していたが、雨天のため民家園(椎葉の民家)にて、講師を交えたカメラ撮影に関わる座談会(参加者12名)を実施した。

○5月12日、5月26日、6月2日、6月9日(各日曜) 13:30～15:30 参加者454人

関連講座 工作イベント「親子でつくろう！ネイチャープレート」

親子を対象に、プラ板を使ったストラップ作りのワークショップを行った。SSP展の作品に登場する動物やキノコのイラストを下絵に使い、生物の特徴を知るとともに、親子でのふれあいの機会となった。

オ 観覧者数：11,212人



開会式(テープカット)



ガイドツアー



生きもの写真のススメ



プロに学ぶ！写真撮影講座



親子でつくろう！ネイチャープレート



来場1万人セレモニー

### ② 特選！蔵出し展 ～ミュージアムコレクション2019～

ア 会期：令和元年10月19日(土)～令和元年12月8日(日) 開館日数：44日間

イ 主催：宮崎県総合博物館

ウ 展示内容

今回の展示会は、各部門でテーマを設け、そのテーマに合わせる形で収蔵資料の公開を行った。総合部門として「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」のコーナーを設けた。動物部門は竹迫堅之助氏や乾慶一氏、山根正気氏の昆虫類の寄贈標本や県内で発見された昆虫の新種4種の紹介。植物部門は「植物民俗関連資料」「ミツバツツジ類」などのコーナーを設けた。地質部門は「土井標本」「小野標本」などの寄贈資料を中心に展示、考古部門は生活で使用する土器の「壺」と、古墳の副葬品である「鏡」を中心に展示した。歴史部門は、「戦と祈り」にテーマを設定し、仏像や中世以降の戦いに使われた道や対外戦争において兵士とともに生還した資料など、民俗部門は「日之影の竹細工」をテーマに現代の名工 廣島一夫氏の作品や廣島氏が実際に使用していた道具を展示した。

エ 関連行事

○令和元年10月21日(土) 10:00～12:00 関連講座「むかしの草花あそび」

講師：荒川福夫氏 参加人数：38名

○令和元年10月25日(土)～11月4日(月) 屋外イベント「植物素材アートの世界」

展示協力：鬼塚良昭氏 場所：椎葉の民家 参加者数：2,140人

○令和元年10月26日(土) 13:30～15:00 講演会：「祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの自然」 講師：岩本俊孝氏 参加人数：35名

○令和元年11月16日(土) 13:30～15:00 講演会「九州のミツバツツジ類」

講師：南谷忠志氏 参加人数：28名

○令和元年11月9日(土) 13:00～16:00 関連講座「カルイ製作実演見学会」

講師：日之影の竹細工職人 小川鉄平氏 参加人数：55名

○毎週日曜日 13:30～14:30 学芸員によるギャラリートーク(8回) 100名

オ 観覧者 12,704人



内覧会



会場入口撮影スポット



ユネスコエコパーク展示



1万人セレモニー



体験コーナー



カルイ製作実演見学会

(5) 利用状況

① 令和元年度の利用状況

ア 利用状況一覧

(単位：人)

施設、講座等		入館・入園者数
1 本館入館者数		83,603
① 特別展観覧者 ※		34,833
② 常設展示室の展示解説（定時解説及び通常解説）		(8,698)
③ 紙芝居		(4,816)
④ むかしのあそび体験広場		(3,465)
⑤ クイズラリー（通常版）		(1,008)
⑥ みどりの日クイズラリー（特別版）		(115)
⑦ 文化の日クイズラリー（特別版）		(87)
2 民家園入園者数		48,372
① 伝統文化体験講座		(189)
ア 正月飾り製作体験 (13)		
イ 正月準備体験 (176)		
② 神楽公演（三川内神楽・山宮神楽） ※		(760)
③ 民家園春まつり ※		(中止)
④ みやざきの昔話公演		(259)
⑤ 民家園利用事業		(563)
⑥ 昔のくらし体験		(107)
合計		131,975

※ 特別展観覧者数には「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」の4/1～4/14分の観覧者数10,917人を含む。

※ 神楽公演（大塚神社公演）・民家園春まつりは、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止。

イ 本館入館者の状況（月別）

(単位：人)

月	個人 (人)	団体（人）				総入館者数 (人)	開館日数 (日)	1日 平均 (人)
		大人	高校生 大学生	小学生 中学生	未就学児			
4	14,967	247	0	73	70	15,357	26	591
5	6,919	405	33	2,152	222	9,731	27	360
6	4,955	543	213	491	316	6,518	22	296
7	7,105	572	53	279	371	8,380	26	322
8	9,216	314	8	509	120	10,167	27	377
9	3,824	261	165	69	158	4,477	16	280
10	4,695	595	86	1,761	238	7,375	26	284
11	5,353	549	29	1,922	226	8,079	26	311
12	3,493	411	66	320	129	4,419	23	192
1	2,661	87	63	211	64	3,086	16	193
2	4,247	281	126	90	235	4,979	25	199
3	934	27	3	47	24	1,035	7	148
計	68,369	4,292	845	7,924	2,173	83,603	267	313

※ 9/2～9/13は、燻蒸期間のため、臨時休館。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3/5～3/26は臨時休館。

(3) エントランス展示・ロビー展示

本館1階のエントランスホール（エントランスケース、展示スペース、情報コーナー）や2階民俗展示室前のロビーにおいては、1年を通じてトピックや季節ごとにテーマを設定した展示を行っている。令和元年度は16回の展示を実施した。

① 展示一覧

タイトル <展示場所>	期 間	担当者	内 容
THE よろい・かぶと <1階エントランスケース>	3月30日 ～4月22日	平松憲太郎	常設展示室に展示していない鎧・冑を展示し、収蔵資料を紹介した。5月5日の博物館講座「よろい・かぶと着用体験！」の広報に役立てた。
総合博物館と「平成」 <1階情報コーナー・2階ロビー>	4月21日 ～5月6日	榎木郁朗	総合博物館の「平成」の歩みを年表や展覧会チラシで振り返りつつ、現在の館の取り組みとして「どこでも博物館」を紹介した。
重黒木コレクションの化石で めぐる 宮崎県 山口県 北海道 <1階エントランスケース>	4月25日 ～6月10日	濱田真理	5月10日の「地質の日」に合わせて重黒木一夫氏の寄贈資料（化石標本）を展示した。
高校野球展 ～県勢の激闘の 記憶、そして全国制覇へ～	6月30日 ～7月28日	黒木義博	夏の全国高校野球宮崎県予選の開催に合わせて、これまでの代表校を実物資料や新聞記事等で紹介した。（協力 宮崎県高校野球連盟）
新みやざき化石展～岡山清英 コレクションの世界～ <1階エントランス北側>	7月17日 ～9月1日	中山貴義	岡山清英氏から寄贈されたシルルードボン紀及び第四紀の海棲生物化石564点を展示した。
愛鳥作品コンクール作品展示 <2階ロビー>	7月8日 ～7月31日	濱田真理	令和元年度愛鳥作品コンクールの絵画と習字を展示した。（中部農林振興局による企画）
宮崎の伝統工芸品 <2階ロビー>	8月1日 ～8月31日	野添和洋	宮崎県内の伝統的工芸品を民俗展示室出口ロビーに展示し、最終日には佐土原人形絵付け体験も実施した。（オールみやざき営業課による企画）
博物館子どもDAY <1階展示スペース>	8月25日	学芸課・博物館実習生	貝殻のタッチプールや化石・鉱物・石器などの触れる展示、よろい・かぶとや神楽装束の着用体験などを行った。
知ってる!?! ぼくは天然記念物 オカヤドカリ <1階展示スペース>	9月18日 ～11月8日	外山真樹	個人研究の成果報告として国指定天然記念物オカヤドカリを展示するとともに「記念物100年」に合わせて天然記念物を剥製やパネルで紹介した。
宮崎の火消し展 一消防団と道具の歴史 <1階展示スペース>	11月10日 ～1月19日	野添和洋	秋の火災予防運動期間に合わせて明治から昭和初期に使用されていた宮崎県内の消防の道具を展示した。（協力 宮崎北消防署）
宮崎県高校生の探究活動 ポスター展 <1階情報コーナー>	11月17日 ～12月20日	濱田真理	県内の高校生が授業や部活動で取り組んだ自然科学系探究活動の成果をポスター展示により紹介した。（出品 県立高校7校のポスター17件）
コンクリーションってなんだろう？ かたくて丸い、ふしぎな石 <1階情報コーナー>	12月12日 ～2月17日	濱田真理	名古屋大学博物館との相互協力協定締結を記念して、その契機となった球状コンクリーションを展示した。（協力 名古屋大学博物館）
冬のキラキラ天然石 —12月～2月の誕生石— <1階エレベーター前>	12月12日 ～2月17日	濱田真理	12月（トルコ石、ラピスラズリ、タンザナイト）、1月（ガーネット）、2月（紫水晶）の月替わりミニ展示を行った。
タネの世界 植物の姿とタネの形 <1階展示スペース>	1月29日 ～3月4日 ※閉館のため 期間短縮	岩切勝彦	花よりも種子や果実が目立つ冬場にに合わせて、中山至大氏（宮崎大学元教授）の寄贈種子標本とレプリカを展示し、顕微鏡観察コーナーも設けた。
みやはく&はくとも写真展 <1階情報コーナー>	2月9日 ～3月4日 ※閉館のため 期間短縮	学芸課・博物館友の会	学芸課職員と博物館友の会会員が撮影した自然や歴史に関する写真を展示した。
博物館で雛祭り <1階展示スペース・2階ロビー>	2月8日 ～3月2日	野添和洋	春の節句の雰囲気来館者に感じてもらうため、博物館に寄贈された雛人形を展示した。

## ② 主な展示

ア 「総合博物館と「平成」

- a 展示期間：平成 31 年 4 月 21 日（日）  
～令和元年 5 月 6 日（月）
- b 展示場所：本館 1 階情報コーナー（4/21～27）  
本館 2 階ロビー（4/28～5/6）
- c 展示内容：「平成」という元号が平成31年4月30日で終わり、新天皇の即位とともに5月1日から新元号「令和」が始まることになった。そこで総合博物館にとっての「平成」の歩みを年表で振り返り、本館で作成してきた年報や研究紀要を展示するとともに、「平成」に実施した展覧会のチラシ写真と展示図録を紹介した。

また、「平成」から「令和」にかけて展開している事業について「どこでも博物館」を取り上げ、展示や体験で使用する資料を展示するなど、総合博物館の取り組みを知らせる機会とした。



総合博物館と「平成」展示の様子

イ 新みやざき化石展

～岡山清英コレクションの世界～

- a 展示期間：令和元年 7 月 17 日（水）  
～9 月 1 日（日）
- b 展示場所：本館 1 階エントランスホール
- c 展示内容：岡山清英氏から寄贈された五ヶ瀬町祇園山産の床板サンゴやウミユリの化石などと、川南町伊倉浜産の魚貝及びクジラ化石など、合わせて564点を展示した。関連行事として、岡山氏によるギャラリートークや、アンモナイトレプリカ作りのワークショップを行った。



化石展及びギャラリートークの様子

## (4) 民家園

民家園は、本館の東側に位置し、県内に残っていたその地方独特の建築様式を持つ民家を昭和47年から昭和53年にかけて移築復元した4棟の民家から成る。これらのうち「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」は国の重要文化財に、「米良の民家」と「椎葉の民家」は宮崎県の有形文化財に指定されている。

また、民家の内部には、実際に使用されていた踏み臼のほか、唐箕や機織り機といった生業道具、釜や甕などの生活用具を展示するとともに、屋外には石風呂などを展示し、来園者が民家の雰囲気を感じ取れるようにしている。

なお、4棟とも経年劣化や耐震上の問題があったことから、平成26～27年度に「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」の保存修理を実施し、引き続き平成28～29年度に「米良の民家」と「椎葉の民家」の保存修理を実施した。

### 【旧藤田家住宅】

九州山地中央部に残る民家の古い形式を伝える数少ない建物で、五ヶ瀬町から移築復元した。県内で確認された民家では最も古く、間仕切柱の刻銘から天明7年(1787)に建てられたことが明らかとなっている。間取りは、オモテ（客間）、ヘンヤ（居間）の2つからなる。



旧藤田家住宅

### 【旧黒木家住宅】

高原町にあった郷士の建物を移築復元したものである。この民家は、県南西部に分布する分棟型農家の典型で、平入のオモテ（主屋）と妻入のナカエ（釜屋）の2棟からなる。発見された墨書によって、天保5年(1834)から2年にかけて建てられたことが明らかになっている。



旧黒木家住宅

### 【米良の民家】

西米良村にあった建物を移築復元したもので、山間の3段石積みの上に建てられ、外観や間取りなどに古い西米良の農家のかたちが残されている。また、太い材を用いた馬屋が隣接している。口伝により、文政4年(1821)頃に建てられたとされている。



米良の民家

### 【椎葉の民家】

椎葉村にあった建物を移築復元したもので、県北西部に分布する並列型農家の典型で、間取りは、3つの部屋と1つの土間が横一列に並び、その手前に板縁がとおっている。解体中に発見された墨書によって、元治元年(1864)に建てられたことが明らかになっている。



椎葉の民家

(\*民家園を活用した普及事業については、56～58頁を参照)

月	日	曜	学校名	教科	総合	通足・学校行事	学年	市町村名	人数
10	17	木	梶山小学校			○	その他	三股町	33
10	18	金	高鍋西小学校			○	2	高鍋町	87
10	18	金	丸野小学校			○	3・4	都城市	48
10	18	金	宮村小学校			○	3・4	三股町	54
10	18	金	七野小学校			○	1～3	宮崎市	22
10	18	金	池内小学校			○	4	宮崎市	50
10	18	金	都農小学校			○	5	都農町	25
10	18	金	日向学院中学校			○	3	宮崎市	93
10	24	木	上新田小学校			○	1	新富町	23
10	24	木	宮崎大宮高等学校			○	2	宮崎市	43
10	25	金	清武小学校			○	3	宮崎市	105
10	25	金	寺迫小学校			○	5	日向市	16
10	25	金	北浦小学校	○		○	3・4	延岡市	43
10	25	金	八代小学校			○	3・4	国富町	51
10	25	金	広瀬北小学校			○	3	宮崎市	115
10	25	金	都農東小学校			○	5	都農町	22
10	25	金	広瀬北小学校	○		○	5	宮崎市	109
10	28	月	延岡市立西小学校			○	4	延岡市	55
10	30	水	妻北小学校			○	3	西都市	90
10	30	水	上新田小学校	○		○	3	新富町	14
10	31	木	櫛北小学校			○	3	宮崎市	107
11	1	金	生目小学校			○	3	宮崎市	121
11	1	金	三股小学校			○	3	三股町	96
11	1	金	永久津小学校			○	3・4	小林市	23
11	1	金	多賀小学校	○	○	○	3・4	川南町	26
11	1	金	都城市立西小学校			○	4	都城市	157
11	1	金	名水小学校			○	1～6	延岡市	18
11	1	金	西小林小学校			○	4・5	小林市	56
11	1	金	三股小学校			○	4	三股町	91
11	1	金	加納小学校			○	3	宮崎市	138
11	6	水	住吉南小学校	○	○	○	3	宮崎市	90
11	7	木	栗須小学校			○	5	小林市	25
11	8	金	鶴戸小中学校			○	3・4	日南市	7
11	8	金	川東小学校	○		○	3	都城市	41
11	8	金	野尻小学校			○	1・2	小林市	42
11	8	金	油津小学校			○	4	日南市	48
11	13	水	みやざき中央支援学校			○	3	宮崎市	25
11	14	木	日南くろしお支援学校中等部			○	1～3	日南市	51
11	15	金	塩見小学校	○		○	4	日向市	24
11	15	金	国富小学校			○	3	宮崎市	121
11	15	金	都於郡小学校			○	3	西都市	25
11	15	金	三財小学校	○		○	3	西都市	16
11	15	金	東郷学園、坪谷小学校3年合同			○	3	日向市	19
11	15	金	恒富小学校			○	5	延岡市	35
11	20	水	田野小学校			○	3	宮崎市	110
11	21	木	木花小学校	○		○	3	宮崎市	32
11	22	金	田園の里 新田学園			○	3	新富町	46
11	22	金	勝岡小学校			○	3	三股町	50
11	22	金	るびなす支援学校			○	6	新富町	7
11	22	金	吾田小学校			○	3	日南市	76
11	22	金	高原小学校			○	4	高原町	49
11	25	月	宮崎大学附属小学校	○			6	宮崎市	94
11	27	水	紙屋小学校			○	3・4	小林市	24
11	29	金	木脇小学校			○	3	国富町	59
11	29	金	本郷小学校			○	3	宮崎市	119

ウ 利用団体内訳 (単位：団体)

	小学校	中学校、高校 特別支援学校	幼稚園、 保育園等	福祉施設	放課後児童 クラブ	旅行団体 等	合計
団体数	101	19	83	166	85	88	542

※小・中・高校・特別支援学校の内訳は39～41頁、その他の団体内訳は42～46頁を参照

エ 特別展示入館状況

a 無料の特別展示

展示会名	会期 (日)	日 数 (日)	個人 (人)	団 体 (人)				合計 (人)	1日 平均 (人)
				大人	高 大 学 生	小 中 学 生	未 就 学 児		
第39回SSP 展	平成31年 4月27日 ～6月9日	39	8,398	463	44	2,086	221	11,212	287
特選！蔵出し展 ～ミュージアムコレクショ ン2019～	令和元年 10月19日 ～12月8日	44	8,739	1,014	114	2,550	287	12,704	289

b 有料の特別展示

展示会名	会期	日数	入場者数 (人)				合計 (人)	1日平 均(人)
			有料		無料			
岩合光昭の世界 ネコ歩き写真展	平成31年 2月22日 ～4月14日	45	大 人 小中校生	22,840 3,013	未就学児 招待者 身障者他	1,586 1,595 3,360	※ 32,394	720

※ 「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」の4/1～4/14の入場者数は10,917人。(2/22～3/31は21,477人)

※ 例年開催している夏の特別展は、空調設備改修工事のため開催せず。

※ 3/20～5/20開催予定であった「ダンボール恐竜遊園地 in ミュージアム」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止。

オ 民家園入園者の状況 (月別)

月	入園者数 (人)	開園日数 (日)	1日平均 (人)
4	5,609	30	187
5	4,509	31	145
6	3,570	30	119
7	2,787	31	90
8	2,631	31	85
9	2,319	※ 25	93
10	4,496	31	145
11	5,171	30	172
12	3,762	31	121
1	4,569	31	147
2	4,741	29	163
3	4,208	31	136
計	48,372	361	134

※ 9月5日～9日は燻蒸期間のため、民家園入園禁止。

② 過去10年間の利用状況の推移

ア 本館入館者数

年度	個人 (人)	団体別 (人)				合計 (人)	開館 日数 (日)	1日 平均 (人)	特別展 観覧者数 (人)
		大人	高大学生	小中学生	未就学児				
22	89,364	4,626	966	9,090	2,617	106,663	268	398	72,553
23	97,754	5,063	495	10,262	3,186	116,760	297	393	73,940
24	91,374	5,156	636	8,752	1,835	107,753	298	362	69,680
25	113,438	5,481	756	9,003	2,504	131,182	299	439	95,611
26	91,050	5,310	127	8,620	2,361	107,468	292	368	73,621
27	112,909	5,976	429	9,356	1,892	130,562	289	452	91,901
28	92,342	4,673	343	8,380	1,982	107,720	284	379	64,973
29	93,867	5,576	498	8,766	2,265	110,972	285	389	61,552
30	117,772	5,697	1,390	8,881	2,394	136,134	285	478	92,797
R1	68,369	4,292	845	7,924	2,173	83,603	267	313	34,833

イ 本館の利用団体内訳

(単位：団体)

年度	小学校	中学・高校・特別支援学校	幼稚園、保育園等	福祉施設	放課後児童クラブ	旅行団体等	合計
22	115	35	91	139	12	102	494
23	129	22	132	133	47	124	587
24	113	19	78	153	19	139	521
25	116	36	114	156	46	132	600
26	109	10	89	186	39	137	570
27	113	22	78	233	48	168	662
28	98	11	66	286	37	86	584
29	112	19	94	321	69	94	709
30	100	24	105	260	58	138	685
R1	101	19	83	166	85	88	542

ウ 民家園入園者数の推移

年度	入園者数 (人)	開園日数 (日)	1日平均 (人)
22	38,013	320	119
23	43,857	361	121
24	44,889	359	125
25	47,810	359	133
26	44,718	358	125
27	36,267	361	100
28	46,648	358	130
29	50,461	357	141
30	50,714	359	141
R1	48,372	361	134

【参考】学校団体(小・中・高・特別支援学校)の利用状況

月	日	曜	学校名	教科	総合	遠足・学校行事	学年	市町村名	人数
4	6	土	佐土原中学校			○	1~3	宮崎市	11
5	8	水	宮崎東小学校			○	6	宮崎市	59
5	8	水	宮崎南小学校			○	3	宮崎市	158
5	8	水	住吉小学校	○	○	○	3	宮崎市	175
5	9	木	吉之元・西岳・夏尾小学校 3校合同			○	その他	都城市	53
5	9	木	都農南小学校			○	3	都農町	38
5	10	金	穂北小学校	○		○	3	西都市	30
5	10	金	本庄小学校			○	3	国富町	74
5	10	金	東大宮小学校			○	3	宮崎市	153
5	10	金	小林小学校			○	3	小林市	101
5	10	金	潟上小学校			○	6	日南市	18
5	10	金	田園の里 新田学園			○	5	新富町	33
5	15	水	那珂小学校			○	3	宮崎市	64
5	16	木	沖水小学校			○	4	都城市	149
5	16	木	西池小学校		○	○	3	宮崎市	164
5	16	木	桜ヶ丘小学校			○	6	日南市	16
5	16	木	菓子野小学校			○	5	都城市	24
5	17	金	高城小学校			○	3	都城市	65
5	17	金	赤江小学校			○	3	宮崎市	145
5	17	金	通山小学校			○	5	川南町	35
5	23	木	港小学校			○	2	宮崎市	85
5	24	金	古城小学校			○	3・4	宮崎市	40
5	24	金	東小学校			○	3・4	川南町	43
5	24	金	富高小学校			○	4	日向市	79
5	24	金	上江小学校			○	その他	えびの市	52
5	24	金	穂小学校			○	3	宮崎市	97
5	24	金	三納小学校			○	3・4	西都市	35
5	29	水	広瀬小学校			○	3	宮崎市	107
5	31	金	潮見小学校			○	3	宮崎市	100
5	31	金	高崎小学校	○		○	3	都城市	38
6	7	金	広瀬西小学校	○		○	3	宮崎市	52
6	7	金	上南方小学校	○		○	6	延岡市	26
6	7	金	都農東小学校 内野々分校			○	3	都農町	18
6	16	日	宮崎北高等学校		○		その他	宮崎市	48
6	16	日	宮崎大宮高等学校		○		3	宮崎市	87
6	16	日	五ヶ瀬中等教育学校			○		五ヶ瀬町	14
6	17	月	宮崎大学附属小学校		○		6	宮崎市	96
6	19	水	穂中学校		○		1	宮崎市	208
6	26	水	みやざき中央支援学校			○	2	宮崎市	18
7	10	水	国光原中学校		○		4	川南町	70
9	14	土	宮崎北高SSH		○		1	宮崎市	40
9	20	金	狭野小学校			○	1~6	高原町	45
9	20	金	宮崎第一高等学校		○	○	2	宮崎市	97
10	4	金	上長飯小学校			○	4	都城市	138
10	9	水	須木小学校			○	3・4	小林市	16
10	10	木	明和小学校			○	4	都城市	70
10	10	木	富田小学校			○	2	新富町	101
10	11	金	綾小学校	○		○	3	綾町	65
10	11	金	森永小学校	○	○	○	3・4	国富町	39
10	11	金	庄内小学校			○	3・4	都城市	60
10	11	金	大王谷学園			○	4	日向市	125
10	11	金	山之口小学校、麓小学校			○	5	都城市	50
10	12	土	宮崎北高SSH		○		1	宮崎市	40

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
8	2	金	日の出幼稚園	宮崎市	51
8	2	金	三宮学童クラブ	宮崎市	25
8	2	金	一ツ瀬保育園学童クラブ	新富町	33
8	2	金	あおぞら児童クラブ	都城市	54
8	2	金	住之江デイサービス	宮崎市	8
8	3	土	合同オレンジファーム虹色ホース	宮崎市	6
8	5	月	あさひ幼稚園学童	西都市	10
8	5	月	細見クリニック	宮崎市	5
8	7	水	くども見友園	宮崎市	22
8	7	水	こんべいとう児童クラブ	県外	33
8	7	水	浮之城ひまわり幼保園	宮崎市	36
8	8	木	のぞみ保育園	宮崎市	24
8	8	木	デイサービスのどか	西都市	8
8	9	金	西都カトリック幼稚園学童クラブ	西都市	15
8	9	金	清芳会 井上病院	宮崎市	15
8	9	金	多機能型障がい児通所支援事業所 みなみ	宮崎市	8
8	10	土	ドリトル加納	宮崎市	9
8	10	土	都城放課後等デイサービス キッズ・ラボ	都城市	15
8	13	火	みつばちキッズ	宮崎市	7
8	16	金	大地しまのうち	宮崎市	8
8	18	日	はなまる	宮崎市	5
8	19	月	タンポポ保育園	宮崎市	9
8	19	月	ハッピーワークス	宮崎市	14
8	19	月	細見クリニック	宮崎市	6
8	19	月	放課後等デイサービス トムソーヤ	都城市	15
8	19	月	a-project	宮崎市	14
8	21	水	大宮中学校2年生	宮崎市	59
8	21	水	民間学童保育 ツクヨミ	宮崎市	23
8	21	水	放課後等デイサービス つなぐ	都城市	16
8	22	木	ゆうあい会	小林市	5
8	22	木	社会福祉法人 たらちね会 じよいすてつ	宮崎市	5
8	22	木	民間学童保育 おちあいさん家	宮崎市	8
8	23	金	くども見友園	宮崎市	3
8	23	金	うちやまこども園	宮崎市	21
8	24	土	放課後等デイサービス ももたろう	高鍋町	11
8	25	日	真幸少女バレー	えびの市	26
8	26	月	くども見友園	宮崎市	47
8	26	月	タンポポ保育園	宮崎市	9
8	26	月	細見クリニック	宮崎市	5
8	26	月	看護小規模多機能型居宅介護 はなまる	宮崎市	7
8	28	水	スマイルシード	宮崎市	7
8	29	木	放課後等デイサービス レモン	西都市	8
8	30	金	スポーツパークBASIS	宮崎市	3
8	30	金	スマイルシード	宮崎市	16
8	31	土	タンポポ保育園	宮崎市	21

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
8	31	土	障がい福祉サービス さくらんぼ	宮崎市	11
8	31	土	放課後等デイサービス アニマート宮崎	宮崎市	12
8	31	土	放課後等デイサービス GIFT	西都市	16
8	31	土	新ビステイス	高鍋町	10
8	31	土	宮崎第一中学校	宮崎市	53
9	14	土	吉留家ご一行	県外	10
9	14	土	倉岡たのしも会	宮崎市	6
9	14	土	デイサービスセンター あおぼの里	宮崎市	10
9	14	土	スポーツパークBASIS	新富町	10
9	16	月	ギフト	西都市	6
9	18	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
9	19	木	高千穂幼稚園	宮崎市	21
9	19	木	紙園デイサービスセンター	宮崎市	4
9	20	金	西都病院デイケア	西都市	24
9	21	土	スポーツパークBASIS	宮崎市	3
9	21	土	ハッピーワークス	宮崎市	19
9	21	土	宮崎市国際交流協会	宮崎市	17
9	25	水	宮崎大学モニター調査	宮崎市	15
9	25	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
9	26	木	いずみ幼稚園	宮崎市	78
9	26	木	JA西都女性部女性大学	西都市	44
9	26	木	藤元病院	都城市	23
9	26	木	脇田 洋一様	県外	7
9	26	木	古澤研究室	県外	7
9	27	金	ワークセンター いにしえの社	県外	18
9	27	金	榊 晃和	県外	6
9	27	金	いずみ幼稚園	宮崎市	75
9	27	金	デイホーム なかしま	宮崎市	3
9	27	金	地域福祉推進チーム	延岡市	13
9	27	金	日南グランドゴルフ協会	日南市	9
9	27	金	合同会社 G&G	宮崎市	6
9	28	土	ら・ぼるて	宮崎市	6
9	28	土	放課後等デイサービス こどもプラス	宮崎市	7
9	30	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
9	30	月	大空クリニック	宮崎市	8
10	2	水	ふれあいケアセンター 大迫	宮崎市	33
10	2	水	城ヶ崎 小戸の家	宮崎市	16
10	3	木	鹿児島県信用漁連東町支店	県外	16
10	3	木	くども見友園	宮崎市	26
10	3	木	若草病院	宮崎市	13
10	4	金	山本様	日向市	6
10	5	土	延岡市教育委員会社会教育課	延岡市	45
10	7	月	くども見友園	宮崎市	24
10	7	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	6
10	7	月	宮崎情報ビジネス医療学校	宮崎市	11

月	日	曜	学校名	教科	総合	通足・学校行事	学年	市町村名	人数
12	18	水	大宮小学校理科授業支援6年1, 2組	○			6	宮崎市	69
12	19	木	大宮小学校理科授業支援6年3, 4組	○			6	宮崎市	69
12	20	金	大宮小学校理科授業支援6年5組	○			6	宮崎市	34
12	20	金	江南小学校	○			3	宮崎市	112
12	22	日	鹿児島市立吉野東中 野球部			○	1・2	県外	25
1	10	金	小戸小学校			○	3	宮崎市	46
1	17	金	宮崎商業高校	○			3	宮崎市	26
1	30	木	西池小学校	○			3	宮崎市	162
1	30	木	高崎麓小学校	○			5・6	都城市	13
2	8	土	宮崎北高SSH		○			宮崎市	42
2	14	金	みなみのかげ支援学校		○		1~3	宮崎市	108
2	26	水	NHK学園高校・宮崎東協力校					宮崎市	20



【参考】その他の団体の利用状況

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
4	1	月	川南町第7区ふれあい	川南町	18
4	1	月	細見クリニック	宮崎市	5
4	4	木	スマイルシード恒久	宮崎市	15
4	4	木	天領の杜	国富町	8
4	5	金	合同会社 G&Gm-front	宮崎市	15
4	5	金	じよいすてつぷ	宮崎市	6
4	5	金	放課後等デイサービス旭が丘児童クラブ	三股町	24
4	6	土	あかつきヘルパーサービス	宮崎市	3
4	8	月	まほろば福祉会	宮崎市	6
4	8	月	細見クリニック	宮崎市	6
4	10	水	美郷町西郷遺族会	美郷町	14
4	10	水	一般社団法人 福樹会	宮崎市	11
4	10	水	まほろば福祉会	宮崎市	5
4	10	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
4	11	木	あいクリニック	宮崎市	8
4	12	金	あっぱれデイサービスセンター	国富町	5
4	13	土	スタジオ ミント	宮崎市	10
4	15	月	細見クリニック	宮崎市	6
4	17	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
4	18	木	祇園デイサービス	宮崎市	5
4	18	木	高崎町史友会	都城市	28
4	19	金	みつばちキッズ大淀	宮崎市	4
4	22	月	スマイルシード青島	宮崎市	4
4	22	月	細見クリニック	宮崎市	6
4	22	月	ニチイケアセンター上北方	宮崎市	13
4	24	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
4	25	木	OTOKON会	宮崎市	10
4	25	木	野の花幼稚園	宮崎市	39
4	25	木	月見が丘幼稚園	宮崎市	37
4	25	木	門川町庵川西寿会	門川町	14
4	25	木	祇園デイサービス	宮崎市	3
4	29	月	放課後等デイサービスHappyWoks	宮崎市	11
4	30	火	放課後等デイサービスさくら	宮崎市	9
4	30	火	びーだまクラブ	宮崎市	10
5	1	水	スマイルシード	宮崎市	13
5	1	水	HappyWoks	宮崎市	14
5	1	水	HappyWoks 宮崎校	宮崎市	9
5	1	水	みつばちキッズ大淀	宮崎市	4
5	2	木	たんぼぼ保育園	宮崎市	8
5	2	木	まーぶるクラブ	新富町	12
5	3	金	児童 みなみ	宮崎市	5
5	3	金	石井記念友愛園	木城町	12
5	9	木	カーサーアルバ	宮崎市	6
5	9	木	デイサービス雁ヶ音	宮崎市	15
5	11	土	四つ葉保育園	宮崎市	31

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
5	11	土	個人団体	県外	10
5	13	月	原口いきいきサロン	宮崎市	22
5	13	月	細見クリニック	宮崎市	5
5	17	金	綾町社会福祉協議会	綾町	16
5	17	金	日の出幼稚園	宮崎市	45
5	17	金	あおぞら幼稚園	宮崎市	53
5	17	金	JA八代 女性部	県外	36
5	17	金	じよいすてつぷ	宮崎市	13
5	17	金	社協 つくし園 障がい児施設	宮崎市	15
5	18	土	南九州大学	都城市	10
5	18	土	大人の休日倶楽部	県外	15
5	18	土	ラキーノ 日知屋	日向市	5
5	20	月	那珂保育園(こども園)	宮崎市	20
5	20	月	くども児友園	宮崎市	23
5	20	月	ハッピーワークス 宮崎校	宮崎市	3
5	20	月	細見クリニック	宮崎市	7
5	23	木	井戸ばた会議	日向市	13
5	24	金	くにとみ幼稚園	国富町	47
5	24	金	南ヶ丘幼稚園	宮崎市	35
5	24	金	グループホーム スマイル	宮崎市	18
5	25	土	はなの保育園	宮崎市	5
5	25	土	榊アシストプラザ 放課後等デイサービス	都城市	11
5	27	月	びーだまクラブ	宮崎市	5
5	27	月	細見クリニック	宮崎市	5
5	29	水	香港公開大学	海外	9
5	30	木	サムエル保育園	宮崎市	7
5	31	金	城ヶ崎小戸の家	宮崎市	13
6	1	土	JA日向諸塚村しいたけ部会	諸塚村	24
6	1	土	南九州大学 博物館資料論 講座	都城市	24
6	1	土	串間青武館	串間市	6
6	1	土	さくら会 さくらんぼ(障がい者サポートセンター)	宮崎市	8
6	3	月	いちご部会 大淵矢部支部	県外	18
6	3	月	くども児友園	宮崎市	23
6	3	月	おびの里	日南市	12
6	3	月	細見クリニック	宮崎市	6
6	5	水	就労支援施設 がんばる〜ん	宮崎市	9
6	5	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
6	6	木	デイサービス田園	宮崎市	16
6	6	木	祇園デイサービス	宮崎市	7
6	7	金	神宮学幼稚園	宮崎市	6
6	7	金	かぜの光るゆめの森保育園	宮崎市	18
6	7	金	社会福祉法人 たらちね会 じよいすてつぷ	宮崎市	7
6	7	金	藤元病院	都城市	29
6	7	金	就労移行支援事業所 響	宮崎市	8
6	15	土	南九州大学	都城市	25

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
6	15	土	RACOO(ラクー)	宮崎市	11
6	15	土	放課後等デイサービス ら・ぼるて	宮崎市	9
6	15	土	放課後等デイサービス GIFT	西都市	8
6	16	日	宮崎大学留学生 宮崎県内ALT	宮崎市	35
6	17	月	個人団体	五ヶ瀬町	13
6	17	月	香港中文大学	海外	22
6	17	月	細見クリニック	宮崎市	10
6	19	水	宮崎まなみ幼稚園	宮崎市	51
6	19	水	井上病院	宮崎市	4
6	20	木	わくわく広場 田野しも会	宮崎市	28
6	20	木	阿波岐原通所センター	宮崎市	7
6	20	木	石川内科ディケア	宮崎市	6
6	20	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	5
6	21	金	大淀幼稚園	宮崎市	39
6	22	土	大宮小学校 2年6組	宮崎市	49
6	22	土	住吉南小学校 合唱部	宮崎市	44
6	24	月	細見クリニック	宮崎市	5
6	24	月	石川内科ディケア	宮崎市	6
6	26	水	認定子ども園 ソレイユ	宮崎市	33
6	26	水	どうめき保育園	宮崎市	29
6	26	水	佐土原幼稚園	宮崎市	49
6	26	水	野の花幼稚園	宮崎市	35
6	26	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
6	27	木	神宮学幼稚園	宮崎市	13
6	27	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	4
6	28	金	サクラプリンテック	宮崎市	25
6	28	金	西都ふたば幼稚園	西都市	86
6	28	金	大分県教職員互助会	県外	75
6	29	土	宮崎大学館園実習前施設見学	宮崎市	8
6	29	土	ハッピーワークス	宮崎市	21
7	1	月	たんぼぼ保育園	宮崎市	10
7	1	月	早稲田クリニック	宮崎市	8
7	1	月	森河会計事務所	県外	11
7	3	水	大淀幼稚園	宮崎市	35
7	3	水	井上病院	宮崎市	4
7	4	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	7
7	5	金	大分県教職員互助会	県外	65
7	6	土	大宮小学校 1年4組	宮崎市	44
7	6	土	宮崎県国際交流協会	宮崎市	28
7	6	土	放課後等デイサービスあさひがおか	三股町	14
7	7	日	宮崎大学教育学部	宮崎市	20
7	8	月	くども児友園	宮崎市	24
7	8	月	老人ホーム 長生園	宮崎市	4
7	8	月	春生会	宮崎市	19
7	8	月	細見クリニック	宮崎市	6

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
7	8	月	にじいろホース	宮崎市	10
7	10	水	みなみこども園	宮崎市	27
7	10	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
7	11	木	三和保育園	宮崎市	58
7	11	木	老人ホーム 長生園	宮崎市	4
7	11	木	デイサービス ほのぼの青葉	宮崎市	14
7	11	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	4
7	12	金	共愛幼稚園	宮崎市	39
7	12	金	ハッピーコーポレーション	宮崎市	20
7	13	土	みつばちキッズ柳丸	宮崎市	10
7	13	土	千代田幼稚園	宮崎市	36
7	13	土	カリタスの園 竹の家	宮崎市	10
7	15	月	enjoy きつず	宮崎市	4
7	15	月	スタジオ ミント	宮崎市	8
7	17	水	野の花幼稚園	宮崎市	27
7	17	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
7	18	木	NPO法人 笑福会 笑顔の里	三股町	8
7	18	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	4
7	19	金	こどものしろ保育園	宮崎市	15
7	19	金	じよいすてつぷ	宮崎市	10
7	19	金	デイサービスなかしま	宮崎市	9
7	20	土	成華幼稚園	宮崎市	31
7	20	土	新ビスティス	高鍋町	8
7	21	日	カリタスの園 竹の家	宮崎市	11
7	22	月	アットホーム	宮崎市	10
7	22	月	生目台幼稚園	宮崎市	36
7	24	水	グループホームほのぼの青葉 二番館	宮崎市	12
7	25	水	じよいすてつぷ	宮崎市	13
7	25	木	花ヶ島幼稚園	宮崎市	14
7	26	金	JA宮崎中央ピーマン部会	国富町	15
7	26	金	浮ノ城ひまわり幼稚園	宮崎市	42
7	26	金	放課後等デイサービスら・ぼるて	宮崎市	9
7	26	金	民間学童保育 おちあいさん家	宮崎市	6
7	27	土	住吉南小学校 クラス会	宮崎市	44
7	27	土	湘桜台子ども会	宮崎市	11
7	27	土	山形県議 船山 現人	県外	1
7	27	土	玉名工業高校 ソフトテニス部	県外	38
7	28	日	直純寺子ども園	宮崎市	139
7	28	日	西日本スイミングクラブ	宮崎市	28
7	29	月	メルヘンスポーツ 始良校	県外	47
7	29	月	細見クリニック	宮崎市	6
7	31	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	4
7	31	水	若草病院	宮崎市	6
7	31	水	若草病院	宮崎市	6
8	2	金	石井記念明倫保育園	高鍋町	13

イントを用いて事前にピオトープ内で撮影した生き物の写真や名前を紹介したり、当館が所有する資料の触察体験を通して、生き物の生態について説明した。  
参加者：45人（幼稚園児）

ウ 宮崎西高等学校附属中学校「青島巡検（探求）」への協力

担 当：岩切勝彦（植物部門）  
期 日：令和元年7月17日（水）  
場 所：野島神社、青島

内 容：宮崎西高等学校附属中学校1年生2クラスを対象として、県内に自生する亜熱帯植物を中心に解説する巡検を行った。サクラランやクワズイモ、オオハマグルマ、ハマナタマメ、ハマゴウ等の亜熱帯性植物が花期を向かえていた。各観察ポイントでは、宮崎県と屋久島・種子島の自然について比較しながら解説した。



授業の様子

参加者：84人（1年生）

エ 宮崎大学博物館実習事前指導への協力

担 当：濱田真理（学芸課）、川畑英美（展示解説員）  
期 日：令和元年6月29日（土）

場 所：総合博物館 研修室1、自然史・歴史・民俗展示室、特別展示室、収蔵庫ほか  
内 容：博物館等で館園実習を受ける学生に対する事前指導の一環として、当館の事業内容や学芸課職員の業務内容の説明、展示解説などを行った。

参加者：8人

オ 宮崎市立大宮小学校への協力

担 当：中山貴義・濱田真理（地質部門）  
期 日：令和元年12月18日（水）～20日（金）  
場 所：総合博物館 自然史展示室・研修室1

内 容：地質に関する学習のまとめとして、博物館の資料を活用した授業に協力した。宮崎県全体や学校周辺の地質の説明、県内で産出する化石の紹介を行った。

参加者：164人（6年生）

カ 宮崎第一高等学校への協力

担 当：中山貴義・濱田真理（地質部門）  
期 日：令和元年10月9日（水）  
場 所：宮崎第一高等学校 物理教室

内 容：薩摩半島南部の開聞岳及び周辺地域の視察旅行に向けた事前学習支援を行った。宮崎県及び鹿児島県全体の地質と、開聞岳周辺の地質の概要を説明し、双眼実体顕微鏡を使った赤江浜と川尻海岸（開聞岳東側）の海砂を比較した。

参加者：35人（文理科1年1組及び教諭）

キ 九州保健福祉大学学芸員養成課程施設見学への協力

担 当：濱田真理（学芸課）、川畑英美（展示解説員）  
期 日：令和元年6月29日（土）

場 所：総合博物館 研修室1、自然史・歴史・民俗展示室、特別展示室、収蔵庫ほか

月	日	曜	団 体 名	市町村名	人数
10	10	木	くども児友園	宮崎市	23
10	10	木	綾幼稚園	綾町	26
10	10	木	デイサービス雁ヶ音	宮崎市	10
10	11	金	平和が丘保育園地域子育てセンター	宮崎市	15
10	13	日	延岡市障がい者父母の会	延岡市	8
10	16	水	田野町身体障害者福祉会	宮崎市	8
10	16	水	田野カトリック聖母幼稚園	宮崎市	19
10	16	水	杉の子会	日南市	29
10	16	水	デイサービス バスクール	宮崎市	11
10	17	木	モジラ・テラス	都城市	6
10	17	木	デイサービス バスクール	宮崎市	15
10	18	金	ひがし幼稚園	宮崎市	53
10	18	金	デイサービス バスクール	宮崎市	13
10	19	土	九州保健福祉大学学芸員養成課程施設見学	延岡市	8
10	19	土	エナカのさと	宮崎市	6
10	19	土	放課後等デイサービス ポコアポコ	都城市	25
10	20	日	大宮小学校1年1組レクレーション	宮崎市	44
10	21	月	くども児友園	宮崎市	22
10	21	月	宮崎若久病院	宮崎市	10
10	21	月	タンポポ保育園	宮崎市	10
10	21	月	浮城ひまわり保育園	宮崎市	4
10	21	月	あさひの里	高原町	34
10	21	月	児童デイサービス アニマート宮崎島之内	宮崎市	3
10	21	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
10	22	火	放課後等デイサービス ツナグ	都城市	7
10	24	木	宮崎若久病院	宮崎市	11
10	24	木	タンポポ保育園	宮崎市	11
10	24	木	伊勢ヶ浜保育園	日向市	36
10	24	木	モジラ・テラス	都城市	6
10	25	金	カルデラASO運営委員会	県外	12
10	25	金	あさひの里	高原町	32
10	26	土	ちくたくく大宮児童クラブ	宮崎市	6
10	28	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	6
10	28	月	皇寿園デイサービスセンター	宮崎市	16
10	30	水	サンフローラ みやざき	宮崎市	5
10	30	水	田野カトリック聖母幼稚園	宮崎市	14
10	31	木	サンフローラ みやざき	宮崎市	6
11	1	金	潮見保育園	宮崎市	70
11	1	金	志布志いきが大学	県外	18
11	4	月	社会福祉法人 道志福祉会 ハッピーコーポレーション	宮崎市	5
11	6	水	JA西都女性部役員一日研修①	西都市	15
11	6	水	甲斐 嗣男様	宮崎市	8
11	6	水	北川町上赤さんさんクラブ	延岡市	17
11	6	水	JA西都女性部役員一日研修②	西都市	19
11	7	木	きりしまの園	小林市	24

月	日	曜	団 体 名	市町村名	人数
11	7	木	新富幼稚園	新富町	44
11	8	金	沖縄県高P連	県外	6
11	8	金	市原市議会	県外	7
11	10	日	宮崎大学学芸員養成課程学外講義	宮崎市	20
11	11	月	世田谷環境学習会	県外	7
11	11	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	6
11	11	月	芳生苑デイサービスセンター	宮崎市	11
11	13	水	のぞみ保育園	宮崎市	26
11	13	水	芳生苑デイサービスセンター	宮崎市	21
11	13	水	人の話くらぶ 佐智	宮崎市	5
11	14	木	芳生苑デイサービスセンター	宮崎市	21
11	15	金	芳生苑デイサービスセンター	宮崎市	13
11	16	土	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
11	16	土	南九州大学学芸員養成課程「博物館経営論」学外講義	都城市	11
11	16	土	宮崎市国際交流協会	宮崎市	4
11	17	日	熊本県菊池市交通安全協会	県外	10
11	18	月	あおぞら保育園	宮崎市	48
11	18	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
11	20	水	パナソニック電工 松寿会	県外	20
11	20	水	NHKエンタープライズ	宮崎市	5
11	22	金	タンポポ保育園	宮崎市	13
11	22	金	船引こども園	宮崎市	25
11	23	土	スマイルシード青島	宮崎市	14
11	23	土	ふあいん神宮	宮崎市	15
11	23	土	ピースフルみらい	宮崎市	10
11	24	日	沖繩SV(ドイツ語でスポーツクラブ)	県外	26
11	25	月	くども児友園	宮崎市	24
11	25	月	広瀬児童クラブ①	宮崎市	35
11	25	月	広瀬児童クラブ②	宮崎市	32
11	25	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
11	27	水	日之影町公民館女性部	日之影町	14
11	27	水	高城町第13高齢者クラブ	都城市	20
11	27	水	朝地町土地改良区	県外	13
11	28	木	臼杵市交通安全指導員会	県外	14
11	28	木	タンポポ保育園	宮崎市	10
11	29	金	西米良教育委員会	西米良村	11
11	29	金	ニチイケアセンター	宮崎市	14
12	1	日	宮崎大学博物館情報メディア論	宮崎市	37
12	2	月	有限会社 日北塗装工業	県外	8
12	2	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	4
12	4	水	ケアハウス 芳生ヴィラ	宮崎市	18
12	4	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
12	4	水	北薩たばこ青年部	県外	10
12	5	木	都城市高齢者クラブ連合会	都城市	90
12	5	木	しんがくどう宮崎	宮崎市	20

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
12	5	木	美郷町高齢者クラブ連合会	美郷町	24
12	6	金	都城市高齢者クラブ連合会	都城市	90
12	6	金	綾町教育委員会	綾町	15
12	7	土	タンポポ保育園	宮崎市	20
12	9	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	6
12	12	木	清武社会福祉会5園合同	宮崎市	85
12	12	木	酒谷地区公民館長会	日南市	11
12	12	木	デイサービス 和知川原	宮崎市	17
12	13	金	高岡幼稚園	宮崎市	25
12	13	金	ハッピーコーポレーション	宮崎市	22
12	16	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	4
12	18	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
12	21	土	スタジオ ミント	宮崎市	7
12	21	土	新・ピスティス	高鍋町	9
12	22	日	ウバヤシ・ミネ研究室	県外	14
12	22	日	三葉建設	県外	9
12	22	日	宮崎大学学芸員養成課程「博物館資料論」	宮崎市	20
12	23	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	6
12	25	水	清芳会	宮崎市	6
12	26	木	神宮学幼稚園	宮崎市	12
12	26	木	NPO法人 ハッピークレヨン	日南市	14
12	27	金	ふあくとりーくらぶ	国富町	18
1	6	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
1	8	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
1	8	水	古賀総合病院	宮崎市	7
1	15	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
1	16	木	南九州大学	都城市	40
1	16	木	清武幼稚園	都城市	40
1	29	水	朝日旅行「日向、大隅の古墳を訪ねて」	県外	22
1	29	水	認定こども園 ソレイユ	宮崎市	33
1	29	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
1	31	金	アスエル協同組合	宮崎市	10
2	3	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
2	5	水	木花こども園	宮崎市	40
2	5	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
2	7	金	安心院土地改良区	県外	13
2	7	金	いちき串木野商工会議所	県外	30
2	7	金	認定こども園おおつか	宮崎市	79
2	7	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	7
2	8	土	浮城ひまわり幼保園	宮崎市	23
2	8	土	祇園デイサービスセンター	宮崎市	8
2	10	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
2	11	火	スマイルシード青島	宮崎市	12
2	11	火	放課後等デイサービス みなみ	宮崎市	16
2	11	火	アニマート	宮崎市	3

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
2	14	金	くども児友園	宮崎市	28
2	14	金	タンポポ保育園	宮崎市	7
2	14	金	共同保育園 どんろこ	宮崎市	17
2	14	金	宮崎中村学園	宮崎市	6
2	14	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
2	15	土	宮崎シルバー人材センター 寺子屋	宮崎市	9
2	15	土	延岡市選挙管理委員会	延岡市	10
2	15	土	まーぶるクラブ	新富町	16
2	15	土	放課後等デイサービス GIFT	西都市	10
2	17	月	みんせいかん	宮崎市	8
2	17	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	6
2	19	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
2	20	木	福島保育園	宮崎市	33
2	20	木	Grow-up まつばし	宮崎市	4
2	21	金	さくら富吉	宮崎市	10
2	22	土	ひらまつのもり保育園	宮崎市	12
2	22	土	Happy works	宮崎市	15
2	22	土	こどもプラス宮崎教室	宮崎市	14
2	22	土	スポーツパークBASIS	宮崎市	13
2	23	日	上北生産組合	県外	6
2	26	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
2	27	木	明星幼稚園	宮崎市	19
2	27	木	第7区サロン	西都市	18
2	28	金	都農聖愛幼稚園	都農町	21
3	2	月	KNT日本遺産ツアー	宮崎市	7
3	4	水	神宮学幼稚園	宮崎市	9
3	27	金	放課後等デイサービス さくら	宮崎市	10
3	27	金	放課後等デイサービス GIFT	西都市	18
3	27	金	タンポポ保育園	宮崎市	13
3	28	土	スポーツパーク BASIS 新富	新富町	12
3	29	日	佐藤 真樹様	宮崎市	7
3	30	月	タンポポ保育園	宮崎市	11
3	30	月	ピスティスみやざき	宮崎市	4
3	30	月	スポーツパークBASIS	新富町	10

#### 4 教育普及

県民誰もが参加でき、本県の自然や歴史について楽しく学べるような学習機会を提供することを目的に、本館ではこれまで収集してきた資料や調査研究成果を積極的に活用しながら、学校や関係機関と連携して、学校教育に対する支援や展示解説員による普及活動、各種講座などを行っている。

##### (1) 学校教育支援

###### ① 学校の受け入れ

学校団体が、遠足や授業などで本館を訪問する形での利用があり、令和元年度は、小学校101校、中学校5校、高等学校9校、特別支援学校5校、幼稚園・保育園・認定こども園83校の計203校を受け入れた。

###### ② 授業への支援

専門的な内容をテーマにした授業がある場合に、担当教員と事前の打ち合わせを十分行った上で、本館職員が直接生徒や学生に説明や指導を行っている。

ア 宮崎北高等学校・宮崎県総合博物館連携事業「フィールドワーク」

担当：岩切勝彦（植物）、濱田真理（地質）

期日：屋久島フィールドワーク

第1講 令和元年9月14日（土）9:00～12:00（場所：総合博物館）

第2講 令和元年10月12日（土）9:00～12:00（場所：総合博物館）

第3講 令和元年10月29日（火）～31日（木）（場所：屋久島）

青島・野島フィールドワーク

第1講 令和2年2月8日（火）9:00～12:00（場所：総合博物館）

第2講 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

対象：宮崎北高等学校サイエンス科1年生（41名）

内容：これから探求活動に取り組むサイエンス科1年生にフィールドワークの研究テーマや手法を知ってもらうことを目的として一連の事業を行った。生徒には探究活動の方法やまとめ方・報告の仕方などの基礎的内容を経験させた。本館職員は博物館での事前学習の講師を務め、屋久島では生徒への指導・助言を行った。また、全体計画や教材作成に関して高校側担当者へ助言を行った。



屋久島の事前学習



屋久島フィールドワーク



青島・野島フィールドワーク

イ 宮崎大学教育学部附属幼稚園「ビオトープ講座」への協力

担当：外山真樹・竹下隼人（動物部門）

期日：令和元年6月19日（水）

場所：宮崎大学教育学部附属幼稚園

内容：宮崎大学教育学部附属幼稚園の園児に対し、講師としてビオトープの生き物の生態の説明を行った。当初は宮崎大学船塚ビオトープで生き物採集を交えて実施する予定であったが、あいにく雨が降ったために園内で実施した。パワーポ

### (3) 博物館講座

博物館講座は、本館がこれまで収集した資料や調査研究の成果をもとに、県民に自然や歴史に関する多様な体験・学習の機会を提供することを目的に実施している。年間を通じて部門ごとに実施する普及講座のほか、特別展示に関連して実施する講座がある。特に、普及講座では、県内各地を会場として館外で実施するものを地域講座として位置づけ、地域バランスを考慮しながら、県下全域に講座会場を設定して実施している。

令和元年度は、野外講座を含む講座総数 25（地域講座 11 を含む）を設定。荒天により 2 講座が中止となり、23 講座（地域講座 9 を含む）を実施。特別展関連講座と合わせて 29 講座を実施、受講者総数は 984 人であった。

#### 【令和元年度の博物館講座参加者数一覧】

博物館講座参加者数	984 人
① 普及講座	730 人
② 特別展示関連講座	254 人

#### ① 普及講座（※**地**は地域講座）

No	部門	講座名	外部講師	実施日	場所	参加者数 (人)
1	植物	<b>地</b> 家族と先生のための野の花教室		4月20日	木之川内小学校	16
2	歴史	よろい・かぶと着用体験！		5月5日	エントランス ホール	130
3	民俗	<b>地</b> 鶴戸山の民俗を学ぼう	本部 雅裕氏	5月11日	鶴戸神宮	23
4	動物	<b>地</b> 集めよう！海のへんてこ貝がら	西 邦夫氏	5月18日	崎田浜	中止
5	地質	<b>地</b> 出張講座「岩石標本の作り方を学ぼう」		6月2日	宮崎県御池 青少年自然の家	13
6	歴史	宮崎の歴史を学ぶ 1	関 周一氏	6月15日	研修室 1	72
7	地質	標本講座「化石レプリカの標本をつくろう」		7月27日	研修室 2	20
8	動物	標本講座「昆虫の乾燥標本をつくろう」		7月28日	研修室 2 神宮の森	16
9	植物	標本講座「押し葉標本をつくろう」		7月29日	研修室 2	35
10	動物	<b>地</b> サルの島 お掃除大作戦！		8月3日	幸島	中止
11	自然史	採集作品の名前を調べる会		8月17日	情報室	60
12	資料 保存	<b>地</b> ワークショップ フスマの下張り文書はがしに挑戦！ In 都城		8月24日	都城市コミュニ ティセンター 会議室	11
13	動物	<b>地</b> さがそう！干潟のへんてこ生きものたち		9月1日	塩見川河口	41
14	考古	小丸川下流域の考古学Ⅱ ー旧石器時代から縄文時代のムラー		9月15日	研修室 1	35
15	歴史	基礎から学ぶ江戸時代		9月21日	研修室 1	21
16	植物	<b>地</b> 行藤山できのこの観察をしよう		9月28日	行藤山	26
17	民俗	みやざきの神楽を学ぼう		10月5日	研修室 1	18
18	歴史	宮崎の歴史を学ぶ 2	山下 真一氏	10月26日	研修室 1	31

内 容：博物館等で館園実習を受ける学生に対する事前指導の一環として、当館の事業内容や学芸課職員の業務内容の説明、常設展および特別展の解説などを行った。

参加者：7人

### ③ M S E C 合同探求活動発表会

M S E C（Miyazaki SDGs Education Consortium）合同探求活動発表会（主催 県立宮崎北高等学校、県立宮崎大宮高等学校、県立五ヶ瀬中等教育学校、宮崎県総合博物館）を6月16日に2階特別展示室で実施した。複数校合同のポスターセッションとして、また本館の事業として初めての取り組みとなった。高校生の探究活動の成果をまとめたポスター作品35点のポスターセッションが行われ、126人の生徒が発表した。ポスターのうち英文13件の審査には宮崎大学の留学生と A L T 合わせて35人が審査員として参加した。一般参加者を含めた参加者：310人

### ④ 学校への資料貸出し

本館では、学校支援の一環として、授業等で活用することの多い資料をセットにして、学校への貸出しを行っている。また、リスト以外の資料についても随時相談に応じている。

ア 主な貸出しセット（本館HPに掲載）

【動物】乾燥標本（トンボ、チョウ、ハチ等）、剥製標本（ほ乳類、鳥）、骨格標本（ほ乳類）

【植物】教科書掲載押し葉植物標本、コケ・シダ模型

【地質】鉱物・岩石標本、人類頭骨レプリカ、化石レプリカ

【歴史部門】蒙古襲来絵詞・西郷札・地券写真パネル、伊能図（複製）、防空ずきん

【民俗部門】むかしの道具等写真パネル、むかしの道具貸出しキット

イ 学校貸出し実績

学校名	期間	資料	点数
都城市立笛水小中学校	10/6～10/19	イソ剥製・頭骨、始祖鳥・頭骨	9点
県立赤江まつばら支援学校	2/17～2/28	昔の洗濯・炊事道具	2セット

### ⑤ 職場体験学習・インターンシップの受入れ

中高生の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成を図るため、毎年度、学校教育一環として行われている中学校の職場体験学習と高等学校のインターンシップの受け入れを行っており、令和元年度は中学校6校13人を受け入れた。

期 間	日数	学校名	学年・人数
6月19日(水)～6月20日(木)	2日間	宮崎大学教育学部附属中学校	2年生2人
6月26日(水)～6月28日(金)	2日間	宮崎市立大宮中学校	2年生3人
7月3日(水)～7月5日(金)	3日間	宮崎市立宮崎東中学校	2年生2人
11月6日(水)～11月8日(金)	3日間	宮崎学園中学校	2年生2人
11月27日(水)～11月29日(金)	3日間	宮崎市立生目中学校	2年生2人
11月27日(水)～11月28日(木)	2日間	宮崎市立赤江中学校	2年生2人

### ⑥ 博物館実習生の受入れ

学芸員資格取得を希望する大学生に対して、博物館の概要や学芸員の業務等についての理解と、展示や普及活動の実習を通しての知識や技能の習得を目的として、本館での実習を行っている。令和元年度は、5大学8人の実習生を受け入れた。

期 間：令和元年8月21日(水)～8月30日(金)の8日間（8/24(土)と8/27(火)を除く）

実習生：在籍大学・学部、人数については次のとおり。

大学・学部等	人数
東京農業大学農学部	1人
京都府立大学文学部	1人
山口大学人文学部	1人
福岡大学人文学部	2人
宮崎大学農学部	3人

## (2) 展示解説員による普及活動

来館された方に対してきめ細やかなサービスを提供するため、平成12年度から展示解説員制度を本格スタートさせた。展示解説員は、学校やその他の団体の来館時対応や展示解説を担当するほか、来館者の案内や問い合わせの対応を行っている。また、常設展示室において、紙芝居・クイズラリーなどの催し物の運営を行っている。

【展示解説員が担当する催し物の参加者数】 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
定時解説及び 通常解説	168	2398	765	369	392	384	1730	1839	181	385	87	0	8,698
紙芝居	521	626	403	443	780	390	326	393	242	260	432	0	4,816
むかしのあそび	188	309	421	367	895	131	176	266	254	131	327	0	3,465
クイズラリー	79	60	328	142	104	134	83	125	26	30	99	0	1,210

### ① 常設展示室の展示解説

常設展示室では、来館者が展示資料等に関する理解を深め、本県の自然や歴史に対する関心を持ってもらうため、展示解説員による展示解説を行っている。この展示解説には、あらかじめ日時と展示室を指定して定期的に行う「定時解説（ガイドツアー）」と、来館者の要望に応じて随時行う「通常解説」があり、申込みに応じて実施している。

まず、定時解説については、毎週土曜日、日曜日、祝日の午前と午後に、自然史、歴史、民俗の各展示室を指定して、30分程度の解説を行っている。また、通常解説には、個人解説と団体解説があり、時間、内容、展示室についての入館者の希望に可能な限り対応しており、特に、学校団体には、希望に応じて「むかしの道具」の解説マニュアルを使った解説を行ったり、視覚障害者向けには触察資料を紹介するマニュアルを用いた解説を行っている。

令和元年度に展示解説を受けた方の数は8,698人であった。

### ② 催し物の運営

展示解説員の企画運営により、次の催し物を行った。

#### ア 紙芝居

歴史展示室「時代のひろば」にて、紙芝居を日曜日及び祝日に2回（午前11時30分～、午後2時30分～）実施した。紹介する紙芝居は、各回とも2話である。紙芝居は、「時代のひろば」に設置している紙芝居舞台を用いた。

また、移動可能な紙芝居用自転車を利用して、民家園春まつりや博物館ひなまつり等のイベントでも紙芝居を行った。

令和元年度の紙芝居参加者は4,816人であった。

#### イ むかしのあそび体験ひろば

毎月第1・3・5土曜日（午前9時～午後4時）に、歴史展示室「時代のひろば」で、

「けん玉」「お手玉」「あやとり」「おはじき」など遊び道具を用い、「むかしのあそび」を体験する場を設けた。遊び方については、展示解説員がアドバイスをした。

また、5月5日（日）には、「むかしのあそび拡大版」を実施した。この日は、通常の遊び道具に加え、「福笑い」や「魚釣りゲーム」「折り紙」などを用意した。

令和元年度の体験者数は3,465人であった。

#### ウ クイズラリー

クイズラリーは、館内の展示資料を見ながら、用意された問題（クイズ）を解いていく催しで、定期的実施する通常版と、来館者の多い時期に実施する特別版がある。

通常版には、個人用と団体用があり、個人用の対象は小中高生及び大人で、毎月第2・4土曜日の午前9時から午後4時まで参加を受け付けて実施しており、参加者には参加賞を、設定した段階をクリアした正解者には賞品を贈呈することとしている。団体用は、低学年、高学年を対象とした問題の2種類用意しており、親子会や児童クラブ等のレクリエーションや学級単位での利用があった。

特別版では、ゴールデンウィーク期間中に「みどりの日クイズラリー」、文化の日に「文化の日クイズラリー」と題して、館内と民家園を巡って解く特別問題を作成した。「みどりの日クイズラリー」は、全問正解者の中から抽選で賞品を贈呈することとしている。

令和元年度は、通常版に1,008人（個人用655人、団体用9団体353人）、特別版は202人（5月4日115人、11月3日87人）の参加があり、計1,210人の参加があった。

### ③ 地域回想法「博物館で思い出を語ろう！」事業の実施

本館では高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に「博物館で思い出を語ろう！」事業を試行的に実施しており、展示解説員が来館当日の団体対応をはじめ、実施マニュアルの作成、福祉施設との連絡調整などを担当している。

（活動の詳細は63頁参照）

### ※その他展示解説員が担当する業務

展示解説員は①～③を担当する他、本館の普及活動等に関わる次の業務も担当している。

- ゴールデンウィーク・夏休み、冬休みイベント等の企画立案
- イベント運営（博物館こどもDAY、風車フェスタ）
- 展覧会の開会式における司会進行と介添え、誘導、監視
- 展覧会の準備補助、チラシ等発送業務
- 学芸課が行う講座などの補助
- 燻蒸期間やメンテナンス期間、特別整理期間における展示室・収蔵庫の整理・清掃
- IPM ウォッチング
- 広報推進委員会出会
- SNSによる広報

**(5) 民家園を活用した普及事業**

国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟の計4棟の古民家からなる民家園の活用事業については、平成19年度の「民家園利活用構想報告書」をもとに、平成20～21年度は「民家園利活用促進事業」、平成22～23年度は「民家園環境整備事業」、平成24～25年度は「総合博物館民家園を活用した故郷の四季体験事業」として展開してきており、平成26年度から「民家園民俗文化体験事業」として、正月行事体験、伝統芸能（神楽公演）、民家園春まつりを実施している。これらの他、民家園ボランティアによる火入れ（毎週土曜日）や昔の道具体験、県内の語り部の会による宮崎の昔話公演、民家園の貸出しなどを行っている。また、令和元年度から伝統文化や民俗の伝承などを行いたい個人や団体に民家園を無料で貸し出す「民家園利用事業」を新たに実施している。7月からは、営利目的の場合における有料の貸し出しも実施している。

**① 火入れ**

民家園ボランティアによる、民家の囲炉裏の火入れを毎週土曜日に実施している。囲炉裏から出る煙が茅葺き屋根の茅に浸透することで、茅に虫が付かなくなり、またタールが茅に付着することで水をはじくようになり、茅を長持ちさせるなどの効果があるといわれる。



**② 伝統文化体験講座**

ア 民家園で昔ながらの正月準備を体験しよう！

実施日：令和元年12月21日（土）

会場：椎葉の民家の前庭

講師：民家園ボランティア

参加者：176人

内容：椎葉の民家の庭で、昔ながらの正月準備を体験する講座を実施した。講師である民家園ボランティアの指導のもと、伝統的な正月準備である煤払いと餅つきの体験を行った。

天候に恵まれ、多くの方々が参加された。経験することが少なくなった正月準備を、家族や友人とともに楽しみながら、本県の伝統文化に触れる機会を提供することができた。



餅つきの様子

イ 正月飾り製作体験講座

実施日：令和元年12月22日（日）

会場：椎葉の民家の前庭

講師：匠の会（銀鏡会）

参加者：13人

内容：正月に飾る注連（しめ）飾りとミニ門松の製作を体験する講座を実施した。西都市銀鏡地区の「匠の会」の講師3人の指導のもと製作を行った。あいにくの雨のため民家内で行ったが、個人だけでなく親子や夫婦での参加もみられ、本県の伝統文化を皆で学ぶ講座となった。



注連縄づくりの様子

19	地質	地南郷・祇園崎の海岸地形と地層を観察しよう		10月27日	祇園崎	17
20	考古	地西都原古墳群の前期古墳を中から観察しよう		11月10日	西都原古墳群	29
21	植物	はじめての草木染め	中武 享子氏	11月17日	研修室2	18
22	地質	地丹助岳に登って環状岩脈を観察しよう		11月23日	丹助岳	18
23	動物	これからはじめるバードウォッチング	前田 幹雄氏 猪崎 悦子氏	11月24日	研修室1 神宮の森	26
24	民俗	佐土原人形絵付け体験	下西 美和氏	11月30日	研修室1	20
25	地質	石みがきをしよう～化石編～		2月9日	研修室2	34

**② 特別展示関連講座**

No	講座名	外部講師	実施日	場所	参加者数(人)
1	SSP 展関連講座 こども写真教室「生き物写真のススメ」	東木場 昭裕氏	4月29日	エントランス ホール 宮崎神宮の森	54
2	SSP 展関連講座 「プロに学ぶ写真撮影講座」	東木場 昭裕氏	5月19日	研修室1	44
3	蔵出し展関連講座 「むかしの草花あそび」	荒川 福夫氏	10月19日	民家園	38
4	蔵出し展関連講演会1 「祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの自然」	岩本 俊孝氏	10月26日	研修室1	35
5	蔵出し展関連講座 カルイ製作実演見学会	小川 鉄平氏	11月9日	エントランス ホール	55
6	蔵出し展関連講演会2 「九州のミツバツツジ類」	南谷 忠志氏	11月16日	研修室1	28

**【主な講座実施例】**

ア 博物館講座「南郷・祇園崎の海岸地形と地層を観察しよう」

実施日：令和元年10月27日（日）

実施場所：祇園崎（日南市南郷町）

参加者：17人

内容：南郷町の祇園崎付近は、宮崎層群と日南層群が不整合で接している場所で、地質的に特異な地域である。祇園崎の海岸と黒島の地層を比べることで、この間に不整合がある事を知ることができる。さらに、祇園崎の海食台には、斜交層理や級化層理、生痕化石など、堆積時の環境を伺い知れる堆積岩が多く見られる。



海岸での講座の様子

講座では、こうした地形及び堆積岩の説明や、そこから分かる大地の成り立ちを説明しながら観察を行った。参加者は、様々な堆積構造や生痕化石を熱心に観察したり、探したりできていた。さらに、周囲の地形から宮崎のダイナミックな成り立ちや、過去の大地の変動に思いを馳せることができていた。

イ 博物館講座「基礎から学ぶ江戸時代」

実施日：令和元年9月21日（土）

実施場所：研修室1・歴史展示室

参加者：21人

内容：博物館講座「基礎から学ぶ江戸時代」を実施した。今回の講座では、江戸時代を大きく4つの柱（幕府の体制、人々の生活、税の仕組み、江戸時代の日向国）に分けて講義した。

内容的には、中学校の歴史の教科書を参考に、基礎的な用語や内容を交えて話しを進めた。みなさんメモをとりながら熱心に話を聞いていた。研修室での講義の後、歴史展示室に実際に行き、山陰・坪谷の百姓一揆の展示や日向国絵図、牛の峠論山などの説明を行った。台風接近の影響で、当日朝に「記録的短時間大雨情報」が出され、1時間120mmの豪雨があり、博物館正面入り口も冠水するほどであった。



江戸時代の解説

(4) 「どこでも博物館」事業

本館が所在する宮崎市から離れ、訪れることが難しい地域の県民を対象に博物館が出向き、収蔵資料の展示紹介や体験講座を行う「どこでも博物館」事業を平成27年度から実施してきた。輸送手段に大型トラックを用いる「展示充実推進事業」の2年目にあたる今回は、宮崎県工業技術センターの企画・デザイン部との共同研究として、デザインや会場表示の充実を図りながら県内3か所で開催した。

① どこでも博物館 in 木之川内小学校

日時：令和元年5月30日（木） 午前10時10分～午後3時

会場：都城市立木之川内小学校 体育館

後援：都城市教育委員会

内容：自然史3部門と歴史・民俗部門の合計5部門と博物館活動紹介を合わせた6ブースを設定した。自然史部門からは都城市に関連のある資料を中心に、歴史・民俗部門は着用体験を中心に展示紹介した。学年毎に設定した各事業の冒頭では、博物館活動と学校周辺の自然を3D映像で紹介し、グループ毎に各ブースを回ってくる児童達に解説を行った。共同研究で製作したタイトルバナーの活用や、チラシデザインについての充実を図ることができた。



参加者：158人

② どこでも博物館 in 尚学館小学校

日時：令和元年7月4日（木） 午前9時30分～午後2時30分

会場：学校法人延岡学園 尚学館小学校  
視聴覚室 大会議室 1Fロビー

内容：特別教室やロビーを使い校内に3会場を設置する初めての試みであった。自然史3部門と歴史・民俗部門に博物館活動紹介の6ブースと映像資料として3Dシアターを別室に設置した。前日の天候不良により当日公立学校が臨時休校となり、予定していた北川小学校は参加できなかった。共同研究で各ブースの展示内容を紹介する表示の工夫も行った。



参加者：286人

③ どこでも博物館 in 串間市民秋まつり

日時：令和元年11月2日（土） 午後2時～午後5時  
// 3日（日） 午前9時～午後3時

会場：串間市文化会館 エントランスホール

内容：串間市民秋まつりの開催にあわせ、串間市児童・生徒作品展の会場入口に自然史3部門と歴史・考古の5部門と開催中の特別展の紹介コーナーを設けた。観覧者のほとんどは子どもたちの作品展を見学に来た親子連れであった。体験展示にあわせて、今回初めて試みたVRスコープによる特別展の会場紹介や、共同研究で製作した「光るきのこ体験BOX」も好評であった。



参加者：412人

那賀教史氏・地村光弘氏（宮崎民俗学会）3件2名、小山博氏（埋蔵文化財センター／民俗）2件1名

<共同研究等>

吉田英一氏（名古屋大学博物館）

関屋千草氏・西原玲子氏・布施郁子氏（宮崎県工業技術センター）

③ 視察・調査等で来館された関係機関等（順不同）

計21機関

<県外>

東京農業大学、宮内庁書陵部、名古屋大学博物館、奈良県立橿原考古学研究所、元興寺文化財研究所、大阪大谷大学、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、九州大学総合研究博物館、福岡大学、佐賀県立宇宙科学館、天草市立御所浦白亜紀資料館、鹿児島大学、和歌山県立紀伊風土記の丘、鹿児島県立博物館、山形県県議会議員

<県内>

延岡市経営政策課、県立延岡高等学校、県立宮崎大宮高等学校、県立宮崎北高等学校、県高校教育課、県立西都原考古博物館

④ 資料の貸出し

ア 館外資料貸出し

計10機関

部門	資料名	貸出先	期間	目的
動物	ニホンジカ骨格標本（一部）	霧島錦江湾国立公園管理事務所えびの管理官事務所	令和元年8月2日～8月16日	「霧島山モンテフェスティバル in えびの高原」におけるシカ調査効果に伴う実物資料提示
	イノシシ剥製1点、イノシシ頭骨1点	都城市立笛水小中学校	令和元年10月6日～10月19日	授業で使用
	昆虫乾燥標本	宮崎県立西都原考古博物館	令和元年9月2日～10月4日	コレクションギャラリー展「文化財を守る伝える②」における実物資料展示
植物	種子標本（乾燥標本35点）	鹿児島県立博物館	令和元年7月6日～9月8日	企画展「あそびがいっぱい『たねランド』」での展示
	オオヨドカワゴロモ（レプリカ）1点・オオヨドカワゴロモ（拡大模型）1点	小林市教育委員会	令和元年12月16日～12月20日	小林市立三松小学校での出前授業で使用
地質	始祖鳥化石（レプリカ）1点、人類頭骨（レプリカ）6点	都城市立笛水小中学校	令和元年10月6日～10月19日	授業で使用
考古	鈍復元模型1点・デシケーター1点 計2点	宮崎県立西都原考古博物館	令和元年12月6日～令和2年1月10日	コレクションギャラリー展「文化財を守る 伝える③」での展示
歴史	刀掛け	綾町産業活性化協会	令和元年11月18日(月)～25日(月)	令和元年国際クラフトの城ミニ刀剣展示企画展にて展示
	小村寿太郎関係資料	松山市坂の上の雲ミュージアム	全会期：2020年2月上旬～2021年3月上旬まで	第14回企画展テーマ展示「『坂の上の雲』のひとびと」において借用資料を展示
民俗	昔の道具貸出キット（昔の選択道具、昔の炊事道具）	赤江まつばら支援学校	令和2年2月17日～2月28日	授業で使用

ウ 県内の神楽公演

<三川内神楽公演>

実施日：令和元年10月20日（日）

会場：椎葉の民家

公演者：三川内神楽保存会（延岡市）

参加者：456人

内容：15名の神楽保存会（子ども3名を含む）により、「老神楽」など7演目が披露した。参加者は激しい太鼓のリズムと躍動感あふれる舞を堪能していた。

午後からの体験講座にも多くの方が参加し、保存会の方から直接、舞や太鼓を習い、面や衣装の着用も好評であった。



三川内神楽公演

<山宮神楽公演>

実施日：令和2年2月2日（日）

会場：椎葉の民家

公演者：山宮神楽保存会（日南市）

参加者：304人

内容：子どもを含む約10名の神楽保存会により、「鯛釣り舞」など7演目を披露した。子どもや若手が舞だけでなく太鼓や笛も見事にこなし、拍手喝采であった。

当日は郷原神社からの絵馬のお土産や裏千家によるお茶やお菓子のふるまいもあり、参加者に喜んでいただいた。



山宮神楽公演

③ 「みやざきの昔話」公演

実施日：平成31年4月20日、令和元年5月18日、6月15日、7月20日、8月17日、9月21日、10月19日、11月16日、令和2年2月15日（※ 年9回実施、3月は中止）

会場：民家園 椎葉の民家

講師：「民家園語りの会」「都城語り部の会」

「神話語り部の会」会員

参加者：259人（9回の合計）

内容：12月と1月を除く毎月第3土曜日に、毎回5～6話の県内各地で語り継がれてきた昔話を椎葉の民家で語ってもらった。7月と8月は特別に怖い話の特集し、50名を超える参加があった。

耳で聞く昔話は、本で読むのとは一味違ったおもしろさがあり、子どもから大人まで幅広い年齢層に楽しんでいただいた。



昔話公演の様子



④ 昔のくらし体験

実施日：2回（詳細を下に示す）  
 令和元年11月6日（水） 住吉南小学校3年生 90人  
 令和元年11月13日（水） 内山子ども園 17人

会場：椎葉の民家  
 講師：民家園ボランティア  
 参加者：107人（2回の合計）

内容：年末年始等の休館日を除く毎週土曜日に活動している民家園ボランティアが指導者となり、小学生などを対象に、各民家の囲炉裏や石臼、唐箕などの昔の道具の使い方を指導した。  
 実際に道具を使った体験ができ、参加した小学生などには好評であった。



昔のくらし体験の様子

⑤ 民家園利用事業

実施日：9回（詳細を下に示す）  
 平成31年4月28日（日） 茶道団体の茶会 300人  
 令和元年5月29日（水） 大学生の着物で書道 15人  
 令和元年6月17日（月） 大学生の着物で書道 28人  
 令和元年7月6日（土） 外国人の雅楽体験 30人  
 令和元年9月1日（日） 俳句の吟行会 21人  
 令和元年11月17日（日） 外国人のおにぎり体験教室 7人  
 令和2年1月19日（日） ボーイスカウトの茶道体験 30人  
 令和2年1月19日（日） 団体会員の茶道体験 22人  
 令和2年2月2日（日） 茶道団体の抹茶ふるまい 110人

会場：椎葉の民家、米良の民家等  
 参加者：563人（9回の合計）

内容：今年度から、個人や団体を対象に、伝統文化や民俗の伝承などの事業の実施により、参加者の民家園に対する理解の促進が期待できるものを対象として、民家園利用事業を実施している。伝統文化として茶会、雅楽体験や書道体験等、民俗の伝承として神楽体験等が行われた。民家園の利用料金は、営利を目的としない場合、無料とし、営利を目的とする場合は、有料としている。  
 （無料の実績8件、有料の実績1件）



雅楽体験の様子

⑥ その他

ア レコードコンサート

実施日：令和元年10月6日（日）  
 会場：椎葉の民家  
 参加者：126人

内容：宮崎レコード音楽愛好会との共催事業として実施し、プロモニターJBL4320などの音響機器を用いて懐かしい音楽を流すレコードコンサートを行った。和製のフォーク&ポップスをはじめ、懐かしい日本の歌や映画音楽、ラテン音楽を流して、来場者に楽しんでいただいた。



レコードコンサートの様子

(6) 関係機関との連携

博物館活動を展開するにあたっては、関係機関との連携が不可欠であることから、他の博物館や研究機関、さらに教育関係機関と連携し、調査研究等のための職員派遣・招聘、展示等に伴う資料の貸出・借用、情報交換等を行っている。

① 職員の派遣

他の機関からの依頼に応じて、講師や委員会のメンバーとして、また企画展などの指導・助言者として、職員の派遣を行った。

年月日	依頼機関	依頼内容	派遣職員
令和元年5月29日	香港公開大学（宮崎香港事務所）	文化レクチャー （宮崎県の神楽及び神話について）	野添和洋
令和元年6月17日	香港中文大学（宮崎香港事務所）	文化レクチャー （宮崎県の神楽及び神話について）	野添和洋
令和元年7月7日	宮崎大学教育学部	「大学教育入門セミナー」 「学校教育活動における教育活動について」	福松東一
令和元年7月17日	宮崎西高等学校附属中学校	中学1年「探究」の時間《青島巡検》講師	岩切勝彦
令和元年9月14日 10月12日 10月29日～31日 令和2年2月8日	宮崎県立宮崎北高等学校	ブレ探究活動「宮崎と自然」講師 3講座 （事前学習2講座、まとめ学習1講座） 探究活動「屋久島フィールドワーク」 講師 2泊3日1講座 計6回派遣	岩切勝彦 濱田真理
令和元年10月9日	宮崎第一高等学校	総合的な探求の時間 宮崎県の地質の概要、鹿児島県の地質の概要等	中山貴義
令和元年11月10日	宮崎県教育庁高校教育課	第9回「科学の甲子園」宮崎県予選答案の採点業務	濱田真理
令和元年12月14日 ～12月16日	宮崎県高等学校等教育研究会 理科部会	令和元年度九州高等学校生徒理科研究発表大会宮崎大会審査員	濱田真理
令和元年12月21日	西都市教育委員会社会教育課	「ナウマンゾウ化石発掘体験」	中山貴義 濱田真理
令和元年12月22日	日南市北郷町森林セラピー協議会	日南市北郷町森林セラピー協議会森林ガイド育成講座	福松東一 岩切勝彦

計10件15回

② 職員等の招聘

※講座・展示・講演会・共同研究等 計20件22名

普及講座の外部講師として5件6名、特別展示関連講座の外部講師として4件4名で関連展示として1件1名、調査研究で8件7名、名古屋大学博物館との相互協定のために1件1名、県工業技術センターとの共同研究のため1件3名を招聘した。

<普及講座>

前田博仁氏（宮崎民俗学会）、本部雅裕氏（鶴戸神宮宮司）、下西美和氏（佐土原人形製作所ますや）関周一氏（宮崎大学教育学部）、前田幹雄氏・猪崎悦子氏（日本野鳥の会）

<特別展関連>

東木場昭裕氏（写真家）、岩本俊孝氏（宮崎大学名誉教授）、南谷忠志氏（宮崎植物研究会）小川鉄平氏（竹細工職人）、鬼塚良昭氏（植物素材アート）

<水系別総合調査（小丸川水系）>

福島英樹氏（県文化財課／鳥類・哺乳類）横倉康浩氏（北部教育事務所／両生・爬虫類）2件2名  
 流田勝夫氏・宍戸章氏（宮崎地質研究会）1件2名

② 問い合わせ内容

(単位：件)

	自然史			歴史			その他 *1	合計
	動物	植物	地質	考古	歴史	民俗		
部門に関すること	148	105	73	32	101	55	0	514
展示会	0	2	6	0	5	0	4	17
講座	6	5	5	0	6	1	6	29
イベント	0	3	4	1	1	5	13	27
その他 *2	3	1	1	0	2	1	27	35
合計	157	116	89	33	115	62	50	622

\*1 その他は、主に館の沿革や館全体に関すること

\*2 その他は、館の施設利用や撮影許可等の問合せ。

(9) 博物館友の会の活動支援

博物館友の会は、会員が自ら積極的に本県の自然や歴史を学ぶことによって自らの教養を豊かなものにするとともに、博物館が今後さらに充実発展することを願って、その活動を支援することを目的として、平成11年8月に設立された。令和元年度の活動内容は以下のとおりである。

① 会員

個人会員：35人 家族会員：10家族 賛助会員：1団体

② 役員

会長	齊藤 政美	監事	中島 宜幸
副会長	八木真紀子	〃	末吉 豊文
理事	黒葛原由美		
〃	中島沙於吏		
〃	下西 美和		
〃	松本 美津		

③ 友の会事業

ア 行事等

(単位：人)

実施日	行事	参加人数
4月6日(土)	理事会・通信発送	6名
4月27日(土)	SSP 展開会式・ガイドツアー	4名
5月25日(土)	地域探訪：三之宮峡ハイキング(小林市)	15名
6月16日(土)	学芸員講座：人形浄瑠璃鑑賞(山之口町)	14名
6月29日(土)	学芸員講座：平和台のキノコ観察会	10名
7月7日(日)	理事会・通信発送	6名
8月24日(土)	室内講座：佐土原人形 絵付け体験	14名
9月29日(日)	地域探訪：細島・美々津を訪ねて	11名
10月6日(土)	野外行事：サシバ観察会(都城市)	11名
10月7日(日)	理事会・通信発送	6名
10月19日(土)	蔵出し展開会式・ガイドツアー	5名
11月16日(土)	野外行事：キレットトリモチと県南の花	12名
12月1日(日)	バスツアー：大分県臼杵の石仏	20名
1月11日(土)	理事会・通信発送	5名

イ 資料の館内利用

計17件

	資料名	点数
考古	下北方13号墳出土形象埴輪 計8点	1件
	伝持田古墳群出土鏡 計3点	1件
	持田24号墳出土鏡	1件
地質	石崎川地層剥ぎ取り標本	1件
	五ヶ瀬町祇園山産クサリサンゴ化石標本	1件
	鉱物・化石標本 計10点	1件
	五ヶ瀬町産アンモナイト化石標本	1件
歴史	耳川合戦図屏風パネル	1点
	弓削家文書	1件
	荒武文書	1件
	小村寿太郎関係資料	15点
	高橋文書	1件
	日本持丸長者鑑	1点
	土持文書	1件
	佐土原御城下細見之図	1点
	昭和絵巻	1点
	川畑家資料	1件

ウ 貸出した写真データが展示・出版物等に掲載・放映された資料

計14件

	資料名	出版社・機関
歴史	「耳川合戦図屏風」パネル	南日本新聞社「島津義弘没400年」事業で使用
	木造大黒天像(木喰仏)画像データ	日本文芸社『眠れなくなるほど面白い 図解仏教』に掲載
	富山文書「島津庄政所下文」	都城歴史資料館ガイドランス用ビデオ「都城の歴史」で使用
	小村寿太郎関係資料	松山市坂の上の雲ミュージアム「企画展」で使用
	川越 進 肖像写真画像データ	株式会社ポプラ社 小学校高学年地理学習図鑑『都道府県別日本地理・九州』において使用
	錦の御旗(画像データ)	朝日新聞出版『歴史道』vol.6「幕末維新の争乱」にて使用
	錦の御旗(画像データ)	南日本新聞社『維新鳴動 かごしま再論』にて使用
	地券(宮崎県発行)画像データ	株式会社日本標準『社会科資料集6年』における『明治維新と新しい世の中』で掲載
	山田文書「伊集院元巢書状」(画像データ)	鹿児島県歴史資料センター黎明館「黎明館だより」vol.37-3に掲載
	錦の御旗(画像データ)	新学社2020年版『歴史資料集』で使用

歴史	歴史展示室・民家園写真	東建コーポレーション「ホーム メイト・リサーチ」特集ページ に掲載
	高橋文書 日本持丸長者鑑 土持文書	延岡市 内藤記念館「延岡市 内 藤記念館新築工事に伴う展示の 充実」を図るため
	佐土原御城下細見之図	生目の杜遊古館「グラフィック パネル」を製作するため
	昭和絵巻―橋通から江平町―	生目の杜遊古館「映像機器」に 画像を使用するため

⑤ 本館が資料を借用又は展覧会・調査研究等で協力を得た関係機関（順不同） 計 30 機関

< 県外 >

栃木県立博物館、群馬県立自然史博物館、茨城県自然博物館、国立科学博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、静岡大学、名古屋大学博物館、大阪市立自然史博物館、九州大学総合研究博物館、福岡大学、熊本博物館、天草市立御所浦白亜紀資料館、鹿児島県立博物館、多摩動物公園

< 県内 >

県御池青少年自然の家、県中部農林振興局、県オールみやざき営業課、県工業技術センター企画・デザイン部、都城市教育委員会、県立高千穂高等学校、県立高鍋高等学校、県立宮崎北高等学校、県立宮崎大宮高等学校、県立都城泉ヶ丘高等学校、県立都城西高等学校、県立小林高等学校、宮崎県総合博物館友の会、宮崎地質研究会、宮崎化石研友会、県埋蔵文化財センター

⑥ 名古屋大学博物館との相互協力に関する協定

本館と名古屋大学博物館とは、令和元年 12 月 12 日（木）に相互協力に関する協定書の調印式を行い、協定を締結した。調印式では、名古屋大学博物館の吉田英一教授（大路樹生館長の代理として出席・宮崎県延岡市出身）と本館の黒木館長が協定書を取り交わした。今後は職員の派遣や収蔵資料の提供・貸借、共同研究などにおける相互協力を行っていく。



⑦ 宮崎工業技術センターとの連携

これまでは、企画展をはじめとする博物館活動における各種デザインは、一部委託業者に頼るものであったが、職員の主観がほとんどであった。宮崎工業技術センターの企画・デザイン部が共同研究を通じて県民の博物館活動に対する興味・関心を高め、集客アップにつなげるためのデザイン活用に取り組んだ。

⑧ 宮崎大学との共同調査

宮崎大学地域資源創成学部の在学生を対象とした総合博物館の利活用に係る現状及び意向について把握し、若者の博物館並びに県内社会教育・文化施設の利活用向上に向けた取組の基礎資料を作成するために同大と共同して調査研究を行った。

また、9 月 25 日（水）には、学生による博物館の展示解説の体験を行い、若者のニーズを把握するために本館職員と意見交換会などを行った。

(7) 福祉施設との連携

本館を利用する高齢者、障がい者の福祉施設は、近年増加傾向にあり、令和元年度は延べ 140 団体・施設、1,309 名が来館された。

このうち、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に、平成 27 年度から展示解説員がコーディネーター役となり、博物館にある「昔の道具」「おもちゃ」「映像」等を用いて、子どもの頃や若い頃に経験したことを楽しみながら語っていただくことによって脳を活性化させ、心を元気にする「博物館で思い出を語ろう！」事業（他県では地域回想法とも呼ばれている）を行っている。令和元年度は対象団体を公募し、計 60 回実施した（テーマ回想法：細見クリニック 25 回、健幸くらぶ万智 15 回、祇園デイサービス 11 回、コース回想法：石川内科デイケア 2 回、デイサービスほのぼの青葉 1 回、グループホームほのぼの青葉二番館 1 回、若草病院 2 回、健康くらぶ万智 3 回）。また、第 6 回全国回想法サミットが本県で開催され、本館でも通常取り組んでいる回想法の公開を行った。

さらに、施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」などをパッケージにした「貸出しキット」を用意しており、令和元年度は 5 施設 13 回の利用があった。



テーマ回想法の様子



コース回想法の様子

(8) レファレンス対応

日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも何にでも相談にのれる博物館」を目指し、来館時の質問はもとより、電話やメールでのレファレンス対応に努めている。令和元年度のレファレンス件数は 622 件であった。

① 問い合わせ件数

（単位：件）

	自然史			歴史			その他 * 1	合計
	動物	植物	地質	考古	歴史	民俗		
一般	108	89	45	29	73	39	14	397
学校	5	0	13	0	2	0	6	26
博物館等施設	6	0	3	4	12	2	4	31
マスコミ	25	20	20	0	12	14	18	109
公共機関	12	2	6	0	13	5	0	38
その他 * 2	1	5	2	0	3	2	8	21
合計	157	116	89	33	115	62	50	622

\* 1 その他は、主に館の沿革や館全体に関すること

\* 2 その他は、NPO 法人等からの問合せ

## IV 情報発信及び経営

### 1 情報発信

県内外の方々が、本館に興味を持ち気軽に訪問していただくとともに、本館を訪れる際に十分に満足してもらうため、施設の運営状況や活動状況等に関する情報発信を様々な方法で行っている。

#### (1) 広報推進委員会

「宮崎県総合博物館広報戦略」に基づく館の広報と集客増に向けた取組みを推進するため、専門主幹（広報委員長）、総務担当リーダー、学芸担当リーダー、普及担当リーダー、普及担当職員（1名）、展示解説員（3名）で「広報推進委員会」を組織している。令和元年度は年12回会議を開催し、協議を行った。

#### (2) 博物館だより「森の通信」の発行（年2回）

##### ① 第66号 発行：2019年6月10日

- 夏休みイベント案内
- 講座紹介「昆虫の乾燥標本をつくろう」【動物部門】
- どこでも博物館紹介
- 民俗展示の紹介「民家園」【民俗部門】
- 収蔵資料紹介「刀」【歴史部門】
- 利用者からの問合せ「子持家形埴輪のモデルは？」【考古部門】
- 「博物館講座」案内
- 展示解説員の声「チョウと食草コーナー」



##### ② 第67号 発行：2019年9月6日

- 特別展「特選！蔵出し展」案内【全部門】
- 講座紹介「宮崎の歴史を学ぶ」【歴史部門】
- 宮崎の自然情報「幸島のニホンザル」【動物部門】
- 歴史展示紹介「花びら形住居の間取り」【考古部門】
- 収蔵資料紹介「3Dプリンターで作製した拡大模型」【植物部門】
- 利用者からの問合せ「続 隕石を見つけた!？」【地質部門】
- 「博物館講座」案内
- 展示解説員の声「いきものカルタ」



2月8日(土)	理事会・写真展準備	6名
2月9日(日)	はくとも写真展(至3月8日まで)	10名
3月14日(土)	総会	中止

刊行物

○会報「むーちゃんだより」100号～103号の発行



三之宮峡ハイキング（小林市）



蔵出し展開会式



友の会+博物館写真展



支援活動：干潟観察会（日向市）



歴史探訪バスツアー（大分県臼杵市）



キノコ観察会（宮崎市平和台公園）

(10) 研修室の利用

本館には3つの研修室があり、主に本館の諸活動で使用しているが、外部団体から利用依頼があった場合、下記の利用条件を満たしていれば、本館活動に支障を来さない範囲で貸出しに応じている。

① 研修室の定員・設備等

室名	用途	定員	利用可能な機器類
研修室1	会議室	60人	放送設備、プロジェクター、スクリーン等
研修室2	実験室	30人	顕微鏡、実験道具等
研修室3	会議室	15人	なし

② 外部団体の利用条件

本館の研修室は、以下のいずれかに該当する場合に外部団体等の利用に供している。

ア 博物館事業に協力が期待できる団体が、会議・研修会等に利用する場合で、博物館が共催し、又は支援するもの

イ 県の機関が、会議・研修会等に利用する場合で、学校教育又は社会教育の充実に資すると考えられるもの

ウ 博物館活動に支障のない範囲内で博物館教育普及活動の充実に資すると館長が特に認めたもの

③ 令和元年度の外部団体等の利用状況

計41件1,303人

件数	期日	時間	団体名等	利用者数(人)	会場
1	4月20日	10:00~12:00	NPO法人宮崎くじら研究会	15	研修室1
2	4月22日	8:30~13:00	宮崎県教育庁義務教育課	50	研修室1
3	4月26日	9:00~17:00	宮崎県教育庁義務教育課	35	研修室1
4	5月12日	12:00~16:30	宮崎野生動物研究会	30	研修室1
5	5月17日	9:00~17:00	宮崎県教育庁義務教育課	35	研修室1
6	5月18日	10:00~15:00	南九州大学学芸員養成課程	13	研修室1
7	5月20日	11:00~16:30	宮崎県教育庁高校教育課	35	研修室1
8	5月23日	11:00~17:00	宮崎県教育庁文化財課	20	研修室1
9	5月29日	14:00~17:15	第35回国民文化祭宮崎県実行委員会 第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会	25	研修室1
10	5月31日	9:00~17:00	宮崎県教育庁義務教育課	35	研修室1
11	6月8日	12:30~16:50	宮崎考古学会	40	研修室1
12	6月15日	9:00~15:00	宮崎植物研究会	20	研修室2
13	6月27日	11:00~16:30	宮崎県教育庁文化財課	50	研修室1
14	6月28日	13:00~16:30	宮崎県中学校教育研究会理科部会	20	研修室1
15	7月7日	13:30~15:30	宮崎大学教育学部	19	研修室1
16	7月20日	13:00~17:00	宮崎県地域史研究会	20	研修室1
17	7月25日	9:00~17:00	宮崎県教育庁義務教育課	20	研修室1
18	8月9日	10:00~12:15	宮崎県教育庁高校教育課	50	研修室1
19	8月9日	12:00~16:50	県立学校長協会	33	研修室1・2・3
20	8月10日	10:00~16:00	公益財団法人服部植物研究所	57	研修室1・2
21	8月21日	9:00~11:10	宮崎市立大宮中学校	30	研修室1
22	8月31日	8:30~15:00	オールみやざき営業課	60	研修室2
23	10月17日	12:00~17:00	宮崎県教育庁義務教育課	55	研修室1
24	10月18日	13:00~17:00	宮崎植物研究会	8	研修室2

25	10月21日	13:00~17:00	中部教育事務所	28	研修室1
26	10月25日	9:00~16:30	特定非営利活動法人みやざき子ども文化センター	30	研修室1
27	11月9日	12:00~16:30	宮崎昆虫調査研究会	20	研修室1
28	11月10日	9:00~16:00	宮崎大学学芸員養成課程	23	研修室1
29	11月11日	13:00~16:30	宮崎県教育庁義務教育課	15	研修室1
30	11月16日	10:00~14:00	南九州大学学芸員養成課程	12	研修室2
31	12月13日	10:00~16:30	宮崎県教育庁義務教育課	50	研修室1
32	12月14日	9:00~15:30	宮崎植物研究会	20	研修室1
33	12月15日	9:30~16:00	宮崎昆虫同好会	30	研修室1
34	12月15日	13:00~17:00	NPO法人地学オリンピック日本委員会	10	研修室2
35	12月20日	12:00~16:30	宮崎県教育庁義務教育課	50	研修室1
36	12月22日	9:00~12:00	宮崎大学学芸員養成課程	25	研修室2
37	1月29日	9:00~12:00	宮崎県教育庁義務教育課	55	研修室1
38	2月20日	9:30~12:00	宮崎県小・中学校特別支援教育研究会	50	研修室1
39	2月20日	13:00~16:30	宮崎県特別支援教育研究連合	60	研修室1
40	2月23日	9:00~15:00	宮崎植物研究会	10	研修室1
41	2月28日	9:00~16:30	宮崎県中学校教育研究会理科部会	40	研修室1・2

(11) 「むーちゃん広場」の設置

「みんなの情報室」には書籍の他、DVDを利用できるスペースや資料に直接触れたりするスペースなどが設置されていた。しかし、未就学児を含む親子などが楽しみながら学ぶスペースがないため、親子で楽しめるスペースを情報室内に設置した。

情報室内に親子で学んだりふれあったりするスペースを「むーちゃん広場」と名付け、展示資料を理解できるようなぬりえや折り紙、クイズや簡単パズルなどを設置した。また、絵本を配置し、親子での読み聞かせができるようにした。

情報室内の机等の配置を一部変更し、11月20日(水)より開始した。3月は新型コロナ感染拡大防止の観点から閉館となったことから、利用者はいなかったが、11月20日から2月末までの利用者は128組、子ども183名、保護者160名、計343名の利用があった。



- 佐土原人形絵付け体験 11/30 <記事> 佐土原人形絵付け体験 読売新聞
- 石みがきをしよう～化石編～2/9 <募集> 読売新聞

ウ その他のイベントに関する掲載（コラム等）

- 美術館だより 宮崎日日新聞（通年）
- Art Information 宮崎日日新聞（通年）
- 世界中のネコの姿紹介 宮崎日日新聞
- 歩廊 気分はカメラマン 宮崎日日新聞
- 歩廊 太古からの贈り物 宮崎日日新聞
- 岩戸出土の飾りたてた弥生壺（レプリカ）の展示 宮崎日日新聞
- 歩廊 松ぼっくりお持ち帰りボックス 宮崎日日新聞
- 公式インスタを開設 夕刊デイリー
- スズメバチ模型に歓声 宮崎日日新聞
- 3校合同の研究発表会 宮崎日日新聞
- みなみ風 香港の学生神楽を体験 宮崎日日新聞
- 県高校野球の軌跡を展示 朝日新聞
- 歩廊 感動を再び 宮崎日日新聞
- 自然や歴史の不思議に歓声 夕刊デイリー
- 120年の歴史振り返る 毎日新聞
- 延学の準優勝盾など展示 夕刊デイリー
- 県高校野球の歴史たどる 読売新聞
- 歩廊 神楽体験こども教室 宮崎日日新聞
- 青鉛筆 野球3コマ漫画の看板 朝日新聞
- 「幅広い世代来館を」自ら先頭に 朝日新聞
- 県内の化石に触れよう 読売新聞
- 歩廊 太古の姿再現 宮崎日日新聞
- みなみ風 伝統工芸品26品目展示 宮崎日日新聞
- 歩廊 浮かび上がる光に興味津々 宮崎日日新聞
- 光るキノコ夏の思い出に 朝日新聞
- 自由研究何をやる？ 毎日新聞
- 新みやざき化石展 夕刊デイリー
- 歩廊 「むーちゃん」のシルエット 宮崎日日新聞
- 歩廊 古民家で俳句を詠む初心者向け講習会 宮崎日日新聞
- 英・中・韓国語で県博物館案内 宮崎日日新聞
- 4か国語音声で館内案内 読売新聞
- 進む外国人向け対応 毎日新聞
- 三河内神楽県総合博物館で公演 夕刊デイリー
- 県内文化財防火策に苦慮 宮崎日日新聞
- 歩廊 楽しんで遊ぼうー 宮崎日日新聞
- 歩廊 インスタ映えでPR 宮崎日日新聞
- 「コンクリーション」が結ぶ縁 宮崎日日新聞
- 名古屋大学博物館と協定調印 夕刊デイリー
- 親子ふれあいスペースを利用して 夕刊デイリー
- 正月飾り上手にできた！ 読売新聞
- 歩廊 防火の思い新たに 宮崎日日新聞

③「博物館わくわく通信」の発行

総合博物館の資料や活動などを紹介する「博物館わくわく通信」（年2回発行）は、展示解説員が作成を担当しており、4月と10月に発行した。幅広い方々に楽しめるように分かりやすい表記を心がけている。また、館内での掲示も行い、周知に努めている。

(3) ホームページ等による情報発信運用

本館のホームページでは、施設や利用案内などの基本情報のほか、展示会や講座などの行事案内、広報紙「森の通信」を掲載するなど、本館の様々な情報を伝える手段として多くの方々に利用していただいている。

令和元年度は、新着情報の掲載を中心に平均月32.2回（年386回）の更新を行うとともに、SNSでは、Facebookが205件、Twitterが212件、Instagramが92件の投稿を行った。令和元年度のホームページのアクセス数は年間1,097,717件となった。

また、令和元年度には、エントランスホール及び情報室にフリーWi-Fiを整備し、利用者の利便性向上や情報発信機能の強化を図った。

(4) 博物館カレンダーの作成

本館では、年度当初に「はくぶつかんカレンダー」という名称で、常設展示室及び民家園の施設概要と各種イベント、年間の行事等を取りまとめたパンフレットを作成し、学校や関係機関等に配布している。

【表】



【表】



**(5) 県広報紙等への掲載**

本館が実施する特別展や講座、その他の催しなどについて、県の広報媒体を利用した広報を行ったほか、報道機関に情報を提供する報道処理や報道機関からの求めに応じて情報提供を行い、新聞やテレビ・ラジオ、情報誌等を通じた広報活動を行った。

令和元年度の報道処理件数は69件であり4年連続で増加した。また、その報道処理等によりマスコミが報道した件数は203件であった。

**① 県広報媒体による広報**

ア 県政けいじばん（毎月第2第4終末 新聞5社掲載）

掲載日	内容
平成31年 4月第2週	第39回SSP展(日本自然科学写真協会写真展)関連講座「いきもの写真のススメ」の案内、講座「よろい・かぶと着用体験」の参加者募集
4月第4週	講座「集めよう！海のへんてこ貝がら」の参加募集
令和元年 6月第2週	講座「宮崎の歴史を学ぶ1」の参加募集
8月第4週	講座「行膝山でこの観察をしよう」の参加者募集
9月第4週	講座「小丸川下流域の考古学Ⅱ」の参加募集
11月第4週	特別展「特選！蔵出し展」の案内
令和2年3月 第2週、第4週	新型コロナウイルスの発生に伴う臨時休館のお知らせ

イ 県広報紙「県広報みやざき」

掲載日	内容
平成31年4月号	特別展「第39回SSP展」 講座「鶴戸山の民俗を学ぼう」
令和元年6月号	特別展「第39回SSP展」 講座「宮崎の歴史を学ぶ1」 ※休館のお知らせ
8月号	<夏休みイベント>「博物館こどもDAY」 講座「採集作品の名前を調べる会」
10月号	特別展「特選！蔵出し展」
12月号	特別展「特選！蔵出し展」 「民家園で昔ながらの正月準備体験をしよう！」
令和2年2月号	<民家園の行事>「民家園春まつり」

ウ 県広報番組

- 県広報番組（広報戦略室）：MR Tラジオ「おはよう県庁です」
- 県教育委員会広報番組（教育庁総務課）：MR Tテレビ「みらい みやざき まなび隊」  
UMKテレビ「のびよ！みやざきっ子」

**② 新聞への掲載**

ア 展示に関する掲載

- 「第39回SSP展」（日本自然科学写真協会写真展）4/27～6/9  
<告知> 宮崎日日新聞、朝日新聞、  
<記事> 動植物や自然とらえる 読売新聞
- 「特選！ 蔵出し展」10/19～12/8  
<告知> 朝日新聞、宮崎日日新聞  
<記事> 総合博物館「蔵出し展」始まる 夕刊デイリー  
化石やチョウ標本3000点 宮崎日日新聞  
厳選の3000点蔵出し 読売新聞  
26日、エコパークの自然講演会 夕刊デイリー  
歩廊 特選蔵出し展キャラクター 宮崎日日新聞

イ 講座に関する掲載

- 家族と先生のための野の花教室4/20 <募集> 宮崎日日新聞
- 一日こども館長4/27 <募集> 夕刊デイリー、朝日新聞、宮崎日日新聞  
<記事> 日高百萌さん（日向）ら一日館長 夕刊デイリー
- よろい・かぶと着用体験！5/5 <募集> 宮崎日日新聞  
<記事> 「稚児よろい」は重かった 毎日新聞、  
気分は戦国武将 宮崎日日新聞
- 鶴戸山の民俗を学ぼう5/11 <募集> 宮崎日日新聞
- 集めよう！海のへんてこ貝がら5/18 <募集> 宮崎日日新聞
- 岩石標本の作り方を学ぼう6/2 <募集> 読売新聞
- 宮崎の歴史を学ぶ16/15 <告知> 宮崎日日新聞
- 化石レプリカの標本をつくろう7/27 <募集> 読売新聞
- 昆虫の乾燥標本をつくろう7/28 <募集> 読売新聞
- 採集作品の名前を調べる会8/17 <募集> 夕刊デイリー、毎日新聞、読売新聞
- フスマの下張り文書はがしに挑戦！ in都城8/24 <募集> 読売新聞
- 博物館こどもDAY8/25 <告知> 夕刊デイリー、宮崎日日新聞、毎日新聞  
<記事> 堪能！郷土の伝統芸能 朝日新聞
- 小丸川下流域の考古学Ⅱ9/15 <告知> 宮崎日日新聞、読売新聞
- 基礎から学ぶ江戸時代9/21 <告知> 夕刊デイリー
- 行膝山でこの観察をしよう9/28 <募集> 毎日新聞、夕刊デイリー、  
宮崎日日新聞  
<記事> 行膝でキノコ観察 夕刊デイリー
- みやざきの神楽を学ぼう10/5 <告知> 読売新聞  
<記事> 三河内神楽 夕刊デイリー
- 宮崎の歴史を学ぶ210/26 <告知> 夕刊デイリー
- 南郷・祇園崎の海岸地形と地層を観察しよう10/27  
<記事> 日南海岸地層歴史学 宮崎日日新聞
- 西都原古墳群の前期古墳を中から観察しよう11/10 <募集> 宮崎日日新聞
- はじめての草木染め11/17 <募集> 夕刊デイリー
- 丹助岳に登って環状岩脈を観察しよう11/23  
<記事> 国内最大級環状岩脈を観察 夕刊デイリー

**⑤ 観光関係機関等へのPR**

多言語音声ガイドやフリーWi-Fi、QRコード等を紹介した外国人向けパンフレットを作成し、ホテルや観光案内所、レンタカー店等を直接訪問し説明を行い、海外からの旅行者等へのPRに努めた。

令和元年9月18日(水)には、多言語音声ガイドシステムの導入を前に、県観光協会や旅行代理店など観光関係機関に加え、県国際交流協会や留学生が在籍する県内大学など国際交流関係機関を集めた内覧会を開催し、当館の外国人向けサービスの向上策についてPRを行った。

また、宮崎市内や都城市内の小学校で、本館利用頻度の少ない学校を対象に、直接訪問し本館の特徴である常設展示の無料観覧や展示解説員による解説などを紹介したパンフレット等配布・説明し、本館のPRを行った。

**⑥ 博物館こどもDAY**

令和元年8月25日(日)に1階・2階エントランスホールにおいてハンズオン資料等の体験を行った。1階エントランスホールでは午前中に自然や歴史の体験展示やどこでも博物館のPR展示、午後は木花相撲踊り保存会や木花小学校の子どもたちによる民俗芸能公演を行った。民俗展示室出口では「むかしのあそびスペシャル版」「紙芝居」のほか、特別ガイドとして子供向け「新みやざき化石展特別ガイドツアー」、解説員による「自然史展示室特別解説ツアー」を行った。



歴史コーナーの様子

- 絵本「とんとところ地震」防火の教材に 夕刊デイリー
- 民家園火災から守れ 宮崎日日新聞
- 歩廊 小さい主役 宮崎日日新聞
- 希少植物のタネ紹介 読売新聞
- 八鈴鏡のレプリカを展示中 夕刊デイリー

**③ テレビ・ラジオによる放送**

○ MRTラジオ「パーソンズ」	○ MRTラジオ「バリ朝!土曜日」
○ MRTラジオ「おはよう県庁です」	○ MRTテレビ「ニュースNext」
○ UMKテレビ「スーパーニュース」	○ NHKテレビ「イブニング宮崎」
○ MCNケーブルテレビ「テレビ小僧商店」	○ MCNケーブルテレビ「マックン情報局」
○ NHKラジオ「マイあさ!」	

**④ 定期刊行物・情報誌への掲載**

- 日本博物館協会 機関誌「博物館研究」(毎月掲載)
- 全国科学博物館協議会「全科協NEWS」
- 平成30年度宮崎県総合博物館年報 第48号
- 宮崎市教育委員会 情報誌「わくわくランド」(夏、冬発行)
- 宮崎日日新聞社「きゅんと」 ○ 鉱脈社「タウンみやざき」
- パームス企画「パームス」
- 宮崎の子育て応援フリーマガジン「Withplus」
- 鉱脈社「じゅびあ」

**⑤ Webメディアによる広報**

- BIGLOBE 旅行
- Walkerplus (KADOKAWA)
- J:COM ZAQ おでかけガイド
- CableGate (アプリ)
- goo 地図
- おでかけ情報サイト「いこーよ」
- Jolte (ジョルテ)
- Japan Travel Guide
- Yahoo!ロコ(地域情報)
- ドコモiコンシェル
- J:COM インタラクTV
- 大東建託 進化する暮らし
- AMIPLE (アミプル)
- シュミカツ!
- BIG X COONNECT (アルパイン)
- Trip Advisor
- 日本旅行
- ニコンすぽっとサーチ
- ダイワロイネットホテルズ
- お出かけお天気
- トラベルバリュー
- ゆこゆこネット
- SmartNews

**⑥ 本館の刊行物**

- 宮崎県総合博物館研究紀要 第40輯 ○ 博物館だより「森の通信」 第66、67号
- 2019年 みやはくカレンダー

**(6) その他の広報及びイベント**

**① 4館見学ツアー**

平成25年度から実施している県立美術館、県立図書館及び県総合博物館による「3館見学ツアー」に、平成28年度から新たに県立芸術劇場を加えた4館が連携して、「4館見学ツアー」をスタートさせた。この見学ツアーは、見学者が本館に申込を行うことにより4館を一度に



見学することが可能で、本県の芸術・文化・歴史等の魅力を総合的に観覧することができ、令和元年度は、次の7団体467人の利用があった。

実施日	団体名	参加人員 (人)	内訳(人)			
			美術館	図書館	博物館	芸術劇場
6月19日(水)	宮崎市立榎中学校	210	210	210	210	210
8月7日(水)	宮崎医療福祉専門学校	30	30			30
8月22日(木)	都城市立東小学校	45	45			45
9月3日(火)	菊池市区長協議会	18	18	18		18
11月1日(金)	宮崎市立穆佐小学校	47	47	47		47
11月6日(水)	宮崎市立広瀬小学校	107	107			107
11月26日(火)	美郷町立美郷北学園	10	10	10		10
計(7団体)		467	467	285	210	467

## ② 県庁職員の情報ネットワークを活用したイベント情報等の発信

県庁職員の情報ネットワークに「全庁掲示板」があり、ネットワークに繋がっている知事部局及び教育委員会等の各職員に一斉に情報を発信することが可能である。

この「全庁掲示板」を活用して、前月末に月毎の「イベント情報」や「特別展や講座情報」等を発信した。

## ③ 一日博物館長

平成31年4月27日(土)、SSP展(日本自然科学写真協会写真展)のオープニングイベントにあわせて、県内の小学生5名を「一日博物館長」に任命し、内覧会等への参加を通して特別展覧会などの博物館の業務を理解してもらう取組みを実施した。主な内容として、SSP展の開会式における代表館長あいさつや全員でのテープカット。また、バックヤードツアーとして、学芸員による解説を受けながら収蔵庫の見学等を行った。



内覧会の様子

## ④ みやはく夏イベント

学校の夏期休業期間に合わせた来館者サービス向上と本館のPRのため、以下のような様々なイベントを実施した。これらを一括して「2019 みやはく夏イベント」とし、チラシ等広報物やSNSによる広報を行った。

### ア エントランス展示

「新みやざき化石展 ～岡山清英コレクションの世界～」

### イ 学芸課職員による体験講座

光るきのご観察会、古墳時代のよろい・かぶとを型紙でつくろう、戦国武将のかぶとをかぶってみよう、光るきのこづくり、簡単!アンモナイトレプリカ  
ウ 展示解説員による催し物

お盆期間の紙芝居、ミニ紙芝居、展示室を活用した宝探し型イベント「むーちゃんをさがせ!」

### エ 他の機関との連携によるイベント

- 「みやはく神楽体験子ども教室」  
(主催 神楽保存・継承実行委員会、県記紀編さん記念事業推進室)
- 「みやざきの昔話公演」(公演者 民家園語りの会、都城語り部の会)



体験講座(考古)



ミニ紙芝居



神楽体験子ども教室

九州博物館協議会 学芸員・事務職員研修	令和元年 10月31日～11月1日	鹿児島県歴史資料センター黎明館	中山 平松
歴史民俗資料館等専門職員 研修会・全国神楽ショボジウム	令和元年 11月10日～11月17日	国立歴史民俗博物館、國學院大學	野添
特別展に係る植物・菌類資 料調査	令和2年 1月10日～1月12日	琵琶湖博物館、 兵庫県立人と自然の博物館	黒木 (秀)
日本博物館協会研究協議会	令和2年 1月29日～1月31日	大塚国際美術館	黒木 (義)
全国科学博物館協議会総会 ・理事会及び研究発表大会	令和2年 2月13日～2月15日	オーテピア、高知未来科学館、 高知県立牧野植物園	岩切
特別展に係る資料調査	令和2年 3月25日～3月27日	茨城県自然博物館、群馬県立自然 史博物館	中山 濱田

### ③ 展示解説員への研修

展示解説員全員を対象に、福祉施設の認知症の高齢者を対象に行う「博物館で思い出を語ろう」事業について、専門家による研修を行った。館外研修では、学芸課職員の案内で展示解説員全員が宮崎市青島から日南市油津を訪れ、植物、地質、民俗などの現地見学を行い、知識の習得に努めた。

また、経験年数に応じた研修として、今年度展示解説員になった職員に対しては、学芸課の職員から展示の説明を受けた後、自然史・歴史・民俗の各展示室と「昔の道具」について、マニュアルに沿った発表研修を行った。2年目以上の展示解説員に対しては、常設展示の解説をより充実させるために、展示解説や質問で活用できる解説パネルを作成した。

また、3年を経過した展示解説員は、昔の暮らしや地質、照葉樹林や湿原に関して自己学習した内容を発表する研修を行い、資質の維持向上に努めた。



青島での現地研修

## (3) 危機管理

本館は、広く県民が利用する施設であり、毎日多くの来館者が訪れ、また、県民の財産である貴重な資料の収蔵や民家4棟【国重要文化財(2)・県有形文化財(2)】を移築復元していることなどから、各種の危機事象に適切に対応するための「危機管理マニュアル」や「防火管理規程」を作成して、職員への防災・防火訓練を実施している。

### ① 防災・防火研修

年度当初の4月16日に、全職員を対象に危機管理マニュアルに基づく様々な危機事象に応じた対処方法等やAEDの操作方法に関する研修を実施した。

## 2 経営

魅力のある総合博物館として適正な管理運営を行うため、来館者へのアンケート調査を行うとともに来館者の安全・安心を確保するため、職員研修や危機管理に対応する訓練等を行っている。

### (1) 来館者のアンケート調査

入館者の実態や館の運営状況に対する意見を把握し、その集計結果を今後の館の運営に適正に反映させるため、平成14年度から入館者個人及び団体に対してアンケート調査を実施している。個人アンケートでは、1階と2階でそれぞれに記入場所を設けて任意で回答をお願いし、団体アンケートでは、代表者に記入をお願いして回収するようにしている。また、個人アンケート回収数を増やすために、アンケート回収強化期間を年3回設定し、強化期間中の記入場所を増やすために、エントランスロビーや民家園にもアンケート用紙を置いた。その結果、前年度より約240件多いアンケート回収を行った。

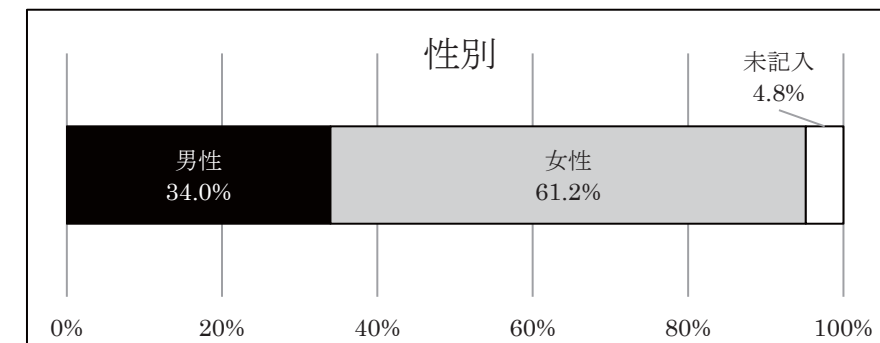
#### ① 個人アンケート(有効回答件数1013件)

ア 性別・年齢・居住地について

回答者の男女比は、男性が34%、女性が61.2%と、昨年度とほぼ同じ割合であった。年齢別割合では、10代以下が約54%であった。昨年度より約14%減少した。また、回答者の居住地では、宮崎市内が58.3%で昨年より約7%低くなった。

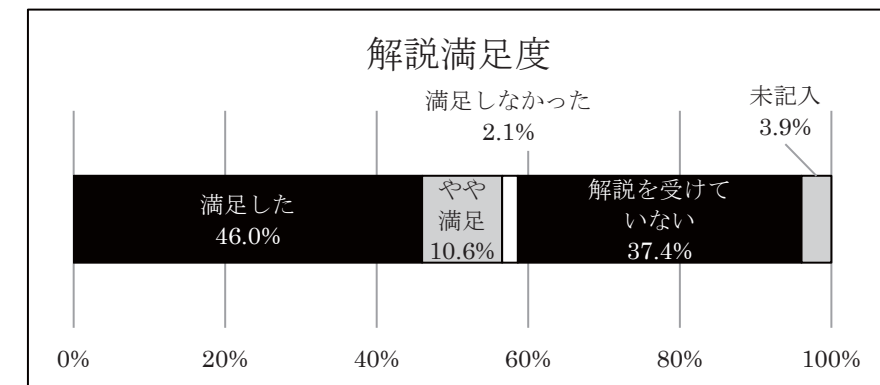
年代の内訳

9歳以下	27.1%
10代	26.6%
20代	7.7%
30代	11.1%
40代	9.2%
50代	7.1%
60代以上	11.0%
未記入	0.2%



イ 展示解説員の解説について

回答者の約59%が展示解説員の解説を受けており、ほとんどの方が「満足した」、「やや満足した」と回答している。今後も、引き続き解説サービスの周知を図り、解説を受ける方を増やすとともに、質の高い解説を目指していきたい。

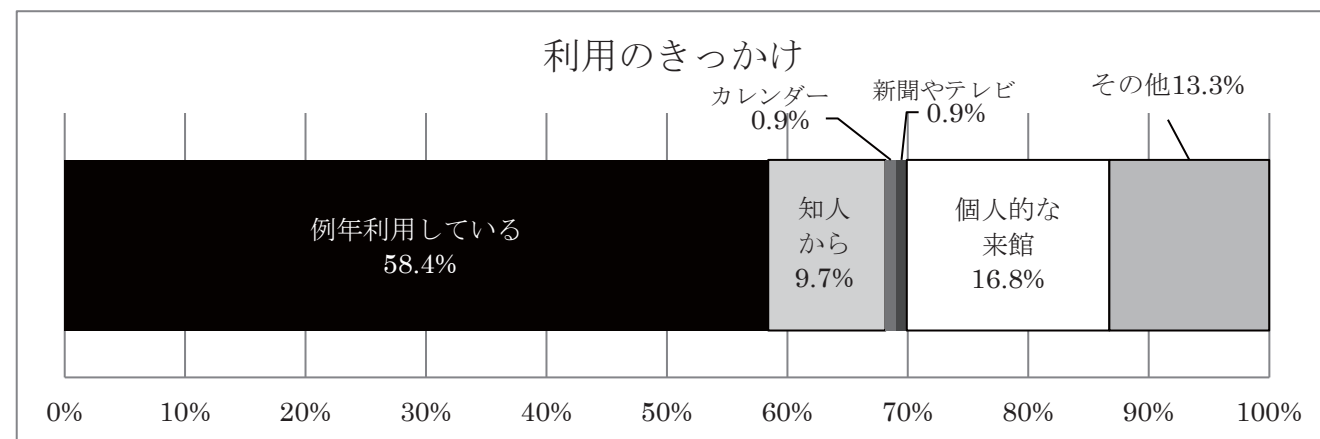


ウ 本館サービスに対する満足度について

サービス(展示資料、設備、職員の対応など)に「満足した」、「やや満足した」という回答は91.2%となり、昨年度よりも約7%増えた。今後も、資料・設備のメンテナンス、展示解説等をしっかり行いたい。さらなる細かなニーズの把握のために、さらに満足度を高められるよう努めたい。

② 学校団体アンケート（有効回答数 113 件）

来館のきっかけは、今年度「例年利用している」が 58.4%で 1 位であり、昨年度は、66.9%で、約 9%低くなっている。今後は、博物館を利用していない学校への広報や教育活動に利用したいと思わせるように様々なサービスを提供することにより、例年利用している割合を増やしていきたい。



③ 一般団体アンケート（有効回答数 127 件）

博物館の情報の取得手段については、右表の通りで、「ホームページ」や「ポスター・チラシ」が多い。「ホームページ」に関しては、年間 386 回の更新や、SNS (Facebook・Twitter) を利用することにより、特別展や講座の様子、季節ごとの自然や歴史に関する情報などを適宜発信して、当館の魅力を伝えている。今後も様々なツールを使って、情報を発信することで、各年代に対応していきたい。

「ポスター・チラシ」は企画の趣旨に合わせて、配布場所や配布数に変化をもたせ、計画的に、県内外に配布している。

ホームページ	37.2%
ポスター・チラシ	12.8%
知人の紹介	4.9%
博物館カレンダー	6.7%
看板	6.7%
テレビ・ラジオ	3.7%
新聞	2.4%
情報誌・フリーペーパー	4.3%
その他	20.7%

④ 特別展アンケート（有効回答数 234 件）

主催事業の 2 回の特別展では、すべてアンケートを実施した。満足度調査では、「よかった」「大変よかった」を合わせると 90%となり、来場者には概ね好評であった。今後も創意工夫を重ね、魅力ある特別展の開催に努め、満足度を高めていきたい。

特別展の満足度	
大変よい	62.8%
よい	27.4%
ふつう	5.6%
よくなかった	0%
未記入	4.3%

(2) 職員の資質向上

① 基本研修

本館は、広く県民が利用する施設であることから、来館者への適切な対応や危機などの事象管理など、博物館職員として基本的な資質が求められている。このため、全職員を対象にコンプライアンスや危機管理対応など基礎的な項目についての研修を年 3 回実施した。

実施日	場所	研修内容
平成31年 4月16日(火)	研修室 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス研修</li> <li>危機管理マニュアルへの対応研修</li> <li>消防設備研修</li> <li>資料保存研修 (IPMウォッチングの重要性)</li> <li>「よろい・かぶと着用体験！」での着付け練習</li> <li>AED操作研修</li> <li>「博物館で思い出を語ろう」事業についての協議</li> </ul>
令和元年 9月12日(木)	研修室 1 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス研修</li> <li>危機管理研修</li> <li>人権問題、環境問題、情報化(適性推進)研修</li> <li>避難訓練(地震・火災)</li> <li>「音えんぴつ」研修</li> </ul>
令和 2年 3月 3日(火)	研修室 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸課による調査研究報告会</li> </ul>

② 県外研修等

研修会・視察等の名称	研修期間	会場	参加者
特別展に関する資料調査	令和元年 6月3日～6月6日	国立科学博物館筑波研究施設、すみだ水族館、海と暮らしの資料館、アクアテイメント	竹下
全国博物館長会議等	令和元年 7月2日～7月5日	黒田記念館(日博協 参与会) 文部科学省(全国博物館長会議) 国立科学博物館(第1回全国科学博物館協議会理事会・総会)	福松
菌類に関する展示視察及びスゲ植物に関する調査	令和元年 7月25日～7月27日	神奈川県立生命の星地球博物館、栃木県立博物館	黒木(秀)
I COM京都大会及び全国博物館大会	令和元年 9月3日～9月5日	京都市国際会館・稲森開館	緒方福松
文化財担当者専門研修「堆積・地質学基礎課程」	令和元年 9月16日～9月20日	奈良文化財研究所	中山
I PMセミナー	令和元年 10月23日～10月25日	九州国立博物館	外山竹下

## 参考資料

1 令和元年度 日誌(抄) .....	8 5
2 博物館の沿革 .....	8 7
3 第2期中期運営ビジョン評価表(平成30年度分) .....	9 3
4 県総合博物館関係法規 .....	1 0 0
(1) 宮崎県総合博物館条例 .....	1 0 0
(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例(抄) .....	1 0 0
(3) 宮崎県博物館協議会条例 .....	1 0 1
(4) 宮崎県総合博物館管理運営規則 .....	1 0 2
(5) 宮崎県総合博物館処務規程 .....	1 1 1
(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱 .....	1 1 1

### ② 避難訓練

5月10日の震度5弱の地震発生を受けて、6月11日に日向灘南部を震源とする震度6の地震を想定した避難訓練を全員で実施した。さらに、9月1日の「防災の日」に合わせて、同月12日に日向灘沖(南海トラフ)を震源とする震度5強の地震及びそれに伴う出火を想定した避難訓練を全員で実施した。

### ③ 防火訓練

1月26日の「文化財防火デー」に合わせて、同月21日に民家園の周辺の森から火災が発生したとの想定で防火訓練を実施し、通報・初期消火・消火栓や放水銃による消火・避難誘導等の訓練、消火器の操作訓練を宮崎北消防署の立会いのもと、埋蔵文化財センター分館職員・民家園ボランティアと合同で実施した。



避難訓練(負傷者搬出)の状況



宮崎北消防署及び消防団による消火活動状況



博物館及び埋文センター分館職員による消火活動



訓練終了後の講話

(4) 県内にある博物館等との連携

【宮崎県博物館等協議会】

① 設立趣旨

宮崎県博物館等協議会は、県内の博物館、美術館、歴史資料館、動物園等が、共同して広報活動を行うとともに、研修会や視察等を通じて、運営上の課題やその対策の情報共有や意見交換を行うことで、会員館の機能の充実や県民の施設利用の促進を図り、本県の学術文化の進展に寄与することを目的に設立された。平成元年1月に設立された宮崎県博物館等連絡協議会を前身とし、平成13年度に会費制導入など組織体制の見直しを行った際、現在の名称に変更している。

② 会員数

令和2年3月31日現在 県内の37施設（新規加入1館、退会1館）

③ 令和元年度の活動状況

ア 役員会、総会及び第1回研修会

期日：令和元年5月24日（金）

会場：宮崎県総合博物館

a 役員会・総会

平成30年度の事業報告、決算報告等及び、令和元年度の事業計画、収支予算を協議し、承認を得た。また、災害時相互協力基金の開設やSNSの開始についても承認を得た。

b 第1回研修会

- ・講演会『最近の展示事例に見る魅力ある展示手法について』  
講師：小山将史氏（株式会社 丹青社）
- ・視察『第39回SSP展』  
解説：中山貴義（当館職員）



第1回研修会の様子

イ 第2回研修会

期日：令和2年2月7日（金）

会場：みやざき歴史文化館

a 研修会

- ・講演①『文化財及び施設火災を防ぐには』  
講師：崎田晃司氏（宮崎市消防局予防課）
- ・講演②『宮崎市の文化財の紹介と今後の活用』  
講師：今城正広氏（宮崎市教育委員会文化財課）
- ・視察『みやざき歴史文化館』  
展示解説：福嶋一恵氏、松下朋生氏（同館学芸員）



第2回研修会の様子

ウ 役員館の担当者会

期日：令和2年2月7日（金）

会場：みやざき歴史文化館

内容：役員（理事）館の担当者で、令和2年度の事業及び予算案の検討を行った。

エ 機関誌の発行

『宮博協だより 日向路の博物館24号』を令和2年3月に発行した。

オ ホームページ及びSNSの運営

会員館・園の情報を掲載したホームページ (<http://miyahakukyo.starfree.jp/>) の運営、及びSNS (Facebook) により情報発信を行っている。情報は随時、更新を行った。

カ 災害時相互協力

「災害時相互協力等に関する規約」及び「災害時相互協力基金」を基に、被災文化財の緊急のレスキューに備えている。

V 宮崎県博物館協議会

1 設置根拠

宮崎県博物館協議会条例（平成15年条例第43号）、博物館法（昭和26年法律第285号）第20条

2 目的

総合博物館及び西都原考古博物館の運営に関し、県民の様々な意見を幅広く活かすため、各館長の諮問に応ずるとともに、当該各館長に対して意見を述べる。

3 委員数 17人

4 令和元年度の開催状況

○令和元年10月31日（木）西都原考古博物館セミナー室において開催

- 議題
- (1)平成30年度総合博物館の事業報告及び評価について
  - (2)平成30年度西都原考古博物館の事業報告及び評価について
  - (3)令和元年度総合博物館及び西都原考古博物館の事業計画について
  - (4)総合博物館第3期中期運営ビジョン・西都原考古博物館第2期中期運営ビジョンについて

【委員名簿】

（任期：平成30年7月30日～令和2年7月29日）

区分	氏名	役職名等	専門	備考
学校教育関係者	米良 郁子	前新富町教育長	教育行政	
	笠岡 和代	宮崎カトリック幼稚園長	幼稚園	
	小園 裕美子	前小林市立東方中学校長	小中学校	
	野田 尚子	県立児湯るびなす支援学校長	県立学校	
	堀田 由美子	尚学館小学校長	私立学校	
社会教育関係者	濱 砂 澄子	県地域婦人連絡協議会 副会長	婦人団体	
家庭教育関係者	湊 智 美	県PTA連合会 前副会長	PTA	
学識経験者	八ッ橋 寛子	宮崎大学教育学部教授	植物	副会長
	出口 智久	宮崎市フェニックス自然動物園長	動物	
	柴田 博子	宮崎産業経営大学法学部教授	歴史	
	前田 博仁	宮崎民俗学会会長	民俗	会長
	高谷 精二	南九州大学非常勤講師 宮崎応用地質研究会会長	地質	
	柳澤 一男	宮崎大学名誉教授	考古	
	川野 美奈子	県社会福祉協議会副会長	社会福祉	
	富高 敏明	県観光協会前専務理事	観光	
公募委員	後藤 徹一	元県立高等学校長 県公立中学校スクールカウンセラー	公募	
	谷山 敦子	元編集者・フリーライター	公募	

西暦	年 月 日	事 項
	昭和	
1981	56年 3月	博物館設置30周年、総合博物館10周年 昭和56年度に記念特別展等を開催
	12月17日	民家園監視詰所新築(13.25㎡)
1982	57年 2月25日	工作室増設(43.72㎡)
	10月1日	埋蔵文化財センターを総合博物館の構成施設として設置(1,516.68㎡)
	10月2日	埋蔵文化財センター開館記念特別展及び記念公演を開催
1983	58年 4月1日	入館料改訂 〔大人100円(80円)、高大生60円(40円)、小中学生40円(20円)、( )は団体〕 置県100年、昭和58年度に記念特別展等を開催
1986	61年12月22日	民家園「椎葉の民家」屋根葺替工事完了
1987	62年 4月1日	徳仁親王殿下西都原資料館ご視察
1988	63年 4月1日	入館料改訂 〔大人150円(120円)、高大生90円(60円)、小中学生60円(30円)、( )は団体〕 ポンプ室新築(8.75㎡)、屋内消火栓改修工事完了
	平成	
1989	元年 4月1日	入館料改訂 〔大人155円(125円)、高大生90円(60円)、小中学生60円(30円)、( )は団体〕
	11月14日	総合博物館本館屋根防水工事完了(第1期分美術棟ほか)
1990	2年 5月19日	'90ひむかの祭典参加特別展を開催 ブリヂストン美術館名作展 5/19～6/17 ベルリン国立美術館展 10/26～12/16
	10月20日	総合博物館本館屋根防水工事完了(第2期分管理棟)
1991	3年 3月	博物館設置40周年、総合博物館20周年 平成3年度に記念特別展等を開催
	4月1日	入館料改訂 〔大人200円(150円)、高大生120円(80円)、小中学生80円(50円)、( )は団体〕
1992	4年 1月31日	総合博物館本館屋根防水工事完了(特展室)
	3月9日	民家園「旧黒木家住宅」屋根葺替工事完了
	10月1日	埋蔵文化財センター開設10周年
	10月3日	埋蔵文化財センター開設10周年記念講演会を開催
1993	5年 3月1日	博物館本館屋根防水工事完了(第4期常設展示室)
	4月15日	「日向の山村生産用具」重要有形民俗文化財に指定
1994	6年 8月12日	民家園ポンプ扉取替工事完了
1995	7年 3月4日	本館考査室冷暖器取付工事完了
	3月27日	本館宿直室等改装工事完了
	10月1日	美術部門を県立美術館に移管(10/17 県立美術館開館)
1996	8年 3月20日	公共下水道接続工事完了
	3月29日	県民文化ホールエントランス等改修工事完了
	4月1日	埋蔵文化財センターが博物館から分離
	8年10月29日	建設工事安全祈願祭
	11月6日	博物館職員海外研修(11/6～11/13)「中国 雲南省」
1997	9年 7月13日	西都原古代生活体験館が総合博物館の構成施設として開館
	11月8日	清子内親王殿下西都原古代生活体験館ご視察
	11月20日	本館増改築建築主体工事完成
	12月10日	本館増改築管工事完成
	12月20日	本館増改築電気工事完成
	〃	本館昇降機設置工事完成
1998	10年 2月10日	本館マイルカーペット工事完成
	3月20日	本館屋外トイレ改築工事完成

令和元年度 日誌(抄)

年月日	事 項
平成31年04月01日	展示解説(自然史) ※毎週日曜日・祝日 ……以下記載省略
(2019)04月01日	「紙芝居(時代のひろば)」 ※毎週日曜日・祝日 ……以下記載省略
04月06日	「むかしのあそび(時代のひろば)」 ※第1・3・5土曜日 ……以下記載省略
04月06日	民家園ボランティアによる「囲炉裏の火入れ」(民家園) ※毎週土曜日 ……以下記載省略
04月06日	展示解説(午前:歴史、午後:民俗) ※毎週土曜日 ……以下記載省略
04月13日	「クイズラリー(常設展示室)」 ※第2・4・土曜日 ……以下記載省略
04月14日	「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」閉幕
04月16日	第1回職員研修(館長講話・コンプライアンス・危機管理マニュアル・AED操作・資料保存)
04月18日	I P M「目視・清掃(収蔵庫)」 ※毎月1回 ……以下記載省略
04月20日	博物館講座「家族と先生のための野の花教室」
04月20日	みやぎの昔話公演 ※毎月第3土曜日(12月、1月を除く)以下記載省略
04月25日	エントランス展示「地質の日」関連・寄贈化石コレクション展(～6/9)
04月27日	特別展「第39回SSP展」開幕(～6月10日)
04月27日	「一日こども博物館長」
04月27日	特別展「第39回SSP展」開会式
04月29日	SSP展関連講座「生きもの写真のスズメ」講師:東木場昭裕氏
04月29日	昭和の日特別企画 解説(昔の道具)
04月30日	GW特別企画 学芸員による自然ガイドツアー(～5/4)
05月04日	GW特別企画 みどりの日クイズラリー
05月05日	GW特別企画 昔の遊び拡大版
05月05日	博物館講座「よろい・かぶと着用体験!」
05月08日	歴史展示室ロビーケース展示(岩戸出土弥生壺 ～7/8)
05月11日	博物館講座「鶴戸山の民俗を学ぼう」
05月12日	ワークショップ「親子でつくろう!ネイチャープレート」
05月16日	九州博物館協議会理事会・総会(長崎県 ～5/17)
05月19日	SSP展関連講座 プロに学ぶ!写真撮影講座
05月24日	宮崎県博物館等協議会役員会・総会・第1回研修会(宮崎県総合博物館)
06月02日	出張講座「化石標本の作り方を学ぼう」(宮崎県御池青少年自然の家・都市)
06月06日	国民文化祭実行委員会・全国生涯芸術・文化祭実行委員会
06月07日	SSP展入場者1万人セレモニー
06月15日	博物館講座「宮崎の歴史を学ぶ1」
06月16日	MSEC合同探究活動発表会(宮崎北高校・宮崎大宮高校・五ヶ瀬中等教育学校)
06月17日	民家園活用事業(香港中文大学)
06月19日	職場体験学習(宮崎大学附属学校2年生2名)(～6/20)
06月26日	職場体験学習(大宮中学校2年生3名)(～6/28)
06月28日	エントランス展示「高校野球展」(～7月29日)
06月29日	友の会講座「平和台公園きのご観察会」
07月02日	日本博物館協会参与会・支部長会(東京国立博物館・東京都)
07月03日	全国博物館長会議(文部科学省・東京都)
07月03日	職場体験学習(宮崎東中学校2年生2名)(～7/5)
07月04日	全国科学博物館協議会総会(国立科学博物館・東京都)
07月04日	どこでも博物館(延岡学園尚学館・延岡市)
07月06日	民家園活用事業(県国際交流協会)
07月08日	「中部地区愛鳥週間作品コンクール」作品展示(～7/31)
07月13日	みやはく神楽体験こども教室(新富町三納代神楽)
07月14日	みやはく神楽体験こども教室(高千穂下野神楽)
07月21日	博物館講座「光るきのご観察会」
07月27日	博物館標本講座「化石レプリカの標本をつくろう」
07月28日	博物館標本講座「昆虫の乾燥標本をつくろう」
07月29日	博物館標本講座「押し葉標本をつくろう」
08月01日	ロビー展示「伝統的工芸品展示」(～8/31)
08月03日	出張講座「サル島 お掃除大作戦!」(串間市幸島)
08月04日	講座「古墳時代のよろい・かぶとを型紙で作ろう」
08月07日	教員のための博物館の日(宮崎科学技術館・宮崎市)
08月11日	講座「簡単!アンモナイトレプリカ」
08月12日	講座「戦国武将のかぶとをかぶってみよう」、新みやぎ化石展ギャラリートーク
08月13日	講座「光るきのこづくり」
08月16日	新みやぎ化石展ギャラリートーク
08月17日	博物館講座「採種作品の名前を調べる会」
08月18日	講座「簡単!アンモナイトレプリカ」
08月21日	博物館実習受入れ(～8月30日)
08月24日	博物館講座「ワークショップ フスマの下張り文書はがしに挑戦! in 都城」
08月25日	博物館こどもDAY

年月日	事項
08月31日	宮崎県伝統工芸品夏休み工芸体験
09月01日	博物館講座「さがそう！干潟のへんてこ生きものたち」
09月02日	燻蒸休館（～9/13）
09月12日	第2回職員研修（コンプライアンス、避難訓練等）
09月15日	博物館講座「小丸川下流域の考古学Ⅱ」
09月18日	多言語音声システム「音えんぴつ」に関する内覧会
09月21日	多言語音声システム「音えんぴつ」一般利用開始
09月21日	博物館講座「基礎から学ぶ江戸時代」
09月28日	博物館講座「行藤山できのこの観察をしよう」（行藤山・延岡市）
10月05日	博物館講座「みやざきの神楽を学ぼう」
10月18日	特別展「特選！蔵出し展～ミュージアムコレクション2019～」内覧会
10月19日	特別展「特選！蔵出し展～ミュージアムコレクション2019～」開幕
10月19日	特別展開連イベント「むかしの草花あそび」
10月20日	神楽公演・神楽体験講座（延岡市三河内神楽保存会）
10月20日	特別展開連イベント「蔵出し展ギャラリートーク」（特別展開催期間 毎週日曜日）
10月25日	特別展開連屋外イベント「植物素材アートの世界」（～11/4）
10月26日	博物館講座「宮崎の歴史を学ぶ2」
10月26日	特別展開連公演会「祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの自然」
10月27日	県民大学「神楽講座」
10月27日	博物館講座「南郷・祇園崎の海岸地形と地層を観察しよう」（祇園崎・日南市）
10月31日	宮崎県博物館協議会（西都原考古博物館）
10月31日	九州博物館協議会学芸員・事務職員研修会（鹿児島市 11/1）
11月03日	どこでも博物館（串間市文化会館・串間市）
11月06日	職場体験学習（宮崎学園中学校2年生2名）（～11/8）
11月09日	特別展開連講座「カルイ製作実演見学会」
11月10日	エントランス展示「火消し展」（～1/19）
11月10日	関連講座「西都原古墳群の前期古墳を中から観察しよう」
11月16日	地域回想法サミット関連イベント「ミュージアムトーク」
11月16日	特別展開連講座「九州のミツバツツジ類」
11月17日	博物館講座「はじめての草木染め」
11月17日	民家園利用事業「民家園で外国人向けおにぎり体験教室」
11月20日	親子ふれあい教室「むーちゃん広場」開始
11月23日	博物館講座「丹助岳に登って環状岩脈を観察しよう」
11月24日	博物館講座「これからはじめるバードウォッチング」
11月27日	特別展「特選！蔵出し展～ミュージアムコレクション2019～」1万人セレモニー
11月27日	職場体験学習（赤江中学校2年生2名）（～11/28）
11月27日	職場体験学習（生目中学校2年生2名）（～11/29）
11月30日	博物館講座「佐土原人形絵付け体験」
12月07日	民家園利用事業「着物で撮影会」
12月08日	特別展「特選！蔵出し展～ミュージアムコレクション2019～」開幕
12月11日	歴史展示室ロビーケース展示「船野遺跡採石核」（～2/17）
12月12日	「名古屋大学博物館との相互協力に関する協定書」調印式
12月21日	民家園で昔ながらの正月準備を体験しよう！（民家園）
12月22日	正月飾り製作体験講座（民家園）
令和元年 (2020)	01月19日 民家園利用事業「ボーイスカウト茶会」「おやこ観劇茶会」
	01月20日 【休館日】メンテナンス及び特別整理期間（～1月28日）
	01月21日 消防訓練（宮崎北消防署立会い、埋蔵文化財センター分館職員及び民家園ボランティアと合同実施）
	01月29日 エントランス展示「タネの世界～植物の姿とタネの形～」（～3/9）
	02月03日 民家園利用事業「裏千家淡交会宮崎分科会お茶のふるまい」
	02月03日 神楽公演（日南市山宮神楽保存会）
	02月07日 宮崎県博物館等協議会第2回研修会（みやざき歴史文化館・宮崎市）
	02月08日 エントランス展示「博物館で雛祭り」（～3/4）
	02月09日 エントランス展示「友の会写真展」（～3/8）
	02月09日 博物館講座「石みがきをしよう～化石編～」
	02月19日 歴史展示室ロビーケース展示「八鈴鏡」（～5/11）
	02月27日 モンスター展「第1回担当者会」
	02月29日 博物館ひなまつり ※新型コロナウイルス感染症対策のため中止
	03月05日 新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館（～3/31）
	03月20日 ダンボール恐竜遊園地 in ミュージアム ※新型コロナウイルス感染症対策のため延期
	03月21日 民家園春まつり ※新型コロナウイルス感染症対策のため中止
	※博物館講座に関する記録は52～54頁を参照

## 2 博物館の沿革

西暦	年月日	事項
	昭和	
1951	26年4月1日	宮崎県立博物館設置 教育関係使用料及び手数料徴収条例入館料施行 〔大人10円、小人5円、団体3割引（20人以上）〕 県立博物館規則を制定
	6月1日	宮崎神宮徴古館において開館
	12月1日	博物館法公布（法律第285号）
1952	27年4月1日	県立博物館条例制定 博物館法による登録博物館として県教育委員会登録原簿に登録（登録番号1号）
1953	28年4月1日	日高重孝が初代専任館長として就任
1957	32年4月1日	県立博物館協議会規則を制定
	11月1日	博物館協議会委員任命（初・10人）
1958	33年4月1日	入館料改訂 〔大人20円、小人10円、団体3割引〕
1962	37年5月2日	皇太子殿下ご夫妻ご視察
1967	42年8月1日	西都原資料館（分館）設置 西都市大字三宅5670（908.06㎡、古代住居27㎡）
	11月21日	明治百年記念事業準備委員会が「宮崎県総合文化施設建設」を答申
1968	43年7月1日	西都原資料館開館
1969	44年11月3日	宮崎県総合文化施設（仮称）の起工式
1970	45年4月1日	宮崎県総合文化施設開設準備事務局を設置 事務局長 柳宏吉外職員11人を発令
	10月11日	閉館記念特別展「宮崎県立博物館館蔵品展」 （前期10/1～11/8 後期11/14～12/9）
	12月10日	新設博物館移転準備のため休館
1971	46年3月2日	宮崎県総合博物館設置 館長 柳宏吉外職員19人を発令 宮崎県総合博物館条例施行 宮崎市神宮町458番の2 7,384.06㎡（博物館・美術館・県民文化ホール）
	3月2日	入館料改訂 〔大人30円(25円)、中高生20円(15円)、小学生15円(10円)、（ ）は団体〕
	3月7日	開館式典挙行 「宮中雅楽」特別鑑賞会、記念特別展、記念美術講演会(3.10)等を開催
	4月1日	総合博物館協議会規則施行
	7月26日	宮崎県総合博物館協議会委員会（初・20人）
1972	47年10月3日	本館・メキシコ文化博物館姉妹館盟約締結式挙行 盟約記念展、記念講演会等を開催
1973	48年3月30日	「米良の民家」移築復元工事完了
	4月7日	天皇・皇后両陛下ご視察
1974	49年9月1日	住所表示変更 宮崎市神宮2丁目4番4号となる
1975	50年8月1日	入館料改訂 〔大人50円(40円)、高大学生30円(20円)、小中学生20円(10円)、（ ）は団体〕
	8月31日	「旧黒木家住宅」（昭48.2.23国指定重要文化財）移築復元工事完了
1977	52年3月25日	「椎葉の民家」移築復元工事完了
	52年9月14日	皇太子殿下ご夫妻ご視察
	9月30日	「旧藤田家住宅」（昭48.2.23国指定重要文化財指定）移築復元工事完了
1979	54年9月7日	仮収蔵庫増設（199㎡）
	9月23日	宮崎国体開催記念展を開催（日向の古墳展・ふるさと美術展 10/21まで）
	10日13日	身障者施設増設（トイレ7.40㎡）
	10月16日	天皇陛下西都原資料館ご視察

歴代	氏名	在職期間	在職年数	備考
25	長嶺泰弘	平成24年4月1日～平成26年3月31日	2年	専任
26	富高敏明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	2年	〃
27	長友重俊	平成28年4月1日～平成30年3月31日	2年	〃
28	黒木義博	平成30年4月1日～		〃

西暦	年月日	事項
	平成	
1998	10年3月25日	本館植栽工事完成
	〃	本館舗装工事完成
	〃	本館屋外電気工事完成
	〃	本館管理棟部分改修工事完成
	4月1日	入館料改訂 〔大人300円(200円)、高大生200円(100円)、小中学生100円(50円)、( )は団体〕
	4月30日	総合博物館リニューアルオープン記念式典
	5月1日	総合博物館リニューアル開館
1999	11年4月14日	秋篠宮同妃殿下西都原古代生活体験館ご視察
	10月22日	清子内親王殿下ご視察
	11月12日	天皇在位10周年記念無料公開
	12月10日	シンガポール リム国務大臣ご視察
2000	12年4月1日	展示解説員制度の導入(非常勤職員11人)
	〃	学芸課に学芸班と普及班を設置
	9月21日	全国風土記の丘協議会開催(～22)
2001	13年6月1日	開館50周年記念事業実施(記念講演、雅楽の演奏と舞)
	10月30日	椎葉の民家補修及び補強工事着工
2002	14年11月13日	全国博物館大会開催(宮崎市)(～15)
2003	15年3月14日	特別展示室シャッター・荷物用昇降機取替え工事着工
	11月1日	西都原資料館閉館 西都原古代生活体験館が西都原考古博物館へ移管
2004	16年4月1日	火曜日休館の試行開始
	4月17日	西都原考古博物館開館
	4月25日	原田義昭文部科学副大臣ご視察(全国植樹祭：西都市)
	8月1日	大韓民国蔚山広域市より感謝牌贈られる (当館所蔵コククジラ頭骨の標本作製のお礼)
	8月29日	台風16号により民家園等被災(米良の民家、旧黒木家等)
2005	17年3月14日	民家園災害復旧工事完成
	3月31日	来客者用自転車置き場設置
	4月1日	火曜日休館制度化(総合博物館運営規則の改正)
	〃	常設展の観覧料を無料化(教育関係使用料及び手数料徴収条例の改正)
	6月17日	韓国長生浦鯨博物館より開館記念招待を受ける
	10月15日	九州国立博物館(太宰府市)開館記念式典出席
	11月16日	学芸課が教育功労者表彰を受ける
2006	18年4月1日	総務課、学芸課に担当制導入(総務担当、学芸担当、普及担当)
	18年8月6日	高円宮妃殿下常設展及び企画展(「化石展」)ご視察
	10月1日	老朽化による諸問題のため平成19年4月1日付け県民文化ホール用途廃止決定 (宮崎県総合博物館条例等の改正)
2007	19年3月31日	「民家園利活用構想」作成
	〃	県民文化ホール用途廃止
	19年9月22日	特別展「吉村作治の早大エジプト発掘40年展」 9/22～11/18 (入館者数74,951人)
2008	20年3月10日	民家園「椎葉の民家」復元工事完成
	3月27日	県民文化ホール解体工事終了
	〃	博物館(屋上)改修工事完成
	4月28日	第1駐車場(県民文化ホール跡地)使用開始(70台)
	12月25日	民家園フェンス整備工事完了
2009	21年3月26日	民家園監視カメラ設置
	7月17日	特別展「恐竜ワールド2009」 7/17～9/6(入館者数108,966人)



西暦	年 月 日	事 項
	平成	
2009	21年 9月	宮崎県総合博物館中期運営ビジョン策定
2010	22年 2月	民家園入園者数年間 5万人を記録
	3月	民家園便所新築工事完成
	6月 12日	口蹄疫拡大防止のための臨時休館 6/12～7/26
	7月 31日	特別展「古代カルタゴとローマ」 7/31～9/26 ※口蹄疫の影響により会期を変更して開催
	8月 5日	「賀来飛霞標本」国の登録記念物に指定
2011	23年 5月	第1駐車場舗装工事完成
	7月 16日	特別展「ふしぎ!昆虫パワー」 7/16～9/4 (入館者数 46,434人)
	7月 19日	台風6号接近に伴う臨時休館
	11月	中央監視装置更新
2012	24年 4月	突風により旧藤田家住宅、米良の民家の茅葺き屋根の一部損壊
	7月 14日	特別展「吉村作治の古代七つの文明展」 7/14～9/2 (入館者数 28,946人)
2013	25年 7月	3館(美術館、図書館、博物館)見学ツアー開始 7/12～3/23 (16団体)
	7月 13日	特別展「よみがえる恐竜時代」 7/13～9/1 (入館者数 59,632人)
2014	12月 8日	博物館南側の通路を一般公募により「杜の小道」に決定
	26年 7月 10日	台風接近による臨時休館(他 8/9, 10/13)
	7月 19日	特別展「ほねほね大集合!」7/19～8/31 (入館者数 26,802人)
	7月 31日	「教員のための博物館の日 in 宮崎」開催
2015	27年 1月	管理棟改修(窓枠)工事
	3月	宮崎県総合博物館第2期中期運営ビジョン策定
	3月 18日	民家園(旧黒木家、旧藤田家住宅)保存修理工事(工期 H27. 3. 18-28. 2. 29)
	5月 21日	九州博物館協議会理事会・総会・懇親会 5.22 現地視察
	8月 18日	特別展「今昔、日本の妖怪」7/18～8/31 (入館者数 29,781人)
2016	28年 3月 6日	民家園(旧黒木家、旧藤田家住宅)保存修理完成披露
	5月	熊本地震発生(被災文化財レスキュー事業で職員派遣: 10月、11月各1名)
	6月 22日	4館(美術館、図書館、芸術劇場、博物館)見学ツアー開始 6/22～ (11団体)
	7月	本館情報発信を職員ブログから SNS(Facebook・ツイッター)へ変更
	7月 16日	特別展「ワクワ!ふしぎ生物ワグワグワールド」7/16～9/4 (入館者数 20,787人)
	9月 4日	台風接近による臨時休館
2017	29年 1月	累計入館者 300万人達成
	3月 16日	民家園(米良の民家、椎葉の民家)保存修理工事(工期 H29. 3. 16-30. 1. 18)
	7月 15日	特別展「日本南極観測 60周年記念 南極展」7/15～9/3 (入館者数 20,730人)
	8月 5日	台風接近による臨時休館
	30年 3月 24日	民家園(米良の民家、椎葉の民家)保存修理完成披露
	3月	民家園消火設備改修工事完了
2018	30年 7月 14日	特別展「むしむし虫展」 7/14～9/2 (入場者数 49,411人)
	8月 22日	機器故障による臨時休館
	9月 30日	台風接近による臨時休館
	11月 8日	九州博物館協議会学芸員・事務職員研修会 11/9 現時視察
2019	31年 4月	民家園利用事業の開始
	令和元年	
	8月 14日～15日	台風による臨時休館(8月14日正午から8月15日)
	9月	音声ガイドシステム「音えんぴつ」及びFree Wi-Fiの導入
2020	12月 12日	「名古屋大学博物館との相互協力に関する協定書」調印式
	2年 1月	空調設備改修工事(I期)完了
	2月	新型コロナウイルスによる感染症感染予防・拡散防止のためイベント中止
	3月	新型コロナウイルスによる感染予防・拡散防止のため臨時休館 (3月5日～26日)

【歴代館長名】

歴代	氏 名	在 職 期 間	在職年数	備 考
初代	野 村 憲一郎	昭和 26年 4月 17日 ～ 昭和 28年 3月 31日	2年	県教育長兼
2	日 高 重 孝	昭和 28年 4月 1日 ～ 昭和 32年 6月 30日	4年 3か月	専 任
3	伊集院 竜 雄	昭和 32年 7月 1日 ～ 昭和 32年 9月 30日	3か月	県教育長兼
4	隈 江 信 光	昭和 32年 10月 1日 ～ 昭和 35年 12月 20日	3年 3か月	専 任
5	野 瀬 良 胤	昭和 35年 12月 21日 ～ 昭和 36年 7月 15日	7か月	社会教育課長兼
6	柳 宏 吉	昭和 36年 7月 16日 ～ 昭和 51年 3月 31日	14年 9か月	専 任
7	園 田 穂 積	昭和 51年 4月 1日 ～ 昭和 53年 3月 31日	2年	〃
8	日 高 千 文	昭和 53年 4月 1日 ～ 昭和 55年 3月 31日	2年	〃
9	黒 木 淳 吉	昭和 55年 4月 1日 ～ 平成 元年 3月 31日	9年	〃
10	山 本 一 磨	平成 元年 4月 1日 ～ 平成 5年 3月 31日	4年	〃
11	児 玉 純 一	平成 5年 4月 1日 ～ 平成 7年 3月 31日	2年	〃
12	安 田 天 祥	平成 7年 4月 1日 ～ 平成 9年 3月 31日	2年	〃
13	原 田 重 行	平成 9年 4月 1日 ～ 平成 10年 3月 31日	1年	〃
14	間瀬田 達	平成 10年 4月 1日 ～ 平成 11年 3月 31日	1年	〃
15	黒 木 泰 邦	平成 11年 4月 1日 ～ 平成 13年 3月 31日	2年	〃
16	肱 岡 理 孝	平成 13年 4月 1日 ～ 平成 14年 3月 31日	1年	〃
17	福 永 孝 義	平成 14年 4月 1日 ～ 平成 15年 3月 31日	1年	〃
18	仲 田 俊 彦	平成 15年 4月 1日 ～ 平成 15年 8月 27日	5か月	〃
19	甲 斐 景早文	平成 15年 8月 28日 ～ 平成 17年 3月 31日	1年 7か月	〃
20	藤 原 壽太郎	平成 17年 4月 1日 ～ 平成 18年 3月 31日	1年	〃
21	高 柳 憲 一	平成 18年 4月 1日 ～ 平成 19年 3月 31日	1年	〃
22	河 野 喜 和	平成 19年 4月 1日 ～ 平成 21年 3月 31日	2年	〃
23	後 藤 厚 一	平成 21年 4月 1日 ～ 平成 22年 3月 31日	1年	〃
24	宮 脇 和 寛	平成 22年 4月 1日 ～ 平成 24年 3月 31日	2年	〃

(4) 教育普及

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		総合評価	外部評価		評価
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価		評価・意見		
① 学校教育支援	学校受入校数	年200校	229校	・学校受け入れ校数は昨年度の225校とほぼ同数で昨年に引き続き目標値を今年も達成できた。資料貸出し校数、授業支援、職場体験受け入れ、職員研修受入れ数は目標を達成できなかった。		2	①授業支援については、小・中・高、特別支援学校における教科や総合的な探求の時間等、具体的な活用方法について紹介し、周知できるような機会があることよの引かれるものだったし、常設展は毎回楽しみである。私も見に行ったりと、展示物は興味ある項目も「目標値を達成できた」。多くの来場者があった。「関係機関との連携が図れた」などの内部評価を元に評価を行った。学芸員の方や博物館職員(展示解説員)の児童・生徒対応(説明)も、学年や発達段階に応じた対応でわかりやすいと思う。		
	資料貸出し	年10校	4校	・学校受け入れ校数は昨年度より減少したが、宮崎北高等学校のサイエンス科への支援、など複数日数実施した学校もあり、支援回数は2回であった。					
	授業支援	年10校	6校	・今後も計画的に学校教育支援に取り組むとともに、校長会や職員研修会などの機会を通じて、博物館の学校支援のメニューや有効性について説明し、周知を図る。					
	職場体験受入れ	年5校	4校	・展示解説を受けた人数は目標人数を達成することができた。展示解説を受けた方々の個人アンケートによると「満足した」「やや満足した」の合計が97.7%で、満足度が高かった。今後とも来館者への声かけや事前広報に取り組み、利用者の興味や関心を高めるような解説を工夫し、多くの来館者に展示解説を実施していく。					
	職員研修受入れ	年5校	2校	・主催講座は、普及講座(22回)と特別展開関連講座(8回)、民家園伝統文化体験講座(7回)、どこでも博物館(3回)であり、地域講座数とも目標をクリアすることができた。受講者数も目標値を大きく上回ることができた。					
② 展示解説	実施人数	年10,000人	10,042人			3	⑦受講者数が大幅に増加したことは大変素晴らしいと思う。大幅増加の背景を分析し、今後とも興味のある講座を期待する。		
③ 博物館講座等	主催講座(地域講座含む)	年30回	40回	・主権講座は、普及講座(22回)と特別展開関連講座(8回)、民家園伝統文化体験講座(7回)、どこでも博物館(3回)であり、地域講座数とも目標をクリアすることができた。		4	⑧民家園を活用した神楽公演は、西米良村材所、高千穂町上田原、宮崎市生目の3団体の出演で、例年より多い。村所と生目は境内など屋外で奉納されるので、民家園の庭、高千穂神楽は民家を神楽宿として行うことと上田原は稚葉の民家が奉納され、現地夜神楽の雰囲気を感じることができたと思われ、神楽公演が行われた日は入館者が増えていることから、この集客が県民に知られるようになっていくであろう。県事業は3年で見直されるが、教育分野は継続が大事である。		
	地域講座	年10回	10回	・その他の催事として、福祉施設と共催で風車フェスタ(10月)、愛好会と共催でレゴコンゴート(11月)のほか、民家園ボランティアによる昔の昔のくらし体験(5回)を実施することができた。					
④ 民家園の活用	受講者数	年1,500人	3,148人	・今年度は民家園利用事業制度をスタートさせた。また、新たな媒体を使ってボランティア募集を行ったのに加え、ボランティアとの意見交換会を通じて意識の向上を図るとともに、運用面の改善に取り組むことができた。		4	⑨民家園に限らず、民家園ほど民俗行事や民俗芸能の舞台としてふさわしい空間はない。ホールでの舞台とは一味違った趣がある。当館の「民家園民俗文化体験事業」の一環として行われる神楽公演は、例になく祭場の設えが本格的で、座敷や庭とのマッチングがすばらしい。撮取の風景も印象的だが、忙しく働く人びとのなかに館員の姿を見出すことができる。		
	民家園まつり	年1回	1回	・神楽公演は昨年度より回数が増え、10月西米良、11月高千穂、2月生目の3回神楽実施した。3月には民家園春まつりを開催し、それぞれ多くの来場者があった。		4	⑩神楽公演は是非とも次世代に伝えてほしい項目である。また、昔の暮らし体験等で若い世代に「生きている力」を育成するヒントを頂ける機会があることは大変素晴らしいと思う。ぜひ、このよような活動の周知を図っていただきたい。		
	伝統芸能公演	年1回	3回	・毎週第3土曜日に開催している昔話公演は、新たな団体が加わるなど演目が充実し、目標の10回を開催でき、幅広い年代層に楽しんでいた。また、					
宮崎の昔話公演	年10回	10回	・植物、地質、考古、歴史、民俗、教育普及、資料保存など様々な分野の研究や会議、調査等に講師や委員として職員を10件20回派遣し、関係機関等の職員の招聘が20件あった。資料貸出し及び資料借用用または展覧会等で協力を得た関係機関は83件。視察、調査等で来館された関係機関は19件あり、多方面の関係機関との連携を図ることができた。						
⑤ 関係機関との連携	職員の派遣・招聘	年20件	152件	・植物、地質、考古、歴史、民俗、教育普及、資料保存など様々な分野の研究や会議、調査等に講師や委員として職員を10件20回派遣し、関係機関等の職員の招聘が20件あった。資料貸出し及び資料借用用または展覧会等で協力を得た関係機関は83件。視察、調査等で来館された関係機関は19件あり、多方面の関係機関との連携を図ることができた。		4	⑪調査研究については、個別研究と全部門合同で行う総合調査研究があり、前年度の総合調査研究の都合等により調査研究の出張等を組めない、個別研究・小丸川調査(総合調査研究)の両立も困難・・・)と状況を分析し、総合評価は2としている。平成28年度には総合調査(「南高地域調査報告書」を著しており、小丸川水系の総合調査も県南地域と同様の報告ができる予定(平成30年度の研究紀要に2編の小丸川水系に関連する報告が掲載されている)であった。計画当初の項には考えられないような業務が増えたのか、充分に計画が練られていなかったのか、旅費計上がなされたのか、などと考えている。		
	資料の貸し借り								
	研究会への参画								
	共催事業等								

宮崎県総合博物館 第2期中期運営ビジョン評価表(平成30年度)

評価欄の数値は4段階評価数値

内部評価 4…指標を大きく上回った 3…指標を達成できた 2…指標をやや下回った 1…指標を大きく下回った

外部評価 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要

(1) 調査研究

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		総合評価	外部評価		評価
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価		評価・意見		
① 調査研究方針・計画	達成率	100%	56%	・学芸課職員が個別に研究テーマを設定して行う個別(テーマ)研究と、全部門合同で行う小丸川水系の総合調査研究とがある。一部の研究では成果を研究紀要に公表することができたが、ほとんどどの部門で他の業務の都合等により調査研究の出張等を組めない状況があり、個別研究・小丸川調査の両立も困難であった。		1	①職員の研究には、個別研究と全部門合同で行う総合調査研究があり、前年度の総合調査研究の都合等により調査研究の出張等を組めない、個別研究・小丸川調査(総合調査研究)の両立も困難・・・)と状況を分析し、総合評価は2としている。平成28年度には総合調査(「南高地域調査報告書」を著しており、小丸川水系の総合調査も県南地域と同様の報告ができる予定(平成30年度の研究紀要に2編の小丸川水系に関連する報告が掲載されている)であった。計画当初の項には考えられないような業務が増えたのか、充分に計画が練られていなかったのか、旅費計上がなされたのか、などと考えている。		
	研究紀要の発刊	年1回	研究紀要1回	・3月に職員11名が調査研究の結果や収蔵資料に関する内容、アクトリー子活動に関する内容についての報告を行った。館内の職員研修として実施し、職員のほか博物館協議会委員や県立の他機関、県内の他の文化施設職員にも参加いただいた。					
② 調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年1回	研究紀要1回	・3月に12論文・研究ノートからなる「研究紀要第39輯」を発行できた。本県の自然史、歴史等の解明に一定の貢献が期待できている。		3	②業務の都合等で調査研究の出張が組めない状況があるようだ。目標値(計画・方針)が高いのかわからないが、重要な部分でもあり、何とか研究日を確保して欲しい。内容的にも充実しているの、その報告を是非県民に今後とも還元してもらいたいと思う。		
			・次年度の研究紀要では、水系列総合調査研究(小丸川水系)の成果報告を中心に掲載する予定である。						

※外部評価は、宮崎県博物館協議会委員による評価

(2) 収集・保存

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		外部評価		評価
	内容	目標値 (年平均)		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価		
①収集・管理	資料の収集	2,500点 (年平均500点)	4,906点	資料の収集・図書・文庫の整理・登録・デジタルミュージアム登録数は下回ったが、デジタルデータの収集については、動物部門ではハネカクシ類の乾燥標本、宮崎海洋高等学校の長期乗船実習時に捕獲されたハネカクシ類の乾燥標本、宮崎サケガケラ骨格標本、植物部門では本県で継続して発生することはないイカダケケのレプリカ、地質部門では五ヶ瀬町鞍馬山で採集した床板サソリ骨格標本、化石、歴史部門では戦時中の生々しい記憶を伝える千人針、民俗部門では昭和末期から平成初期に撮影された雅楽神楽等映像DVDなど、今後活用できる価値の高い資料を収集することを行った。	4	3	<p>外部評価</p> <p>評価・意見</p> <p>①資料の収集の目標値、その内容についても大変大きな成果を挙げられたのは、各方面との連携等の不撓の努力と博物館に対する信頼の高さと思われる。 ②保存のための取り組みが着実に実施できていることは良かった。 ③資料の収集は点数として順調で喜ばないが、その管理・保管に課題はないのだろうか。特に貴館の設備等が最新ではないだけに心配している。 ④資料の収集、図書・文庫の整理・登録など、地道な業務が充実して実施されていること、折角だから、図書や文庫についてはホームページで分野別に検索できるようにサービスを提供したらどうだろうか。(宮崎県立図書館と連携して図書検索システムで検索できるようにしたほうがよいかも知れない。その場合は、ホームページでその旨のお知らせを載せたらどうか) ⑤資料の収集・管理において、今後活用できる価値の高い資料の多い資料は大きく評価したい。保存は、十分に確保できていると思われる。ウェブページも確保されている。等々を考慮して十分に評価できる。 ⑥宮崎県史にとって有益な物品の所蔵が紹介されている。</p>	
	図書・文庫の収集	5,000点 (年平均1,000点)	1,124点	・資料の収集・図書・文庫の整理・登録・デジタルミュージアム登録数は下回ったが、デジタルデータの収集については、動物部門ではハネカクシ類の乾燥標本、宮崎海洋高等学校の長期乗船実習時に捕獲されたハネカクシ類の乾燥標本、宮崎サケガケラ骨格標本、植物部門では本県で継続して発生することはないイカダケケのレプリカ、地質部門では五ヶ瀬町鞍馬山で採集した床板サソリ骨格標本、化石、歴史部門では戦時中の生々しい記憶を伝える千人針、民俗部門では昭和末期から平成初期に撮影された雅楽神楽等映像DVDなど、今後活用できる価値の高い資料を収集することを行った。	3			
	デジタルデータ(写真・映像等)の収集	5,000点 (年平均1,000点)	646点	・資料の収集・図書・文庫の整理・登録・デジタルミュージアム登録数は下回ったが、デジタルデータの収集については、動物部門ではハネカクシ類の乾燥標本、宮崎海洋高等学校の長期乗船実習時に捕獲されたハネカクシ類の乾燥標本、宮崎サケガケラ骨格標本、植物部門では本県で継続して発生することはないイカダケケのレプリカ、地質部門では五ヶ瀬町鞍馬山で採集した床板サソリ骨格標本、化石、歴史部門では戦時中の生々しい記憶を伝える千人針、民俗部門では昭和末期から平成初期に撮影された雅楽神楽等映像DVDなど、今後活用できる価値の高い資料を収集することを行った。				
	収集資料の整理・登録	4,000点 (年平均800点)	2,440点	・資料の収集・図書・文庫の整理・登録・デジタルミュージアム登録数は下回ったが、デジタルデータの収集については、動物部門ではハネカクシ類の乾燥標本、宮崎海洋高等学校の長期乗船実習時に捕獲されたハネカクシ類の乾燥標本、宮崎サケガケラ骨格標本、植物部門では本県で継続して発生することはないイカダケケのレプリカ、地質部門では五ヶ瀬町鞍馬山で採集した床板サソリ骨格標本、化石、歴史部門では戦時中の生々しい記憶を伝える千人針、民俗部門では昭和末期から平成初期に撮影された雅楽神楽等映像DVDなど、今後活用できる価値の高い資料を収集することを行った。				
	デジタル・ミュージアム登録数	1,000点 (年平均200点)	231点	・資料の収集・図書・文庫の整理・登録・デジタルミュージアム登録数は下回ったが、デジタルデータの収集については、動物部門ではハネカクシ類の乾燥標本、宮崎海洋高等学校の長期乗船実習時に捕獲されたハネカクシ類の乾燥標本、宮崎サケガケラ骨格標本、植物部門では本県で継続して発生することはないイカダケケのレプリカ、地質部門では五ヶ瀬町鞍馬山で採集した床板サソリ骨格標本、化石、歴史部門では戦時中の生々しい記憶を伝える千人針、民俗部門では昭和末期から平成初期に撮影された雅楽神楽等映像DVDなど、今後活用できる価値の高い資料を収集することを行った。				
(合計)	(年平均3,500点)	9,347点	・資料の収集・図書・文庫の整理・登録・デジタルミュージアム登録数は下回ったが、デジタルデータの収集については、動物部門ではハネカクシ類の乾燥標本、宮崎海洋高等学校の長期乗船実習時に捕獲されたハネカクシ類の乾燥標本、宮崎サケガケラ骨格標本、植物部門では本県で継続して発生することはないイカダケケのレプリカ、地質部門では五ヶ瀬町鞍馬山で採集した床板サソリ骨格標本、化石、歴史部門では戦時中の生々しい記憶を伝える千人針、民俗部門では昭和末期から平成初期に撮影された雅楽神楽等映像DVDなど、今後活用できる価値の高い資料を収集することを行った。					
②保存	燻蒸	年1回	1回	・本館では平成23年度からIPM(総合的虫害管理)の考えを取り入れた資料保存に取り組んでいる。平成30年度も全職員によるIPMウォッチング、学芸課担当職員によるモニタリング調査を計画しており実施することができた。 ・月に一度、適切な処理を維持するために学芸課職員による取蔵庫の目視・清掃を実施した。	3			
	簡易燻蒸(殺虫等処理)	年1回	1回	・取蔵庫内の燻蒸及び展示室内の簡易燻蒸(殺虫等処理)を計画しており実施した。その際、常設展示室内の虫害発生のおそれがある資料については、燻蒸期間中は立ち入り禁止区域を設定し、館外でのガス漏れ計測を行うなどの万全の対策を行った。				
	IPMウォッチング	年12回	12回					

(3) 展示

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		外部評価		評価
	内容	目標値 (年平均)		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価		
①入館者数	本館入館者数	80万人 (年平均16万人)	136,134人	・本館の入館者数については、例年10万人程度で推移している。平成30年度は「むしムシ虫展」が好評で約5万人の入場者があり、年間13万人を超える入館者があったが、目標値である16万人を超えることはできなかった。現在、常設展示室における資料入替え1階エントランスホールや2階ロビーを活用したロビー展の開催、展示解説員による展示解説や団体案内、催し物の開催などのサービスの向上、エントランスホールでの合唱、書道ハフオマーマンスの開催など、従前の催しの改善や新たな取り組みを工夫しており、さまざまな機会をとらえて情報発信を行っている。今後、引き続き、特別展をはじめ魅力ある企画を展開することも「どこでも博物館」事業や野外講座などのアウトリーチ活動等を通じて、県民に総合博物館の展示や諸活動を周知するなど、本館の有効な活用と集客力の強化を図っていく。 ・今年、増えることが予想される外国人観光客に対応するため、多言語音声システムや無料WiFiの整備など、インバウンド対応を進めていく必要がある。	2	3	<p>内部評価</p> <p>評価内容及び改善策</p> <p>・本館の入館者数については、例年10万人程度で推移している。平成30年度は「むしムシ虫展」が好評で約5万人の入場者があり、年間13万人を超える入館者があったが、目標値である16万人を超えることはできなかった。現在、常設展示室における資料入替え1階エントランスホールや2階ロビーを活用したロビー展の開催、展示解説員による展示解説や団体案内、催し物の開催などのサービスの向上、エントランスホールでの合唱、書道ハフオマーマンスの開催など、従前の催しの改善や新たな取り組みを工夫しており、さまざまな機会をとらえて情報発信を行っている。今後、引き続き、特別展をはじめ魅力ある企画を展開することも「どこでも博物館」事業や野外講座などのアウトリーチ活動等を通じて、県民に総合博物館の展示や諸活動を周知するなど、本館の有効な活用と集客力の強化を図っていく。 ・今年、増えることが予想される外国人観光客に対応するため、多言語音声システムや無料WiFiの整備など、インバウンド対応を進めていく必要がある。</p> <p>・国重要有形民俗文化財・県指定文化財を活用した民家園講座をはじめ、神楽公演、民家園春まつりなどの各種事業が好評で、入館者数が目標値の5万人を上回ることができた。 ・平成30年度より、新たに民間主体による民家園利用事業制度をスタートさせたところである。今後とも文化財の保護に十分注意するとともに、県民に広く周知されるための利活用を一層進めていく必要がある。</p>	
	民家園入館者数	25万人 (年平均5万人)	50,714人	・国重要有形民俗文化財・県指定文化財を活用した民家園講座をはじめ、神楽公演、民家園春まつりなどの各種事業が好評で、入館者数が目標値の5万人を上回ることができた。 ・平成30年度より、新たに民間主体による民家園利用事業制度をスタートさせたところである。今後とも文化財の保護に十分注意するとともに、県民に広く周知されるための利活用を一層進めていく必要がある。				
	展示替え回数	年5回	19回	・自史展示室では、地質部門が鉱物(カンラン石・ハニキマー水晶等)、動物部門がアガカシヨウビンを展示替えを、歴史展示室ではロビーケースを、日本刀や鐘の展示替えを、民俗展示室では佐土原人形の展示替えを行うなど、収蔵資料の活用にも努めた。				
②常設展	実施回数	年3回	主催事業 3回 貸館事業 1回	・主催事業として、巡回展「第38回SSP展」、県教職員互助会との実行委員会形式で開催した「むしムシ虫展」、本館が独自に企画した「日向国の明治維新展」の3回、貸館事業として、「岩台光昭の世界ネコ歩き写真展」(主催：宮崎日日新聞社、DMXテレビ宮崎)の1回を実施し、目標を上回った。 ・本館内で実施した主催事業に係る来場者の満足度は、アンケートによると「良かった」以上が「第38回SSP展」では92%、「むしムシ虫展」では84%、「日向国の明治維新展」では90%、全体では85%となり、高い評価をいただいた。	4	3	<p>外部評価</p> <p>評価・意見</p> <p>①入館者については、本館での目標値には到達できなかったものの、昨年度よりさらに2.5万人ほど増加している。民家園も微増している。情報発信等の取り組みを継続したい。常設展での展示替え等の努力にも感謝したい。とにかく足を運んでもらえれば...と思う。特別展でのアンケートでの満足度が高いのは、素直に喜ぶたい。(ロビー展での高校野球展も良い企画だと思いましたが。宮崎県は、素直に喜ぶたい。館に人を得て、やるなら今でしょ。 ②入館者数は目標を少し下回ったが、例年より多かったのだから良いと思う。民家園は補修も済み、建物を見るばかりでなく、講座、神楽、春まつり等の事業を組み入れる努力が、5万人以上の入館者で、高く評価できる。 ③常設展・神楽のコーナーは高崎の宝。県も近年その魅力の発信に力を入れている。民俗展示のなかでも神楽のコーナーはspecialであったほしい。神楽シアターへの映像是よくまとまっているが、全体としては神楽の入口の紹介にとどまっていいる。宮崎の神楽の特徴、面・採り物、衣裳の実物、御神屋の設えの意味など、さらに掘り下げた内容がある。例えば、宮崎の神楽をテーマとした特別展を開催し、県や研究者が各地の神楽保存会が喜んで協力してくれ、宮崎中の神楽好きが押し寄せるに違いない。館に人を得て、やるなら今でしょ。 ④マスコミやSNSで、当館にマスコミやキャラクターが存在することに気づいたという。民家園春まつりなど、例年より多かったのだから良いと思う。民家園は補修も済み、建物を見るばかりでなく、講座、神楽、春まつり等の事業を組み入れる努力が、5万人以上の入館者で、高く評価できる。 ⑤特別展「むしムシ虫展」カブトムシやワガタなど大判甲虫や児童たちが最も好む昆虫で、夏休み期間中に開催されたのは時宜にかなった開催であった。展示会場の一部を区切ったエリアにヘラクレスオオカブトなど外国産の生きた成虫の展示があり、普段目にする争の少ない大型昆虫に、子どもたちは興奮気味であった。館外に逃げ出す恐れがないで監視員に問うと、数の確認を適宜行う、閉館後は業者が持ち帰るとのことだった。</p>	
	展示替え回数	年5回	19回	・自史展示室では、地質部門が鉱物(カンラン石・ハニキマー水晶等)、動物部門がアガカシヨウビンを展示替えを、歴史展示室ではロビーケースを、日本刀や鐘の展示替えを、民俗展示室では佐土原人形の展示替えを行うなど、収蔵資料の活用にも努めた。				
③特別展	実施回数	年3回	主催事業 3回 貸館事業 1回	・主催事業として、巡回展「第38回SSP展」、県教職員互助会との実行委員会形式で開催した「むしムシ虫展」、本館が独自に企画した「日向国の明治維新展」の3回、貸館事業として、「岩台光昭の世界ネコ歩き写真展」(主催：宮崎日日新聞社、DMXテレビ宮崎)の1回を実施し、目標を上回った。 ・本館内で実施した主催事業に係る来場者の満足度は、アンケートによると「良かった」以上が「第38回SSP展」では92%、「むしムシ虫展」では84%、「日向国の明治維新展」では90%、全体では85%となり、高い評価をいただいた。	3	3	<p>外部評価</p> <p>評価・意見</p> <p>①入館者については、本館での目標値には到達できなかったものの、昨年度よりさらに2.5万人ほど増加している。民家園も微増している。情報発信等の取り組みを継続したい。常設展での展示替え等の努力にも感謝したい。とにかく足を運んでもらえれば...と思う。特別展でのアンケートでの満足度が高いのは、素直に喜ぶたい。(ロビー展での高校野球展も良い企画だと思いましたが。宮崎県は、素直に喜ぶたい。館に人を得て、やるなら今でしょ。 ②入館者数は目標を少し下回ったが、例年より多かったのだから良いと思う。民家園は補修も済み、建物を見るばかりでなく、講座、神楽、春まつり等の事業を組み入れる努力が、5万人以上の入館者で、高く評価できる。 ③常設展・神楽のコーナーは高崎の宝。県も近年その魅力の発信に力を入れている。民俗展示のなかでも神楽のコーナーはspecialであったほしい。神楽シアターへの映像是よくまとまっているが、全体としては神楽の入口の紹介にとどまっていいる。宮崎の神楽の特徴、面・採り物、衣裳の実物、御神屋の設えの意味など、さらに掘り下げた内容がある。例えば、宮崎の神楽をテーマとした特別展を開催し、県や研究者が各地の神楽保存会が喜んで協力してくれ、宮崎中の神楽好きが押し寄せるに違いない。館に人を得て、やるなら今でしょ。 ④マスコミやSNSで、当館にマスコミやキャラクターが存在することに気づいたという。民家園春まつりなど、例年より多かったのだから良いと思う。民家園は補修も済み、建物を見るばかりでなく、講座、神楽、春まつり等の事業を組み入れる努力が、5万人以上の入館者で、高く評価できる。 ⑤特別展「むしムシ虫展」カブトムシやワガタなど大判甲虫や児童たちが最も好む昆虫で、夏休み期間中に開催されたのは時宜にかなった開催であった。展示会場の一部を区切ったエリアにヘラクレスオオカブトなど外国産の生きた成虫の展示があり、普段目にする争の少ない大型昆虫に、子どもたちは興奮気味であった。館外に逃げ出す恐れがないで監視員に問うと、数の確認を適宜行う、閉館後は業者が持ち帰るとのことだった。</p>	
	実施回数	年12回	16回	・エントランス・ロビー展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら全16回実施した。内訳は、特別展関連展示2件、各部門の企画展示9件、広報推進委員会による企画(博物館ひなまつり)1件、博物館友の会の企画展示1件、県その他機関・学校の展示3件であった。				
④ロビー展	実施回数	年12回	16回	・エントランス・ロビー展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら全16回実施した。内訳は、特別展関連展示2件、各部門の企画展示9件、広報推進委員会による企画(博物館ひなまつり)1件、博物館友の会の企画展示1件、県その他機関・学校の展示3件であった。	4	3	<p>外部評価</p> <p>評価・意見</p> <p>①入館者については、本館での目標値には到達できなかったものの、昨年度よりさらに2.5万人ほど増加している。民家園も微増している。情報発信等の取り組みを継続したい。常設展での展示替え等の努力にも感謝したい。とにかく足を運んでもらえれば...と思う。特別展でのアンケートでの満足度が高いのは、素直に喜ぶたい。(ロビー展での高校野球展も良い企画だと思いましたが。宮崎県は、素直に喜ぶたい。館に人を得て、やるなら今でしょ。 ②入館者数は目標を少し下回ったが、例年より多かったのだから良いと思う。民家園は補修も済み、建物を見るばかりでなく、講座、神楽、春まつり等の事業を組み入れる努力が、5万人以上の入館者で、高く評価できる。 ③常設展・神楽のコーナーは高崎の宝。県も近年その魅力の発信に力を入れている。民俗展示のなかでも神楽のコーナーはspecialであったほしい。神楽シアターへの映像是よくまとまっているが、全体としては神楽の入口の紹介にとどまっていいる。宮崎の神楽の特徴、面・採り物、衣裳の実物、御神屋の設えの意味など、さらに掘り下げた内容がある。例えば、宮崎の神楽をテーマとした特別展を開催し、県や研究者が各地の神楽保存会が喜んで協力してくれ、宮崎中の神楽好きが押し寄せるに違いない。館に人を得て、やるなら今でしょ。 ④マスコミやSNSで、当館にマスコミやキャラクターが存在することに気づいたという。民家園春まつりなど、例年より多かったのだから良いと思う。民家園は補修も済み、建物を見るばかりでなく、講座、神楽、春まつり等の事業を組み入れる努力が、5万人以上の入館者で、高く評価できる。 ⑤特別展「むしムシ虫展」カブトムシやワガタなど大判甲虫や児童たちが最も好む昆虫で、夏休み期間中に開催されたのは時宜にかなった開催であった。展示会場の一部を区切ったエリアにヘラクレスオオカブトなど外国産の生きた成虫の展示があり、普段目にする争の少ない大型昆虫に、子どもたちは興奮気味であった。館外に逃げ出す恐れがないで監視員に問うと、数の確認を適宜行う、閉館後は業者が持ち帰るとのことだった。</p>	
	実施回数	年12回	16回	・エントランス・ロビー展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら全16回実施した。内訳は、特別展関連展示2件、各部門の企画展示9件、広報推進委員会による企画(博物館ひなまつり)1件、博物館友の会の企画展示1件、県その他機関・学校の展示3件であった。				

4 県総合博物館関係法規

(1) 宮崎県総合博物館条例

昭和 45 年 12 月 23 日  
宮崎県条例第 41 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、宮崎県総合博物館（以下「総合博物館」という。）の設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条第 1 項の規定に基づき、総合博物館を設置する。

2 総合博物館の位置は、宮崎市神宮 2 丁目 4 番 4 号とする。

(使用料の徴収)

第 3 条 総合博物館の資料を観覧し、又は施設を利用しようとする者は、別に条例で定めるところにより使用料を納付しなければならない。

(委任)

第 4 条 この条例に定めるもののほか、総合博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、県教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、昭和 46 年 3 月 2 日から施行する。

附 則（平成 18 年 10 月 1 日条例第 62 号）

この条例は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例(抄)

平成 13 年 3 月 29 日  
宮崎県条例第 23 号

(趣旨)

第 1 条 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 225 条の規定に基づく使用料及び同法第 227 条の規定に基づく手数料で宮崎県教育委員会の所管に属するものの徴収については、他の条例に特別の定めがある場合を除くほか、この条例の定めるところによる。

(使用料)

第 2 条 次の各号に掲げる公の施設を利用する者は、それぞれ当該各号に掲げる名称の使用料を納めなければならない。ただし、教育関係の公の施設に関する条例（昭和 39 年宮崎県条例第 36 号）第 6 条第 1 項の規定により、教育関係の公の施設を管理する指定管理者が、当該教育関係の公の施設の利用料金を収受している場合は、この限りでない。

(1)～(4) 省略

(5) 宮崎県総合博物館 総合博物館観覧料及び総合博物館使用料

(6)～(8) 省略

2 前項各号に掲げる使用料の金額その他その徴収に関する事項については、それぞれ別表第 1 に定めるところとする。

別表第 1(第 2 条関係)

使用料	区分		単位	金額	納期	備考
5 総合博物館観覧料及び総合博物館使用料	総合博物館観覧料	特別展示	宮崎県教育委員会がその都度定める単位	宮崎県教育委員会がその都度定める額	宮崎県教育委員会がその都度定める時期	「入場料等」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず入場することに関し徴収される入場の対価その他これに類するものをいう。
		博物館特別展示室	入場料等を徴収する場合	1日につき	24,660 円	
	博物館使用料	入場料等を徴収しない場合	同	18,500 円		

⑫福祉施設との連携について、福祉サイドとしては大変ありがたい取り組みである と認識しており、より一層の取り組みの強化を要望する。 特に、地域回遊法事業の実施は、認知症の高齢者が増加する中、機を捉えた取り組みである。本事業では、認知症改善に係る様々なデータを蓄積することができると 認め、昨年度は目標を下回る実績であったことも踏まえ、今後は関係者連携のもと、 更なる事業の推進を図って欲しい。											
⑬研究発表会の開催は宮崎県の自然科学の向上に博物館が牽引役を果たす大きな功 績と評価する。											
2	2	3	3								
・福祉施設の来館は、展示解説員が主体となつて認知症高齢者を対象に実施している。「博物館で思い出を語ろう！」事業を多団体 期（5・8・10・11月）に実施しなかつたため、目標を下回った。 ・今後は、福祉施設におけるテーマ回遊法だけでなく、福祉施設 や高齢者団体におけるコース回遊法での活用を広く広報し、様々 な施設や団体のニーズをふまえた事業展開を図っていく。 ・一般552件、マスコミ139件、公共機関64件、学校41件等からの 相談が計842件あった。相談件数は昨年度より75件減り、目標値 に届かなかつた。 ・レファレンスサービスはホームページなどを通じて周知を図 り、問い合わせには適切に対応していきたい。 ・県内研究団体の発表会を3月に開催し、自然科学系の10団体が 報告を行った。参加者は昨年度と同数の69人であった。本年度が 9回目の開催となり、自然科学に関する情報発信の場として定着 し、一定の役割を果たしている。 ・学芸課職員が講師派遣を2回計画したが、天候不良で計1回の みの実施であった。 ・また、友の会会員による博物館講座支援は、霧島山の植物観察 など4回あった。 ・友の会の会員による写真展「はくとも写真展」を館職員も協力 しながら友の会会員による展示を行い、友の会と連携して開催し た事業も展開できた。	142件	842件	1回	講師派遣1回 講座支援4回 計5回	年200件	年1,000件	年1回	年5回			
⑭博物館と福祉施設との連携	⑮レファレンス対応	⑯研究発表会の開催	⑰博物館友の会との連携	施設受入件数	相談件数	研究発表会	講師派遣 (博物館→友の会) 講座支援 (友の会→博物館)				

(5) 情報発信

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見
①情報発信の充実	広報紙発行	年2回	2回	評価内容及び改善策 ・広報紙「森の通信」を6月と9月の2回(64号・65号)発行し、県内の学校や博物館、図書館、公民館等の公共施設などに配布するとともに、ホームページにも掲載した。 ・博物館の情報を報道機関に提供する報道処理は64件で、目標を大きく下回った。 ・館内の広報推進会議で広報効果の検証等を行いながら、新たな広報手段に取り組み、情報発信に努めていく。	2	3	<p>①報道機関への情報提供において、目標を大きく下回ったのは残念である。情報発信は利用促進にとって重要な手段であるので、効果的な発信に努めていただきたい。</p> <p>②情報発信件数が、目標を下回ったことは、残念な結果であるが、原因を把握し、対策を講じて、今後に生かして欲しい。</p> <p>③総合博物館は、魅力ある観光施設でもあり、そのような視点で情報発信に取り組むことが大切である。観光協会においては、企画展、イベントなどの情報の掲載が可能なことで、積極的な情報提供をお願いしたい。</p> <p>④夏休み前の児童・生徒対象のチラシ(もって目立つもの)を作成して、「博物館講座」に、たくさんの方の人数を呼び込めないか…。内容がすばらしいので、もったいないと思う。</p> <p>⑤様々な広報媒体を活用した情報発信に積極的に取り組んでおり、昨年度は目標値には達していないものも多い入館者になるなどの一定の成果に結びついていた。特に、個人での入館者が増加しており、きめ細やかな情報発信を行った効果が表れている。今後は、評価指標の目標値を実績が下回った「報道処理」に力を入れ、一層の情報発信の充実を図って欲しい。</p> <p>⑦ホームページの充実についてはアクセス数が大幅に目標値を上回っている。更新回数が増えたこと、画面が見やすく、努力のあとがうかがえる。</p>
	報道処理・情報提供件数	年120件	64件	・博物館ホームページへのアクセスは、年720,028件となり、昨年度より4万件以上増え、目標値を達成できた。これは、更新回数が増えたこと、さらにはSNS (Facebook、Twitter) において、特別展や講座の様子、季節ごとの情報などを発信でき、情報発信手段として定着してきたことが要因と思われる。・SNSではタイムリーで博物館の身近な話題提供などを積極的にを行い、Facebookでは年間230件、Twitterでは年間257件の投稿を行う事ができた。今後も効果的に活用していきたい。	4		
②ホームページの充実	更新回数	月5回	月26.9回	・博物館ホームページへのアクセスは、年720,028件となり、昨年度より4万件以上増え、目標値を達成できた。これは、更新回数が増えたこと、さらにはSNS (Facebook、Twitter) において、特別展や講座の様子、季節ごとの情報などを発信でき、情報発信手段として定着してきたことが要因と思われる。・SNSではタイムリーで博物館の身近な話題提供などを積極的にを行い、Facebookでは年間230件、Twitterでは年間257件の投稿を行う事ができた。今後も効果的に活用していきたい。	3		
	アクセス件数	年500,000件	720,028件				

(6) 経営

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見
①博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集回数	年2,000件	2,584件	・アンケートの収集件数については、強化期間の回数を増やし、回収に努めたことにより、目標値をクリアすることができた。また、本館サービスに対する満足度も85.4%となり、目標を達成できた。 ・今後もアンケートの積極的な回収に努め、利用者の意見を館の運営に活かしていく。	3	3	<p>①来館者アンケートから、本館のサービスに対する満足度も目標を達成しており、努力がうかがえる。今後さらに、さまざまな年齢層のアンケート並びに回数を増やして、運営の改善に活かして欲しい。</p> <p>②アンケートの結果、満足度が85.5%であったことは、素晴らしいことである。</p> <p>③来館者へのアンケート調査については、利用者のニーズ把握をはじめ事業改善の貴重なデータとなるため、データの精度を高めるためにも、目標値を上回る修正などし、回収件数の更なる増加に努めて欲しい。</p> <p>また、満足度に関する項目では、「満足していない」と回答した人の理由を聞くなど、要因分析ができるような質問項目の設定に工夫をして欲しい。</p> <p>④専門的な知識を備えた学芸員であるので、一層研修を深めて欲しい。そのことが入館者の満足度を高めたことについていく。</p> <p>⑤展示解説員を含めたすべての職員が、評価につながると思われるので、様々な機会を捉えて、職員の質の向上に努めていただきたい。</p>
	満足度	70%	85.4%				
②職員の資質の向上	—	—	①基本研修 ②県外研修等 ③展示解説員研修	・全職員を対象とした基本研修では、コンプライアンス、危機管理、理等について、4月、9月に実施するとともに、3月には学芸員職員による調査研究報告会を研修の機会とし、年3回実施した。県外研修として、関係職員が学芸員専門研修アドバンスコース、技術研修会等に参加した。 ・展示解説員の研修として、宮崎市・川崎市・木城町の自然や史跡を見学するなど、各職員が様々なケースに適正に対処できるような環境づくりに努めた。 ・今後も引き続き館内外の研修の機会を確保し、職員の資質向上に努める。	3		
	防災訓練	年2回	3回	・4月に全職員を対象とした危機管理マニュアルに関する研修及び放水訓練を実施、9月は「防災の日」に合わせ日向灘沖を震源とする震度5強の地震及び火災を想定した避難訓練を実施、1月には民家園において宮崎北消防署・消防団及び理職文化財センター分館職員と合同で「文化財防災デー」に合わせた防火訓練を実施するなど、職員の危機管理意識やスキルを維持・向上を図った。 ・今後も、利用者の「安全」「安心」の確保のため、危機管理体制の強化に努める。	4		

(7) 全体を通じての意見

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見
全体							<p>①令和を迎え、博物館本体の建て替えを検討されるべき時期にあるのではないかと、貴館は平成のリニューアルから20年余、建設からほぼ50年を経過し、老朽化した設備があらごちらにみられ、資料の保存管理や展示にも支障が生じることを懸念している。県の財政は厳しいが、必要性を主張しないと建て替えは叶わないと予想されるので、提案しておきたい。</p> <p>②評価にあたり数値目標を掲げることには意義ある項目と、そうではない項目があると思う。また、評価活動はシムブルにされることを希望する。 ③入館者の利用団体を見ると、年々高齢者(施設等)が多くなっていると思う。転倒事故(段差)に十分気を付けて欲しい。</p> <p>④とくに、北郷町の山あいの集落に暮らす人びと、あるいは、深夜の国道10号線を行き来するトラックドライバーたちは博物館の存在を脳裏に浮かべることがあるだろうか、と考える。あらゆる人が来館の対象者だとするくらい、幅広く来館者を想定して運営していくことが肝要と考える。そう一点で、最近開かれた総博の高校野球球展は層の広がりを意識した万人向けの事業といえる。外部を巻き込んで開催した「あーおもしろい」という点で、総博の古くからの活動は万人向けの事業といえる。総博で始まった「とくに、来館してほしかった」と思う。来館したくなる展示に知恵を絞って、情報発信に人手をささぎ、安心安全に心がけて、これからはいよいよ空間をつくりだしていただきたい。</p>

(休館日)

第8条 総合博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。)
- (3) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで
- (4) 特別整理期間(あらかじめ、館長が定めて公示する期間)

2 館長は、必要があると認めるときは、臨時に前項各号に掲げる休館日に開館し、又は開館日に休館することができる。

(施設の使用申込み)

第9条 特別展示室を利用しようとするものは、使用期日の30日前までに、特別展示室使用申請書(別記様式第1号)を提出して、使用許可を受けなければならない。

(使用許可)

第10条 前条の規定による使用許可は、特別展示室使用許可書(別記様式第2号)を当該申請者に交付して行うものとする。

2 次の各号のいずれかに該当するときは、使用を許可しない。

- (1) 使用申請書の内容に偽りがあるとき。
- (2) 公の秩序又は風俗を乱すおそれがあるとき。
- (3) 館内の施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (4) 集团的又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれのある組織の利益になると認められるとき。
- (5) その他管理運営上支障があると認められるとき。

(使用者の遵守事項)

第11条 使用を許可されたものは、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 許可された使用の目的又は条件に違反しないこと。
- (2) 公の秩序又は善良の風俗を乱さないこと。
- (3) 館内の施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められる行為をしないこと。
- (4) 他人の迷惑となるような行為をしないこと。
- (5) その他条例、規則及び館長の指示に従うこと。

(許可の取消し等)

第12条 使用者が第10条第2項各号のいずれかに該当するに至ったとき、又は前条の規定に反する行為があるものについては、特別展示室の使用許可を取り消し、又は使用を中止させることができる。

2 前項の取消し等によって使用者に損害が生じても、県は、その損害の賠償の責は負わないものとする。

(使用後の検査)

第13条 特別展示室の使用を終えて原状に回復したものは、直ちに、館長に報告して検査を受けなければならない。

(入館制限等)

第14条 館長は、総合博物館の管理運営上支障があるとき、その他入館しようとする者が次に掲げる行為をするおそれがあると認められるときは、入館を制限し、又は拒絶することができる。

(1) 総合博物館における秩序又は風紀を乱す行為

(2) めいてい等により公衆に迷惑をかける行為

### (3) 宮崎県博物館協議会条例

平成15年9月26日

宮崎県条例第43号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、宮崎県総合博物館に宮崎県博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、宮崎県総合博物館及び県立西都原考古博物館の運営に関し、宮崎県総合博物館及び県立西都原考古博物館の各館長の諮問に応ずるとともに、当該各館長に対して意見を述べる機関とする。

(組織)

第2条 協議会は、委員20人以内で組織する。

(委員)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、県教育委員会が任命し、又は委嘱する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

4 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、それぞれ委員の互選によってこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、宮崎県総合博物館において処理する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則 (抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成15年11月1日から施行する。

(協議会の委員に関する経過措置)

3 この条例の施行の際現に前項の規定による改正前の宮崎県総合博物館条例第6条に規定する委員に任命され、又は委嘱されている者は、第3条第1項の規定により任命され、又は委嘱されたものとみなす。この場合において、当該委員の任期は、第3条第2項の規定にかかわらず、平成16年7月25日までとする。

附 則 (平成24年3月29日条例第32号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

#### (4)宮崎県総合博物館管理運営規則

昭和46年3月2日  
教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県総合博物館（以下「総合博物館」という。）の管理運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第2条 総合博物館は、その目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史・民俗・自然科学及びその他の資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 歴史・民俗・自然科学の展覧会、講習会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (3) 歴史・民俗・自然科学の資料の専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (4) 特別展示室を、県民の文化活動に使用させること。

(組織)

第3条 総合博物館に、次の課を置く。

総務課

学芸課

(分掌事務)

第4条 前条の各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- (1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
- (2) 予算の執行及び決算に関すること。
- (3) 文書の收受、発送及び保存に関すること。
- (4) 公印の管守に関すること。
- (5) 施設、設備の管理運営に関すること。
- (6) 宮崎県博物館協議会に関すること（宮崎県博物館協議会条例（平成15年宮崎県条例第43号）第6条に規定する協議会の庶務及び総合博物館の運営に関することに限る。ただし、委員の任免を除く。）。
- (7) その他館務に関し、他課の所管に属さない事項に関すること。

学芸課

- (1) 資料の収集、整理、保管、修理及び展示に関すること。
- (2) 資料に関する標本、模写、模型、写真、文献、図表、フィルム及びレコード等の作成に関すること。
- (3) 資料の利用及び展示品の解説並びに指導に関すること。
- (4) 展覧会、講習会、研究会を主催し、及びその開催を援助すること。
- (5) 展示及び保管の専門的、技術的な調査、研究に関すること。
- (6) その他学芸又は文化に関する他の博物館との連携及び情報交換に関すること。

(職の設置)

第5条 総合博物館に、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
館長	館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副館長 (2人)	館長を補佐し、館長に事故があるとき、又は館長が欠けたときは、その職務を代行する。
課長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
学芸員	上司の命を受けて、資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主事	上司の命を受けて、事務に従事する。
専門技師	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする技術に従事する。
主任技師	上司の命を受けて、複雑な技術に従事する。
技師	上司の命を受けて、技術に従事する。

2 前項に規定する副館長の職務の担当区分は、一人を統括とし、他を業務担当とする。

3 第1項の規定により副館長が館長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

第1順位 統括の副館長

第2順位 業務担当の副館長

4 第1項に規定する職のほか、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
参事	上司の命を受けて、総合博物館の特定の事務を掌理する。
主幹	上司の命を受けて、総合博物館の特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする総合博物館の特定の事務を掌理する。
副主幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は総合博物館の特定の事務を掌理する。
主査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

5 第1項に規定する館長の職は、非常勤とすることができる。

第6条 前条に規定する職のほか、技術員を置く。

2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間)

第7条 総合博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。

2 館長は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

図書資料複写申込書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住所  
申請者 氏名  
〔 法人にあっては、主たる事務所の所在地  
及び名称並びに代表者の氏名 〕

下記注意事項を遵守し、図書の複写を申請します。

複写目的	調査・研究（ ）	
図 書 資 料 名	複 写 箇 所	
※ 合 計	枚 数	金 額

- (注) 1 図書資料の複写は、著作権法（昭和45年法律第48号）の規定に抵触しない限りにおいて行います。  
2 ※印のある欄は、記入しないでください。

2 入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 前項第1号及び第2号に掲げる行為をしないこと。
- (2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められる行為をしないこと。
- (3) 許可なく展示品に触れたり、写真撮影、模写等をしないこと。
- (4) 指定する場所以外において喫煙又は飲食をしないこと。
- (5) その他関係条例、規則及び総合博物館の係員の指示に従うこと。

3 館長は、入館者が前項の規定に違反したときは、退場を命ずることができる。

(資料の館内利用)

第15条 資料を学術上の研究のため特に利用しようとするものは、館長の承認を受けなければならない。

(図書資料の複写)

第16条 図書資料の複写は、著作権法（昭和45年法律第48号）第31条の規定に基づき、利用者の調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分について行うものとする。

2 図書資料の複写を依頼しようとする者は、図書資料複写申込書（別記様式第3号）を館長に提出しなければならない。

3 次に掲げる図書資料は、複写しないものとする。

- (1) 技術的に複写が困難な図書資料
- (2) 複写することによって損傷のおそれのある図書資料
- (3) 前2号に掲げるもののほか、館長が複写することを不相当と認めた図書資料

4 複写物の利用による著作権法上の責任は、当該複写物の提供を受けた者が負うものとする。

第17条 前条の規定により、図書資料の複写を依頼しようとする者は、当該図書資料の複写に要する費用を負担しなければならない。

2 前項の図書資料の複写に要する経費は、次の表に定める額とし、同費用は前納しなければならない。

区 分	単 位	金 額
電子複写（単色のもの）	複写1面につき	10円

(資料の館外利用)

第18条 資料の館外貸出しを受けようとするものは、資料館外貸出承認申請書（別記様式第4号）を提出し、館長の承認を受けなければならない。

2 前項の資料の館外貸出しを受けることのできるものは、次のとおりとする。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣又は県教育委員会が指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校
- (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が定めるもの
- (6) その他教育長が相当と認めるもの

3 前項の貸出期間は、30日以内とする。ただし、館長が特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

4 前項の規定にかかわらず、館務の都合により必要があるときは、資料の貸出期間中であっても、当該資料の返還を求めることができる。



(弁償)

第19条 入館者、使用者又は利用者が、資料、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、館長の指示に従い、現品又は相当の代価をもって弁償しなければならない。

(資料の選定及び評価)

第20条 資料の選定及び評価に当たっては、埋蔵文化財価格評価員に関する規程(昭和44年3月15日文化庁長官裁定)に準じ学識経験者の意見を徴することを原則とする。

(資料の寄贈又は寄託)

第21条 資料を寄贈又は寄託しようとする者は、資料寄贈、寄託申込書(別記様式第5号)により申請しなければならない。

2 前項の寄贈又は寄託が決定したときは、寄贈者又は寄託者に資料受領・預書(別記様式第6号)を交付するものとする。

3 寄贈資料は、寄贈者の氏名、寄贈年月日を記録し、永くその厚志を伝えるものとする。

4 寄託資料は、総合博物館所蔵の資料と同一の取扱いをするものとする。ただし、天災その他不可抗力によって生ずる損害については、補償の責を負わないものとする。

5 寄託資料は、寄託者の申請又は総合博物館の都合により返却することができる。

(委任)

第22条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則 (抄)

(施行期日)

1 この規則は、昭和46年3月2日から施行する。

：

附 則 (平成23年7月21日教育委員会規則第5号)

この規則は、平成23年8月1日から施行する。

様式第1号(第9条関係)

特 別 展 示 室 使 用 申 請 書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住 所

電 話

フ リ ガ ナ  
申請者 氏 名

性別(男・女)

生年月日 年 月 日

〔 法人にあっては、主たる事務所の所在地  
及び名称並びに代表者の氏名 〕

関係条例規則を遵守しますので、下記のとおり使用を許可されるよう申請します。

記

行 事 の 名 称					
使 用 の 日 時					
使 用 の 区 分					
使 用 の 目 的					
共 催 者					
入 場 料 等	関係者 整理券 無料 有料( 円)				
内 容					
※ 許 可	第 号 年 月 日				
※ 使 用 条 件	宮崎県総合博物館特別展示室利用の手引きによる				
館 長	副 館 長	課 長	担当リーダー	※ 使 用 料	特 別 展 示 室

(注) 申請者が法人にあっては、別紙「役員名簿」を提出してください。

ならない。この場合において、寄託資料又は著作権のある資料の館内利用をしようとする者は、寄託者又は著作権者の承諾書を添えて提出しなければならない。

3 民家資料の利用は、利用期日の10日前までに「民家資料利用承認申請書」（様式第2号）に利用計画書を添付し提出しなければならない。ただし、写真撮影等軽微なものについてはこの限りでない。

4 民家資料の利用承認は、「民家資料利用承認書」（様式第3号）を交付し、「民家資料利用受付台帳」（様式第4号）に記録する。

（館内利用時間）

第4条 利用時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、規則第8条の規定による休館日は除く。

（館内利用の制限）

第5条 館長は、規則第15条の承認を行うにあたり、次の各号の一に該当しないと認める場合に承認するものとする。

- (1) 申請書の内容に偽りがあると認められるもの
- (2) 展示又は保存上支障があると認められるもの
- (3) 寄託者又は著作権者の承諾が得られていないもの
- (4) 公の秩序又は風俗を乱すおそれがあると認められるもの
- (5) 火気の使用（但し、館長の許可を受けた場合を除く）及び営利活動に該当すると認められるもの
- (6) その他館内利用が適当でないと認められるもの

（館内利用者の遵守事項）

第6条 利用を承認された者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 承認された利用の目的又は条件に違反しないこと
- (2) その他館長の指示に従うこと

2 前項の規定に反する行為がある者については利用を取り消し、又は中止させることができる。

3 取り消し等によって利用者に損害が生じても、県はその損害の賠償責任を負わないものとする。

（館内利用の場所）

第7条 資料の館内利用は、館長が指定した場所で原則として博物館職員立会の下に行うものとする。

（館内利用資料の返還）

第8条 資料の館内利用をしたものは、博物館職員による検査を受けた上で、当該資料を返還しなければならない。

（館内利用に要する費用）

第9条 資料の館内利用に要する費用は、利用した者が負担するものとする。

（館外利用承認）

第10条 館長は、規則第18条の規定により資料の館外貸し出しを承認するときは、必要な条件を付するものとする。

2 規則第18条で規定する学校が、資料の貸出しを受けようとするとき、館長が事前に決裁したリストにある資料については、学芸課長の決裁で貸出しできるものとする。

3 寄託資料又は著作権のある資料（複製をする場合に限る）の館外貸出しを受けようとする者は、「資料館外貸出承認申請書」（宮崎県総合博物館管理運営規則様式第6号）に寄託者又は著作権者の承諾書を添えて提出しなければならない。

4 第5条、第6条、第8条及び第9条の規定は、資料の館外貸出しについて準用する。

様式第4号（第18条関係）

資料館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

申請者 住所  
氏名

印

品 名	数 量	形 状	許 可 条 件	備 考

上記申請のあった館外貸出について承認します。

年 月 日

宮崎県総合博物館長



資料 寄贈 申込書  
寄託

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住所

氏名

印

次の目録に記載の資料を貴館に寄贈  
寄託 したいので、申込みいたします。

目 録

品 名	数 量	形 状	解 説

(5) 宮崎県総合博物館処務規程

昭 和 55 年 3 月 31 日

教育委員会教育長訓令第 4 号

(報告)

第 1 条 館長は、遅滞なく、次に掲げる事項を教育長に報告しなければならない。ただし、第 2 号に掲げる事項については、翌月の 10 日までに報告しなければならない。

- (1) 総合博物館の臨時の開館日又は休館日及び開館時間の臨時の変更に関する事。
- (2) 毎月の博物館資料の利用状況及び事業概要に関する事。
- (3) 博物館資料の受託及び返還状況に関する事。

(防災計画)

第 2 条 館長は、年度始めに防災計画を作成し、その概要を計画書（別記様式）により、4 月末日までに教育長に提出しなければならない。

附 則

この訓令は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 19 年 10 月 1 日教育委員会教育長訓令甲第 3 号抄）

(施行期日)

- 1 この訓令は、公表の日から施行する。

(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱

平成 3 年 3 月

館 長 裁 定

(趣 旨)

第 1 条 この要綱は、宮崎県総合博物館管理運営規則（昭和 46 年宮崎県教育委員会規則第 4 号、以下「規則」という。）第 22 条の規定により宮崎県総合博物館（以下「博物館」という。）所蔵の資料（以下「資料」という。）の取り扱い等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定 義)

第 2 条 この要綱において規則第 15 条に規定する「資料の館内利用」とは、博物館内における資料の調査又は複製（図書の複写、写真撮影を含む。以下、同じ。）並びに文化財としての民家資料の利用（民家園全体も含む）をいい、規則第 18 条に規定する「資料の館外利用」とは、博物館外における資料の展示、調査又は複製をいう。

(館内利用承認)

第 3 条 館長は、次に掲げるものに、必要な条件を付して規則第 15 条の規定による館内利用を承認するものとする。なお、図書資料については、承認を要しない。

- (1) 教育、学術又は文化に関する事業の用に供することを目的とする国、地方公共団体及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 30 条に規定する教育機関
- (2) その他館長が特に必要があると認めるもの

- 2 資料の館内利用をしようとする者は、「資料館内利用承認申請書」（様式第 1 号）を提出しなければ

# 民家資料利用承認申請書

令和 年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

申請者	住所	
	団体名	
	(代表者) 氏名	印
	電話 ( )	

下記のとおり利用を承認されるよう申請します。

行名の名称	
利用目的	(事業計画書等添付)
利用期間	令和 年 月 日 時 分 から 令和 年 月 日 時 分 まで
利用区分	A・旧黒木家 B・旧藤田家 C・米良の民家 D・椎葉の民家 E・建物を除く敷地
利用予定者数	主催者数 ( ) 人 参加者数 ( ) 人 合計 ( ) 人
チラシ配布・看板設置	する しない (図案、計画書等添付)
利用承認条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 利用の目的、条件に違反しないこと。</li> <li>2 館長の指示に従うこと。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・開始前及び終了後は博物館へ必ず報告し、終了後は検査を受け、原状に回復すること。</li> <li>・展示、建物の保存に影響を及ぼす行為をしないこと。</li> <li>・公の秩序又は風俗を乱す行為をしないこと。</li> <li>・火気の使用及び営利活動をしないこと。</li> <li>・建物内での飲食は事前に許可を受けること。</li> <li>・監視員を必要とする場合は利用者が手配し配置すること。</li> <li>・看板、チラシ、照明器具を設置するときは博物館の許可を得て設置すること。</li> <li>・大声をあげたり、大きな音を出したりしないこと。</li> </ul> </li> <li>3 規定に反する行為があるものは利用を取消し又は中止させることができる。</li> <li>4 取消し等によって利用者に損害が生じても県はその損害の賠償責任を負わない。</li> <li>5 不測の事態が生じたときは直ちに博物館へ報告すること。また盗難、事故等には博物館は一切責任を負わない。</li> <li>6 その他 ( )</li> </ol>

この場合において、これらの規程中「館内利用」とあるのは「館外貸出し」と読み替えるものとする。

(複製物の掲載等の許可)

第11条 館長は、資料の利用者が、資料の複製物を展示し、又は出版物等に掲載しようとするときは、次に掲げる条件を付して許可するものとする。

- (1) 複製物の著作権は、博物館に帰属させること
  - (2) 複製物を展示し、又は出版物等に掲載するときは、「所蔵者名」を明記すること
  - (3) 出版物等に掲載したときは、その状況を館長に報告すること
- (資料受入委員会の設置)

第12条 寄贈及び寄託による資料の受入れの事務を円滑かつ適正に行うために、博物館内に「資料受入委員会」(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会は、館長及び副館長のほか、館長が指名した博物館職員をもって構成する。  
(資料受入れの決定)

第13条 館長は、規則第21条第1項の規定による資料の寄贈又は寄託の申請があったときは、「資料受入委員会審議資料」(様式第5号)を作成させるものとする。

2 委員会は、「資料受入委員会審議資料」に基づき、当該資料の受入れについて協議するものとする。

3 館長は、前項の協議に基づき、当該資料を受入れるかどうかの決定をするものとする。  
(寄贈資料等の管理)

第14条 館長は、寄贈資料又は寄託資料を受入れたときは、台帳に登録し、管理するものとする。

2 館長は、寄贈者に対し礼状等を贈り、感謝の意を表するものとする。

3 寄託資料の寄託期間等必要な事項は、寄託者と協議の上、定めるものとする。  
(資料の廃棄)

第15条 館長は、次に掲げる場合に限り、資料を廃棄できる。

- (1) 破損等により資料価値を失ったもの
  - (2) その他廃棄が相当と認められるもの
- (その他)

第16条 この要綱に定めるもののほか、事務処理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成3年4月1日から適用する。

：

附 則

この要綱は、令和元年7月18日から適用する。

**(7) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱の運用**

宮崎県総合博物館資料取扱要綱第16条に基づく資料の館内利用の取扱いについては、以下のとおりとする。

**1 第3条（館内利用承認）について**

民家資料の利用については、次のとおりとする。

- (1) 対象者  
個人又は団体（法人格の有無を問わない）
- (2) 申請内容  
次のいずれかに該当するものとする。
  - ① 伝統文化や民俗の伝承などの事業の実施により、参加者の民家園に対する理解の促進が期待できるもの
  - ② 博物館で実施される事業に関するものなど民家園の啓発に資すると認められるもの
- (3) 利用期間  
民家園は、広く一般県民の利用に供することを目的としていることから、原則として3日以内とする。
- (4) 利用人数  
(3)と同様の理由により、原則として5人以上の利用が見込まれる事業とする。なお、事業への一般来園者の参加の可否を問わない。
- (5) 対象施設  
文化財保護及び一般来園者の見学先の確保の観点から、原則として県指定文化財の2棟のいずれかとする。また、利用人員や事業内容から判断して、必要最小限の棟又は間の利用を認めるものとする。
- (6) 飲食  
申請書の利用承認条件「建物内での飲食は事前に許可を受けること」については、次のとおりとする。
  - ・ 飲食物については、事業内容に伴い必然性のあるものに限る。
  - ・ 火気による調理は不可（料理の持ち込み及び電気調理器による加温は可）。また、飲食物をこぼして畳を汚した場合は、利用者において直ちに拭き取ることとし、利用によって原状に回復し得ない損害が生じた場合は、利用者が賠償責任を負うものとする。
- (7) その他
  - ・ 民家園の適切な利用と利用方法の周知のため、事業を公開するものとする。

**2 第5条（館内利用の制限）について**

第5号中「営利活動に該当すると認められるもの」について、事業実施に当たり実費程度の徴収を行うものは、営利活動には該当しない。

様式第1号

資料館内利用承認申請書

令和 年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住所

申請者

氏名

印

資 料 名	
利用日時	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで
利用目的	
利用内容	1 閲覧のみ      2 筆写      3 模写      4 拓本(乾・湿) 5 撮影(写真・ビデオ)      6 コピー      7 法量測定 8 その他( )
許可条件	1 利用にあたって、鉛筆以外の筆記用具は使用しないこと。 2 当該資料については、無断で他への転用をしないこと。 3 複製物を展示し、又は出版物等に掲載するときは、所蔵者名を明記すること。 4 出版物等に掲載したときは、その状況を館長に報告すること。 5 その他( )

上記申請のあった館内利用について承認します。

令和 年 月 日

宮崎県総合博物館長 印

<令和元年度 利用案内>

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 ○毎週火曜日（ただし8月13日は開館）  
○国民の祝日の翌日  
（土曜日、日曜日又は休日と重なるときを除く、ただし3月22日は開館）  
○年末年始（12月28日～1月4日）  
○特別整理期間（6月10日～14日）  
○燻蒸による臨時休館（9月2日～13日）  
※民家園は9月13日～19日休園  
○館内メンテナンス期間（1月20日～1月28日）

入館料 無料（平成17年4月1日より）  
※なお、特別展示会の観覧料はその都度定めます。

**宮崎県総合博物館年報 No.49**

発行 令和2年4月1日

編集・発行者 **宮崎県総合博物館**

〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号

TEL 0985(24)2071

FAX 0985(24)2199

<http://www.miyazaki-archive.jp/museum/>

印刷 ワークステーション やじろべえ

〒880-0951 宮崎市大塚町権現前 874 番地 1

TEL 0985-48-2720